

# Ceramics found Archaeological sites on the Northern parts of Oman Gulf

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2017-10-02 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: メールアドレス: 所属:
URL	<a href="http://hdl.handle.net/2297/3855">http://hdl.handle.net/2297/3855</a>

## オマーン湾岸北部地域の遺跡出土陶磁器

### Ceramics found from Archaeological sites on the Northern parts of Oman Gulf

佐々木 達夫, Tatsuo SASAKI

#### はじめに

遺跡から発掘された陶磁器すなわち考古学陶磁器は遺跡の年代を明らかにするばかりでなく、当時の社会や生活、貿易を復元する資料としても意義がある。いわゆるイスラーム陶器は遺跡出土品を見ると概説本や展覧会図録に描かれた既製イスラーム陶器の概念からかなり異なることも判明してきた<sup>1</sup>。歴史の実態を反映する遺跡ごとの出土品データベース作製は地域史研究の考古学基礎資料として重要である。こうした観点から本稿はオマーン湾岸北部地域の遺跡から発掘されたイスラーム陶器を紹介し資料化することが目的である。

扱う遺跡はムサンダム半島の東側地域であり、北から南に順にディバ、ルリーヤ、キドファ、マドハ、グラット、シーブ、コリア、フジェイラ、コールカルバ、内陸地域の北から順にアル・ハラ、サラ、マサフィ、ビスナ、ファルフアル、アル・ヘイル、ワジ・サファド、オワラである。遺跡の踏査及びその後の遺跡発掘によって得られた、オマーン湾岸北部遺跡及び出土陶磁器の歴史的意義、発掘成果についてはすでに述べた<sup>2</sup>。その際、ページ数の制約で写真紹介しなかった資料、その後発見された資料を中心に陶磁器のみを本稿で紹介する。現在、マドハはオマーン王国、その他の遺跡はアラブ首長国連邦のフジェイラ首長国、シャルジャ首長国に属する。ただしディバはオマーン、シャルジャ、フジェイラ3国に分かれる。主要な遺跡であるコールファッカン<sup>3</sup>の砦遺跡、町跡については現在発掘調査中であり、出土資料数が多いためここでは取りあげない。また、カルバ出土品については次の機会に譲る。

#### 取りあげる主な陶磁器

本稿で取りあげるオマーン湾岸北部の遺跡及び筆者が調査したペルシア湾岸の遺跡から出土する陶磁器に関する主な問題点は以下の諸点である。1) ササン朝からウマイヤ朝時代の陶器の実態と編年、遺跡限定性の確認。2) アッバース朝時代の陶器の年代と組み合わせ、遺跡拡散の推定。3) 13世紀末の青釉陶器と黄釉陶器、それぞれの生産地の推定と確認。4) 14世紀後半から15世紀前半の白濁釉陶器、青釉陶器、青釉下黒彩陶器、年代と生産地の推定。5) 16世紀から18世紀頃の施釉陶器、遺跡の少なさの理由追求、編年確立と生産地推定。6) 19世紀頃の施釉陶器、

<sup>1</sup> 佐々木達夫, 2005 「ペルシア湾岸遺跡出土の陶磁器」 『東洋陶磁』 34:13-30.

<sup>2</sup> 佐々木達夫, 2005 「アラブ首長国連邦オマーン湾岸の遺跡時代町跡」 『金沢大学文学部論集史学・考古学・地理学篇』 25:39-192. 佐々木達夫・佐々木花江, 2006 「フジェイラ首長国のイスラーム時代遺跡踏査」 『金大考古』 52:6-15. 佐々木達夫・佐々木花江, 2006 「マサフィ砦の発掘と保存修復」 『金大考古』 53:6-17.

<sup>3</sup> 佐々木達夫, 佐々木花江, 2006 「ポルトガルが襲った中世港町遺跡 コールファッカンの発掘2001～2005年」 『今よみがえる古代オリエン特・第13回西アジア発掘調査報告会報告集』 80-84.

年代と生産地の確定。

ササン朝からウマイア朝時代の陶器はペルシア湾岸のハレイラ島遺跡Hulaylah D地域出土品が伝える<sup>4</sup>。メソポタミア産の緑釉陶器や無釉土器、現地産の無釉土器が多い。メソポタミアの Stamped 文やHoney comb文のある大型無釉土器壺、現地産の無釉黒色土器が特徴的な出土品である。以前はササン朝を代表する土器として遺跡年代を決める資料であったが、ハレイラ島出土品からササン朝末期あるいはウマイア朝の年代資料となることが推定された。オマーン湾岸で出土する例は少なく、遺跡の限定性すなわちササン朝からウマイア朝の植民地的居留地的港町に特有の特徴を示している。

アッバース朝陶器はサマラ出土品で代表されるが、その種類と分類は正しく認識されていないため検討し紹介した<sup>5</sup>。アーリA'Ali (Bahrain) 遺跡の出土陶磁器は9世紀の青緑釉陶器と白濁釉陶器が主であるが多彩釉陶器は11世紀に盛行することを示している<sup>6</sup>。ハレイラ島のA地域とB地域の遺跡は9～10世紀のアッバース朝陶器が主となる港町に関連する遺跡である<sup>7</sup>。ジュメイラ Jumeirah (Emirates of Dubai) は9～10世紀の陶磁器が主であるが、11世紀、18～19世紀の出土品も同じ地区内、それも同じ建物内でさえ見られる<sup>8</sup>。

ルリーヤLuluyah Fort (Emirates of Sharjah) は出土した中国青磁から推定すると13世紀末から14世紀初めの限定された遺跡であり、イラン緑釉陶器とイラン青釉陶器の碗鉢が多く、次はイエメン黄釉陶器碗鉢碗で、中国の青磁、白磁、黒褐釉陶器もある<sup>9</sup>。この時代の様相を伝える組み合わせを伝え、その前後の陶磁器の組み合わせと分類が可能となる。ジュルファールJulfar (Emirates of Ras

<sup>4</sup> 佐々木達夫,酒井中,楠寛輝,1998「画像処理法によるハレイラ遺跡火災倉庫出土陶器の産地推定」『日本文化財科学会第15回大会研究発表要旨集』162-163. 佐々木花江,佐々木達夫,2001「サーサーン朝後期ハレイラ島出土陶器の産地」『第8回ヘレニズム～イスラーム考古学研究会』36-49.

<sup>5</sup> 佐々木達夫,1995「1911-1913年発掘のサマラ出土陶磁器分類」『金沢大学考古学紀要』22:75-165.

<sup>6</sup> Sasaki, T., 1990, Excavation at A'Ali -1988/89-, Proceedings of the Seminar for Arabian Studies, Vol.20, 111-129. Sasaki, T., Uchida, T., Koezuka, T., Ninomiya, S., Osawa, M., Yamasaki, K., 1993, Technical Studies on the White-glazed Sherds Excavated from the Archaeological Site, A'Ali in Bahrain, Proceedings of the Japan Academy, 69, Series B; 35-38. Sasaki, T., Shirahata H. and Yamasaki, K., 1994, Lead Isotope Ratios of the White Glazes of the Sherds Excavated at A'Ali, an Archaeological Site in Bahrain, Proceedings of the Japan Academy, 70, Series B: 1-3. T. Sasaki, T. Uchida, T. Koezuka, S. Ninomiya, H. Shirahata, H. Sasaki and K. Yamasaki, 1994, Technical Studies on the White-glazed Shards Excavated from A'Ali in Bahrain, Bulletin of Archaeology, The University of Kanazawa, 21: 126-136.

<sup>7</sup> Sasaki, T., 1995, 1994 Excavations at Jazirat al-Hulaylah, Bulletin of Archaeology, The University of Kanazawa, 22: 1-74. 佐々木達夫,佐々木花江,2000「ハレイラ島の発掘—1998年—」『金沢大学考古学紀要』25:118-169. 佐々木達夫,佐々木花江,1999「ハレイラ島の発掘調査-1998年度-」『第6回西アジア発掘調査報告会・報告集』109-113. 佐々木達夫,1998「湾岸の交易都市—ハレイラ遺跡—」『平成8年度・古代オリエン特世界を掘る』古代オリエン特博物館,84-90. 佐々木達夫,1997「湾岸の交易都市—ハレイラ遺跡—」『第4回西アジア発掘調査報告会』古代オリエン特博物館,36-37.

<sup>8</sup> 佐々木花江,佐々木達夫,2002「ジュメイラ遺跡2002年」『第9回ヘレニズム～イスラーム考古学研究』85-95.

<sup>9</sup> 佐々木達夫,2005「ルリーヤ砦出土13世紀末のイスラーム陶器」『西アジア考古学』6:151-165. 佐々木達夫,2004「ルリーヤ砦出土13世紀末の陶磁器組合せ」『日本西アジア考古学会第9回総会・大会要旨集』日本西アジア考古学会, 45-48. 佐々木達夫,佐々木花江,2002「ルリーヤ砦の構造と出土品」『平成13年度第9回西アジア発掘調査報告会報告集』日本西アジア考古学会, 55-57. 佐々木達夫,佐々木花江,2002「オマーン湾岸のルリーヤ砦」『平成12年度第8回西アジア発掘調査報告会報告集』日本西アジア考古学会, 92-96. 佐々木花江,佐々木達夫,2000「アラビア半島シャルジャ酋長国のルリーヤ砦」『第7回ヘレニズム～イスラーム考古学研究会』70-78.

al-Khaimah) は14世紀中頃から15世紀中頃までの陶磁器が出土した海岸の港町遺跡である<sup>10</sup>。イランの青緑釉陶器、白濁釉陶器、土器、中国の染付と青磁、ミャンマーの青磁、現地産の土器と彩文土器が上層の出土品で、下層は中国青磁、イランの緑釉陶器と白濁釉陶器、現地産土器が主となる。ペルシア湾貿易の考古学資料として価値が高い。

コールファッカンKhorfakkan Fort (Emirates of Sharjah)、Khorfakkan town site (シヤルジャ首長国) は14～15世紀の中国青磁や染付、ミャンマー青磁が出土し、16～17世紀の陶磁器は少ないが、18世紀から継続的にイスラーム陶器が出土する<sup>11</sup>。ビスナBithna (Emirates of Fujairah) は11-12世紀頃から18-19世紀頃の陶器が出土する。コールカルバKhorKalba (Emirates of Sharjah) は18～20世紀の陶器が出土する。フジェイラFujairah (Emirates of Fujairah) は18～19世紀の陶器が出土している。ハムリアHamriyah (Emirates of Sharjah) は18～19世紀頃の陶器が出土する。その他の山間部の遺跡から出土する陶磁器はほとんどが土器であり、施釉陶器は少なく、海岸部の遺跡と比較すると中国陶磁器は少なくなる。

ペルシア湾岸の遺跡出土施釉陶器はササン朝・ウマイア朝・アッバース朝時代にはメソポタミア産が多く、その後の時代にはイラン産の施釉陶器が主となる。出土量が多い土器はウマイア朝・アッバース朝時代にはメソポタミアから施釉陶器とともに運ばれたが、その後はイランやアラビア半島で作られ、周辺地域の土器も搬入された。イラン産土器は現代でもアラビア半島に輸入される。9世紀以降のイスラーム時代遺跡では中国陶磁器が発見され、14世紀以降に東南アジア陶磁器も含まれ、13世紀後半から中国陶磁器の出土量が多くなる。しかし詳細に見ると、出土する陶磁器の種類や組み合わせは遺跡ごとに特徴や変化が見られ、村跡や山間部での出土量は少なく海岸部港町からは多く、各遺跡出土のイスラーム陶器を地域史生活史復元研究資料とする意義が感じられる。こうした地域、オマーン湾岸北部地域の遺跡出土陶磁器の特徴を資料化する。

<sup>10</sup> 佐々木達夫,2006「ジュルファール出土陶磁器の重量」『金沢大学文学部論集史学・考古学・地理学篇』26:51-202. 佐々木達夫,佐々木花江,2005「発掘資料解釈と景観復元によるジュルファールの都市的性格検証」『オリエント』48-1:26-48. 佐々木達夫,2005「ジュルファールの都市性(研究発表要旨)」『オリエント』47-2:176-177. 佐々木達夫,1994「アラビア湾のイスラーム港湾都市ジュルファール遺跡1993年発掘」『平成5年度西アジア史研究のデータベース化に関する総合的研究』クバプロ,41-49. 佐々木達夫,1994「アラビア湾のイスラーム港湾都市ジュルファール遺跡1993年発掘」『平成5年度西アジア史研究のデータベース化に関する総合的研究』クバプロ,41-49. 佐々木達夫,1994,1993 Excavations at Julfar, Bulletin of Archaeology, The University of Kanazawa, 21: 1-106. T.Sasaki, T.Koezuka, S.Ninomiya, M.Aboshi, M.Osawa, T.Uchida, H.Sasaki and K.Yamasaki, 1994, Technical Studies on the Ceramics Excavated from Julfar in Ras Al-Khaimah, Bulletin of Archaeology, The University of Kanazawa, 21: 107-125. Sasaki, T.,1993 Excavations at Julfar in 1992 season, "Bulletin of Archaeology, The University of Kanazawa", 20:45-49. Sasaki, T., and Sasaki, H.,1992, Japanese Excavations at Julfar—1988,1989,1990 and 1991 Seasons—, Proceedings of the Seminar for Arabian Studies, 22:105-120. 佐々木達夫,1990「海のシルクロード遺跡ジュルファール」『文明発祥の地からのメッセージ』クバプロ,88-91. 佐々木達夫,1990「海のシルクロード遺跡ジュルファール」『文明発祥の地からのメッセージ』クバプロ,202-212. Sasaki, T.,1991, Vietnamese, Thai, Chinese, Iraqi and Iranian Ceramics from the 1988 Sounding at Julfar, Al-Rafidan, XII:205-220. 佐々木達夫,1990「アラビア湾へ運ばれた陶磁器」『陶説』448, 15-19.

<sup>11</sup> 佐々木達夫,佐々木花江 2006「ポルトガルが襲った中世港町遺跡 コールファッカン発掘2001～2005年」『今よみがえる古代オリエント・第13回西アジア発掘調査報告会報告集』80-84. 佐々木達夫,佐々木花江,2003「オマーン湾岸のコールファッカン砦」『平成14年度今よみがえる古代オリエント・第10回西アジア発掘調査報告会報告集』日本西アジア考古学会、86-90.

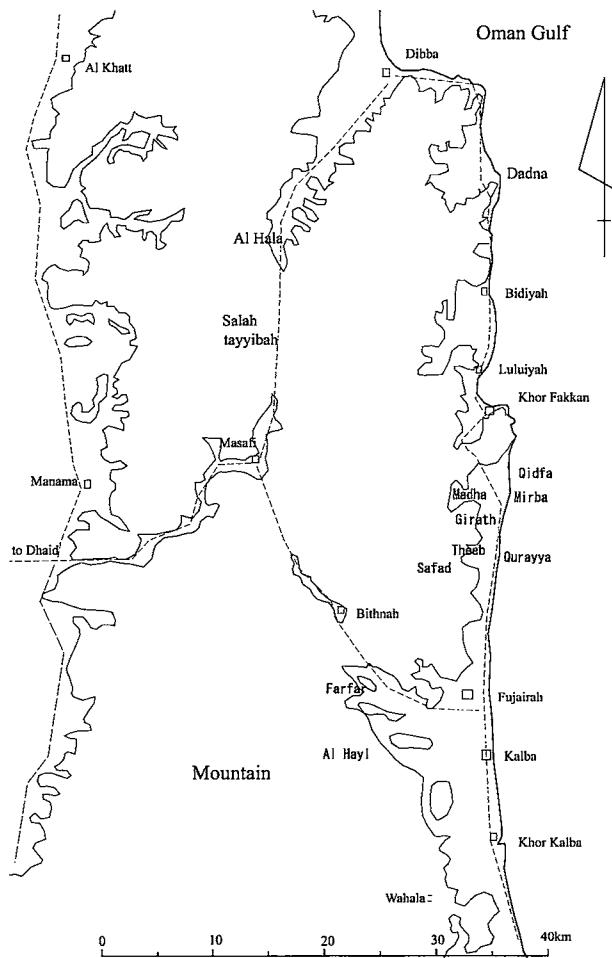
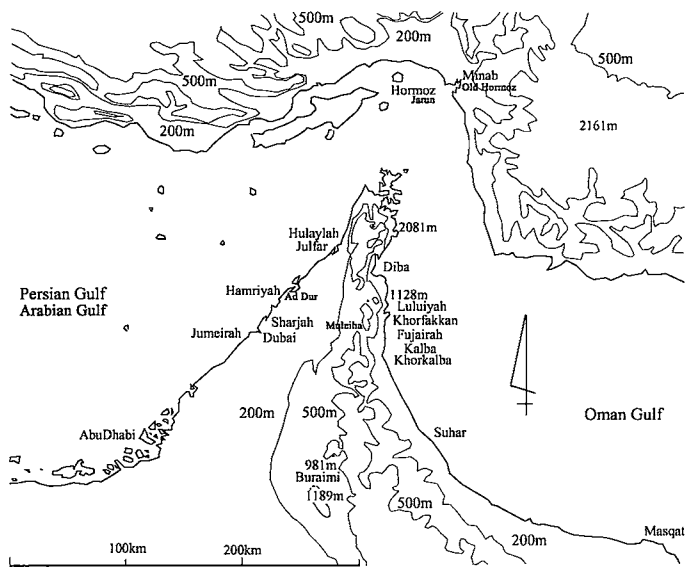


Figure 1 オマーン湾岸北部地域の遺跡

## ディバDibba

フジェイラ首長国のディバに広がる農園に接して泥レンガ積みのFortが残り、18～19世紀のコールカルバと同じ時代の陶器片が表採された。1994年のシャルジャ首長国内ディバ踏査で宋代青磁や14世紀の中国青磁を発見したが、その後は数カ所で比較的新しい陶磁器を採集する程度であった。2004年12月、シャルジャ首長国内で中国の青磁や染付が散布する遺跡を踏査した。1994年踏査で陶磁器片が散乱するマウンドを見つけた地点に接するワディ内農園のなかにある。2004年時点では畑となるが、地表面に陶磁器片が散布している。位置はN25,36,37, E56,15,45である。中国の青磁や染付、ミャンマー青磁などを表面採集した。地元農民は以前マウンドがあったが、削平されたという。すでに遺構が破壊されて残らない可能性があるが、2006年末に試掘する予定である。採集品はミャンマー青磁盤、中国青磁碗盤、中国白磁、中国染付、イスラームの青釉陶器鉢、青釉下褐彩陶器鉢、褐釉陶器鉢、土器である。

海岸に沿って警察署があり、その裏に砦Fortと呼ばれる小丘に石積み階段の痕跡が残り、地表面には14世紀の中国青磁から最近までの陶磁器片が散らばる。中国青磁碗、中国染付。ヨーロッパ陶器の色絵、染付。砦を中心としてディバの町が広がることがわかる。

砦の北側には現在のマーケットがあり、その付近からも近世の陶磁器が家建築工事のたびに採集されている。中国染付碗鉢18～19世紀、中国色絵碗、ヨーロッパ陶器の染付、色絵皿、オランダ製品が主。マサフィ砦出土品とほぼ同じ種類の組み合わせである。イスラームの青緑釉陶器、淡青釉下黒彩陶器、褐釉陶器、土器。

砦から徒歩数分の距離でヘレニズム時代の墓が発見され、2004年にシャルジャ博物館が発掘した。墓に隣接した部分でも住居跡が発掘され、18～20世紀の陶磁器が出土した。1片であるが、14世紀の中国竜泉窯青磁蓮弁文碗も出土している。

## キドファQidfa町跡

キドファはコールファッカンの南山裾に位置し、第1地点は1975年にイラク隊が発掘した石積み基礎家跡が残り、北緯25°17'47"東経56°21'51"である。近くの小丘上に塔が見える。完形の出土品はフジェイラ博物館に展示されている。無釉土器でクッキングポット、蓋、鉢、把手付瓶、瓶がある。クッキングポットはいずれも深めで胴部中央に最大幅があり、19世紀と推定されるマサフィ砦出土品と同型式である。第2地点は海水淡水化工場と水パイプライン設置に伴う試掘が行われた平坦地であるが、すでに工場建設で採集品はない。第3地点は丘上の石積み基礎の塔跡である。北緯25°18'20"東経56°21'40"に丘があり、土器が僅かに見られる。キドファFortと旧モスクはすでに撤去され新たに大モスクが建設され、採集品はない。

## マドハMadha採集イスラーム陶器

キドファ南の海岸の町ミルバMirbaに流れるワジ・マドハを遡ると、山越えてマサヒィとビスナの間に出る。マドハにはコールファッカンの及びキドファから人が集まる。マドハよりワディを遡った山に住む人は自給自足なので海岸の町と交流が少ない。マドハは現在オマーン領である。

地元の古物愛好家Mohammed bin Salimがマドハで採集した陶磁器片を2005年5月に見学した。オマーン湾岸北部地域では9世紀から13世紀のイスラーム陶器を遺跡で発見することは希であった。アッバース朝陶器9～10世紀の青緑釉陶器大瓶・碗がこの地域にもあることを確認できたことは意義がある。インド洋貿易でこれまでに各地で発見された状況と同じ歴史をもつ地域であることが推測される。

青緑釉陶器大瓶、鉢、クリーム黄色素地、メソポタミア、9世紀。緑釉下白化粧土刻線文陶器鉢、黄釉下白化粧土刻線文陶器、淡ピンク素地、イラン、13世紀。中国青磁碗盤、14～15世紀。緑釉陶器鉢、イラン、14～15世紀。褐釉陶器鉢、瓶、オマーン、16世紀以降。ミャンマー青磁盤、15世紀。ミャンマー白濁釉陶器盤、16世紀。中国染付鉢、18～19世紀。16世紀以降のイスラーム陶器、淡青釉下黒褐彩陶器鉢、瓶、イラン、18～19世紀。透明釉下コバルト彩陶器碗、ストーンペイスト、イラン、18～18世紀。ムサングダム半島リマの彩文土器瓶、香炉、クッキングポット、大瓶。土器大瓶、大壺、現地産及びバハラ・オマーン。土器瓶壺、イラン。色絵陶器鉢、染付鉢、18～19世紀、オランダ。

**グラットGirathth家跡** グラット跡は平坦地に接する小丘上に石積み基礎が残る。イスラーム時代の陶磁器片が採集された家跡である。丘下で北緯25°15'10"東経56°25'56"であり、丘は東側にある。

**シーブTheeb** シーブ町も旧町が廃墟となり、住民は新町に移住した。旧町はまだ家の天井や壁が残る部分があり、夏用の家も当時の面影を残している。土器片が少し落ちている。

**コリアQurayya Fort塔跡** コリアQurayyaにはFortが残る。塔と家の跡の位置は北緯25°14'05"東経56°21'03"である。土器片が少し落ちている。

### ルリーヤ Luluyyah

オマーン湾岸を見下ろす小丘上の砦である<sup>12</sup>。1994年及び1997年にルリーヤ砦・A地区とルリーヤ家跡・B地区で採集した陶磁器は年代と種類が異なるため、地区を分けて報告する。2000年から始めた発掘調査で出土した陶磁器は後半で紹介する。

#### 1997年A地区（ルリーヤ砦）採集品

採集した陶磁器片は小袋1つ分である。

黄釉下白化粧土上刻線文陶器。碗、胴部片。Pale pink fabric with white and red inclusions, soft. Interior; yellow glaze on incised white slip. Incised lines appeared black. Exterior no slip and unglazed. Decoration technique is similar with Sgraffiato of the 12th and 13th centuries. Iran. Similar sherd was found from layer 1

<sup>12</sup> 佐々木達夫, 2005「ルリーヤ砦出土13世紀末のイスラーム陶器」『西アジア考古学』6:151-165. 佐々木達夫、佐々木花江, 2002「ルリーヤ砦の構造と出土品」『平成13年度第9回西アジア発掘調査報告会報告集』55-57. 佐々木達夫、佐々木花江, 2002「オマーン湾岸のルリーヤ砦」『平成12年度第8回西アジア発掘調査報告会報告集』92-96. Sasaki, T. & Sasaki, H., 2001, Excavations at Luluyyah Fort, Sharjah, U.A.E., "Tribulus" 11-1:10-16. 佐々木達夫、佐々木花江, 2001「イスラーム時代の交易を探る：シャルジャ首長国、ルリーヤ遺跡の第1・2次発掘調査」『西アジア考古学通信』10:5-6. 佐々木花江、佐々木達夫, 2000「アラビア半島シャルジャ首長国のルリーヤ砦」『第7回ヘレニズム～イスラーム考古学研究』70-78.

of Mound 1, area C, in Jazirat al-Hulaylah.

褐釉陶器。瓶、胴部片。Pale pink fabric with red inclusion, soft. Width of wall is thin. Exterior brown glaze and incised horizontal lines. Interior iron slip. 12th-14th centuries? Arabia?

白濁釉上緑彩陶器。碗、底部片。Sherd of rough cut concave base. Base diameter 6.5 cm. Yellow fabric, soft. Interior painted green cross lines on white glaze. Spur marks. Exterior unglazed. 12th-13th centuries.

Made in Iran.

黄釉上褐彩陶器。碗、底部片。Fine pink fabric with white and small red inclusions. Base diameter 8.0 cm. Interior brown painted lines on yellow glaze. Exterior unglazed. Foot ring was made by left turn wheel. 13th century.

黄釉上褐彩陶器。碗、胴部片。Fine pink fabric with black, red and white inclusions. Interior brown painted line on yellow glaze. Exterior unglazed. 13th century.

緑釉下白化粧土陶器。碗、口縁部片。Pale pink fabric, soft. Interior green glaze on white slip. Exterior no slip and unglazed. 13th centuries? Made in Iran?

緑釉陶器。碗、口縁部片。Mouth diameter 20.0 cm. Pale pink fabric with red inclusion, soft. Interior shallow curved line under pale green glaze. Exterior unglazed or peeled off. 13th centuries? Made in Iran. 緑釉陶器。

碗、口縁部片。Yellow fabric, soft. Interior glaze peeled off. Exterior pale green glaze. 13th centuries? Made in Iran.

緑釉陶器。碗、口縁部片。Pale pink fabric. Interior green glaze d. Exterior green glazed upper parts, unglazed lower parts. 14th centuries? Made in Iran?

緑釉陶器。碗、底部片。Base diameter 9.0 cm. Rough cut base. Yellow/pale pink fabric with small black inclusion. Interior dark green glazed. Spur marks. Exterior unglazed. 13th-14th centuries. Made in Iran?

無釉土器。Cooking jar. Sherd of carinated mouth. Red fabric with black and red inclusions. Surface red and inside gray. Mouth diameter; 30.0cm. Incised line on rim. Exterior shallow curved line and polished surface. 13th-15th centuries? Pakistan?

無釉土器。Cooking jar. Sherd of carinated mouth. Red fabric with black and red inclusions. Mouth diameter; 30.0 cm. Exterior applied line and blackened by carbon. Pakistan?

無釉土器。壺。Sherd of carinated mouth. Pink fabric with black and red inclusions. Mouth diameter; 16.0 cm. Rim and interior painted red slip. Exterior no slip. Pakistan?

無釉土器。壺。Sherd of carinated mouth. Red fabric with red, black and white inclusions. Mouth diameter; 14.0 cm. Incised line on rim. Pakistan?

無釉土器。瓶、口縁部。Yellow fabric with red, black and white inclusions. Mouth diameter; 14.0 cm. Local?

無釉土器。瓶、把手片。Yellow fabric. Applied decoration.

1994年B地区（ルリーヤ砦）採集品

農園と山裾の間の家跡付近で採集した陶磁器片は小袋1つ分であり、無釉土器が多く施釉陶器は少ない。

緑釉下白化粧土上刻線文陶器・スグラヒアトSgrafiato。鉢、口縁部片。Pink fabric, hard. Mouth diameter; 33.5 cm. Interior incised lines on white slip and underglazed. Exterior without slip and decoration and unglazed. 13th century. Made in Iran.

青緑釉陶器。鉢、底部片。Yellow fabric, soft. Base diameter; 12.0 cm. Green colour glaze. Left turn wheel made. Interior green glazed, smooth. Exterior unglazed. 15th century? Made in Iran?



淡緑釉陶器。碗、底部片。Yellow fabric with large black and small red inclusions. Base diameter; 7.2 cm. Left turn wheel made. Interior green speckled glaze. Exterior unglazed. 15th to 17th century?. Made in Iran?

オリブ緑釉陶器。鉢、口縁部片。Gray fabric, hard. Mouth diameter; 23.0 cm. Right turn wheel made. Interior and exterior glazed thinly and speckled. Rough wheel traces remain exterior surface. 17th or 18th centuries? Made in Northern Oman?

中国青磁。碗、口縁部片。Whitish gray fabric, hard. Mouth diameter; 18.5 cm. Interior and exterior incised lines and glazed. Early half of the 14th century. Made in China. 中国青磁。瓶、底部片。Whitish gray fabric, hard. Ring base diameter; 4.7 cm. Left turn wheel made. Base made used left turn wheel. Vertical nine lines (six lines remain) were put from exterior and made bridge interior. Interior and exterior glazed except ring base. 12th-14th centuries. Made in China.

中国藍釉磁器。碗、底部片。Grayish white fabric, hard. Ring base diameter; 5.5 cm. Interior glazed transparent, exterior glazed cobalt dark blue. Ring base unglazed. 18th or 19th centuries. Made in China.

白化粧土上赤彩文土器。瓶、口縁部片。Painted red earthenware, Coarse red/black fabric. Mouth diameter; 12 cm. Exterior painted red on white slip. Interior without slip. Made in Ras al-Khaimah. 白化粧土上赤彩文土器。壺、口縁部片。Painted red earthenware, Coarse red/black fabric with black, red and white inclusions. Jar. Mouth diameter; 21 cm. Exterior painted red on white slip. Interior without slip. Made in Ras al-Khaimah.

無釉土器。壺、口縁部片。Red fabric with small sized inclusion. Mouth diameter; 21 cm. Interior surface rouge and painted red. Only the exterior surface became black.

無釉土器。瓶、口縁部片。Fine pinkish red fabric. Mouth diameter; 17 cm. Interior and exterior both coated with white slip. The ware of this kind has incised decoration on the body.

無釉土器。壺、口縁部片。Coarse red fabric. Mouth diameter; 24.5 cm. Interior coated with whitish slip. Exterior coated reddish slip.

無釉土器。鉢、口縁部片。Greenish yellow fabric with large black inclusion. Mouth diameter; 28 cm. Large black inclusion on the surface.

無釉土器。鉢、底部片。Coarse greenish yellow fabric with red and white inclusions. Base diameter; 8.0 cm. Left turn wheel made. Base made used right turn wheel. There is one small hole in the centre.

無釉土器。小碗、口縁部片。Pink/black fabric. Mouth diameter; 11.5 cm. Carinated rim inside. Mouth of interior and exterior smoothed by fingers. Rough surface under mouth. Local? 無釉土器。碗、口縁部片。

Coarse red/black fabric with black and white inclusions. Mouth diameter; 32 cm. Interior surface smoothed by fingers and red colour. Exterior rough surface and black. Local? 無釉土器。鉢、口縁部片。Coarse red fabric with black inclusion. Mouth diameter; 18 cm. Interior painted thin red slip. Exterior rim smoothed by finger. Local?

無釉土器。碗、口縁部片。Coarse red/black fabric with large sized black inclusion. Mouth diameter; 17.5 cm. Interior surface smoothed by fingers and painted red. Exterior rough surface. Local?

採集した陶磁器は釉、素地、装飾によって次のように分類することができる。主要な年代は13世紀後半から14世紀前半であるが、家跡地区は時代が下るものが多い。

スグラヒアトIncised on white slip and under yellow glazed ware (Sgrafiato), pink and pale pink fabric. 13th century. 青緑釉陶器Blue-green glazed ware, Yellow fabric, harder than Sasanian and Abbasid blue-green ware fabrics. 青釉陶器Blue glazed ware, yellow fabric. 緑釉陶器Light green glazed ware, yellow fabric. 緑釉陶器Green glazed ware, yellow fabric. 緑釉陶器Green glazed ware, pale pink fabric. 緑釉陶器Green glazed ware, yellow/pale pink fabric. 青緑釉陶器Blue/green glazed ware, yellow fabric. 青緑釉陶器Blue/green glazed ware, pink fabric. オリーブ緑色釉陶器Olive green glazed ware, red/grey fabric. 褐釉陶器Brown glazed ware, yellow fabric. 褐釉陶器Brown glazed ware, yellow coarse fabric. 褐釉陶器Brown glazed ware, red/grey fabric. 褐釉陶器Brown glazed ware, pale pink fabric. 黒褐釉陶器Brown black glazed ware, grey fabric. 黄釉褐彩陶器Brown painted on Yellow glazed ware, fine pink fabric. 白濁釉緑彩陶器Green painted on White glazed ware, yellow fabric. 白濁釉黒彩陶器Black painted on white glazed ware, pink/yellow fabric. 刻線文無釉土器Incised earthenware, yellow fabric. 刻線文無釉土器Incised earthenware, fine pink fabric. 刻線文無釉土器Incised earthenware, fine pinkish red fabric. 刻線文無釉土器Incised earthenware, white surface, Fine pinkish red fabric. 白化粧土上赤色彩文土器Painted red earthenware, white slip, and coarse red/black fabric. 赤色彩文土器Painted red earthenware, coarse red fabric, black surface. 無釉土器Earthenware, light pink fabric. 無釉土器Earthenware, fine pinkish red fabric. 無釉土器Earthenware, pink fabric. 無釉土器Earthenware, red fabric. 無釉土器Earthenware, coarse red fabric. 無釉土器Earthenware, coarse red/grey fabric. 無釉土器Earthenware, coarse red/black fabric. 無釉土器Earthenware, yellow fabric. 無釉土器Earthenware, coarse yellow fabric. 無釉土器Earthenware, coarse greenish and yellow fabric. 中国青磁Chinese green ware (celadon), 中国藍釉磁器Chinese cobalt blue glazed ware.

#### 2000年表採品

第1次発掘調査時に砦が築かれた小丘急斜面の岩面上で遺物採集を行った。陶磁器片、石製品、ガラス片、その他の少量であるがさまざまな物が発見された。無釉の土器片が大量に落ちており、採集した土器片の総量は324.9kgであった。土器に次いで数が多い表面採集品は施釉陶磁器である。多くはイランから運ばれたと思われる、破片量は?Kg(data lost)であった。重量のある石製品は播石upper grinding stones and lower plate for grindingと回転播石upper and lower mortar/millの2種類があるが、点数は十数点ほどでそれほど多くない。中国陶磁器も発見された。ガラス容器片やガラス・バングル、及び小さな装飾品等も採集できた。魚骨、鳥骨、動物骨、貝殻もかなりの量が採集できた。これらの採集品の年代と砦の使用年代は、採集された中国陶磁器から推定することができる。青磁と白磁は多くが13世紀後半から14世紀初頭に属し、大部分が13世紀第4四半期に生産されたものである。採集品は居住した人々の食生活や日常生活等を復元する資料となる。

第2次発掘調査の発掘区画内から出土した遺物は、陶磁器については表面採集品の半分ほどであるが、骨等は表面採集品よりも多い。発掘区域トレンチから出土した土器は181kgである。出土品の種類や傾向は表面採集品とほぼ同じである。堆積土の上層から下層まで、どの地点でも魚骨、動物骨、鳥骨、貝殻が出土する。土器片もどの層からも出土する。施釉陶器は数量が少ない。ガ

ラス・バングルも各地点から発見される。しかし、ビーズなどはほとんど発見されず、十数点ほどであった。

階段上部の石段面には10cmから15cmほど堆積土があり、石段面に緑釉陶器碗(LLY-IW033)や中国青磁蓮弁文碗、コバルト青色ガラス・バングル、蛤、帆立などの貝殻、魚や動物の骨が発見された。そのうち、陶器碗、青磁碗、バングル、貝殻の出土状況写真を撮影した。どの地点でも同様の状態で遺物が堆積土中から出土している。

陶磁器は釉の種類、素地(胎土)、装飾によって分類する。緑釉陶器と青釉陶器が最多である。青釉陶器のいくつかは釉下に黒色の装飾が描かれる。黄釉下黒彩文陶器と黄釉陶器は青・緑釉陶器に次いで多い。中国陶磁器の数量は少ないが、決して希なものでもない。土器あるいは無釉土器は廃棄量をもっとも多いものである。陶磁器は種類ごとに分類し、器種ごとに口縁部、胴部、底部に分けて、破片数と重さを計測した。発掘区域及び採集品の陶磁器総重量は565kg、そのうち中国陶磁器は2.3kg(破片数37)で0.45重量%、イスラーム施釉陶器は40.6kg(破片数3244)で重量7.18%、イスラーム無釉土器は522kgで92.41重量%を占める。土器を除いた中国陶磁器とイスラーム施釉陶器の重量比率は5.4%と94.5%、破片数比率は1.1%と98.9%である。

#### イスラーム施釉陶器

イスラーム施釉陶器は出土した陶磁器のなかで重量が7.53%を占める。土器を除いた施釉陶磁器のなかでイスラーム施釉陶器が占める重量割合は94.82%である。中国陶磁器を除いたイスラーム施釉陶器のなかでもっとも多いのは青・緑釉陶器で重量は78.29%を占め、碗鉢が主である。青釉陶器には釉下黒彩文が描かれるもの、釉下刻線文様があるものが含まれる。次は黄釉陶器で、重量はイスラーム施釉陶器のなかで17.77%を占め、碗鉢が主である。黄釉陶器には釉上に褐色と緑色で彩文されるもののがかなりある。青・緑釉陶器も黄釉陶器もわずかだが瓶盤等もある。その他の種類は重量全部を併せても4%ほどの少量だが、多彩釉白化粧土上刻線文陶器(スグラヒアト)、藍、緑、黒色を別々に用いた透明釉下彩画陶器や白濁釉陶器、色絵(上絵)陶器(ミナイ)がある。

青・緑釉陶器は青緑釉陶器、青釉陶器、緑釉陶器、淡緑釉陶器、灰緑釉陶器等に分けられる。素地は淡紅色素地が79.98重量%、黄色素地が8.05重量%、淡紅黄色素地が4.44重量%、黄色/淡紅色素地が0.51重量%、紅色素地が0.07重量%である。素地の色は紅色が8割を占め、1割ほどが黄色、残りが中間的な色である。これらの青・緑釉陶器のなかで重量は碗鉢が92.72%、瓶が4.80%、壺が4.75%、盆が1.47%、盤が0.95%である。青・緑釉陶器の碗鉢がイスラーム陶器の大部分を占める器種であり、その素地は多くが紅色である。装飾される割合は少ないが、釉下刻線文、釉下黒彩文、素地上盛り上げ等が見られる。Blue-green glazed ware青緑釉陶器. Yellow fabric黄色素地, harder than Sasanian and Abbasid blue-green ware fabrics. Blue glazed ware青釉陶器. Yellow fabric黄色素地. Light green glazed ware淡緑釉陶器. Yellow fabric黄色素地. Green glazed ware緑釉陶器. Yellow fabric黄色素地. Green glazed ware緑釉陶器. Pale pink fabric淡ピンク色素地. Green glazed ware緑釉陶器. Yellow/pale pink fabric黄色/淡ピンク色素地. Blue/green glazed ware青/緑釉陶器. Yellow fabric黄色素地. Blue/green glazed ware青/緑釉陶器. Pink fabricピンク色素地。

黄釉陶器は黄釉下に褐彩で弧状線が描かれるものが多い。素地は紅色が92.17重量%、黄色が7.22重量%、淡紅色が0.62重量%で、紅色が大部分を占める。器種は碗鉢と皿が主で、大形は折縁となり、数量は少ないが瓶もある。褐彩と緑彩の2色で装飾したものもあるが、2彩装飾品は少ない。やや淡い紅色の素地に、金色に光る小さな雲母がわずかに混じるのが9割を占める素地の特徴であり、産地を知る手がかりとなる。Yellow glazed ware/ Brown painted on Yellow glazed ware黄釉陶器。Fine pink/red fabricピンク/赤素地。Dishes and large bowls are dominated. Bowls and Jars are also existed. There are sherds decorated brown and green but they are very rare. Olive green glazed wareオリーブ緑釉陶器。Red/grey fabric赤/灰色素地。

釉下刻線文陶器スグラフィアトは多彩釉がなく、黄釉と緑釉の2種類である。素地上に白スリッパを掛けるので、黄釉下白スリッパ上刻線文陶器と緑釉下白スリッパ上刻線文陶器に分けられる。Incised on white slip and under yellow glazed ware (sgrafiato)。Pink and pale pink fabricピンク色素地と淡ピンク色素地。13世紀であろう。

褐釉陶器は緑色がかかる褐釉で、黄色素地、黄色粗質素地、赤/灰色素地、淡紅色素地、灰色素地などがある。釉に緑色が混じらず、褐釉よりも黒褐釉陶器と分類できる釉発色もある。いずれも瓶壺の類で、碗鉢はない。Brown glazed ware茶褐釉陶器。Yellow fabric黄色素地。Brown glazed ware茶褐釉陶器。Yellow coarse fabric粗い黄色素地。Brown glazed ware茶褐釉陶器。Red/grey fabric赤/灰色素地。Brown glazed ware茶褐釉陶器。Pale pink fabric淡ピンク色素地。Brown black glazed ware黒褐釉陶器。Grey fabric灰色素地。

白釉、白濁釉、透明釉の陶器。白釉陶器釉上緑彩は黄色素地である。白釉陶器釉上黒彩は紅/黄色素地である。透明釉下に装飾した陶器は3種類があり、透明釉下コバルト青色彩陶器、透明釉下褐彩陶器、透明釉下青・緑彩陶器である。Green painted on White glazed ware透明白釉陶器。Yellow fabric黄色素地。Black painted on White glazed ware透明白釉陶器。Pink/yellow fabricピンク/黄色素地。

以上の陶器は素地が粘土であるが、stone pasteと呼ばれる石英を主とする素地の陶器も3種類ある。青釉下黒彩陶器は淡いピンク色素地で、重さ0.5gである。透明釉下黒彩陶器は白色素地で、重さ1gである。色絵陶器は12gである。3種類を合わせた重量はイスラーム施釉陶器のなかで0.03%ときわめて珍しいものである。数少ない珍奇な品、美しい色彩の品である。色絵陶器は白色素地であり、コバルト青色、褐色、黒色の上絵装飾がある。

補修孔のある施釉陶器片もある。黄釉陶器、黄釉刻線文陶器、緑釉陶器の3片のみを示したが、いずれも孔に鉄を通して割れた破片を固定している。当時の補修技術を示している。

イスラーム施釉陶器で轆轤成形の際の痕跡が見えるものは、いずれも成形が轆轤左回転である。底部の高台削り痕が見えるものは、いずれも轆轤左回転で高台を作りだしている。

ミニイは3片であり、小片のため全体の様を知ることはできない。いずれも草花文あるいは抽象的な文様のようである。人物画は12世紀後半に多く、草花文は13世紀に多くなるようであるが、出土片は13世紀代と推定できる。中国青磁の年代は13世紀後半から14世紀初に生産されたものが大部分である。同時に使用された他の陶磁器もほぼこの年代のものと推定することが可能で

あり、ミナイの年代を考えるうえで重要である。古い時代に作られたものが伝世した可能性は残るが、遺跡の状態から見れば出土ミナイ片は13世紀後半に作られた可能性が高い。

#### 無釉土器

施釉されない土器は出土量がもっとも多い。その多くが壺や瓶であり、岩外の斜面上で採集された。表面採集土器の重さは338.7kgである。そのうち、胴部片は229.65kgであり、これには彩文のある胴部片1.35kgを含む。底部片は48.0kgである。把手部分の破片は31.20kgで、彩文のある破片0.15kgを含む。口縁部片は16.05kgであり、これには彩文のある破片0.05kgを含む。発掘された土器片は181.36kgで、資料として扱った土器片は522.27kgである。土器は陶磁器全体のなかで92.05%の重量を占める。型製土器は黄色素地で瓶がある。刻線文土器は黄色素地、細質紅色素地、細質紅赤色素地がある。表面白色で細質紅赤色素地の刻線文土器もある。赤色彩文土器には表面白色スリップで粗質赤/黒色素地、表面黒色で粗質赤色素地がある。土器の多くは淡紅色素地、淡紅赤色素地、紅色素地、粗質赤色素地、粗質赤/灰色素地、粗質赤/黒色素地、黄色素地、粗質黄色素地、粗質緑黄色素地、黄白色素地などである。黄白色素地の土器はフィルター付瓶のみであり、他の土器と異なる産地と推定できる。

Molded earthenware型製土器. Yellow fabric黄色素地. Vases. Incised earthenware刻線文土器. Yellow fabric黄色素地. Incised earthenware刻線文土器. Fine pink fabric細かいピンク色素地。Incised earthenware刻線文土器. Fine pinkish red fabric細かいピンクがかかる赤色素地。Incised earthenware刻線文土器. white surface. Fine pinkish red fabric細かいピンクがかかる赤色素地。Painted red earthenware赤色彩文土器. White slip. Coarse red/black fabric粗い赤/黒色素地。Painted red earthenware赤色彩文土器. Coarse red fabric粗い赤色素地. Black surface. Earthenware土器. Light pink fabric淡ピンク色素地。Earthenware土器. Fine pinkish red fabric細かいピンクがかかる赤色素地。Earthenware土器. Pink fabricピンク色素地。Earthenware土器. Red fabric赤色素地。Earthenware土器. Coarse red fabric粗い赤色素地。Earthenware土器. Coarse red/grey fabric粗い赤/灰色素地。Earthenware土器. Coarse red/black fabric粗い赤/黒色素地。Earthenware土器. Yellow fabric黄色素地。Earthenware土器. Coarse yellow fabric粗い黄色素地。Earthenware土器. Coarse greenish yellow fabric粗い緑色がかかる黄色素地。

フィルター付瓶。2点出土している。ともに登録している。LLY-E037は黄白色素地の瓶で、頸部が狭くなり、径4.0cmである。上方からスペード形の文様を切り取り、周囲に円を描いている。LLY-E031は黄白色素地で、素地は薄い。エジプトの同時代と比較すると、ペルシア湾及びオマーン湾北部ではフィルター付瓶の使用はきわめて少ないのが特徴となる。

#### 中国陶磁器

中国陶磁器は出土した陶磁器のなかで重量が0.41%を占める。土器を除いた施釉陶磁器のなかでは中国陶磁器が占める重量割合は5.44%である。染付や色絵はなく、青磁、白磁、褐釉の3種類である。

#### 青磁

青磁は13世紀後半から14世紀前半、とくに13世紀末14世紀初の生産年代が推定できる碗と鉢が大半を占める。外面に鎬蓮弁文が施される碗鉢の破片が多い。多くが貿易品として世界各地で出

土する竜泉窯製品であるが、他に少量の他産地の灰色青磁（灰釉陶器）もある。これまで年代が不明であった灰色青磁が遺跡から共に出土した竜泉窯青磁から年代推定が可能となった。

#### 白磁

白磁は型物合子、口禿碗がある。多くが福建省産と推定できる。景德鎮の青白磁皿もある。これらも青磁と同じく13世紀から14世紀初の製品である。

#### 褐釉陶器

褐釉陶器の破片は表面採集、C1区、B1区からの発掘品がある。いずれも小さな破片であり、全形を復元する事はできないが、素地と釉及び器形から壺6個体の破片があると推定できる。壺1はC1区B1区及び表面採集品2片からなる大型耳付壺で、胴部最大径は約40cmである。素地（胎土）は灰色で、黒色や白色の粒を含み、腰部の素地は焼成ではじけている。上方の素地は薄いが、下方は厚くなる。壺2は淡いピンク色の素地（胎土）の口縁部1片である。壺3は胴部片で、素地（胎土）は白茶色、腰部までオリーブグリーンの釉がかかる。壺1と同じ釉と素地（胎土）であるが、焼成温度と作例の違いから別個体と推定できる。壺4は壺3と同じ釉と素地であるが、やや小形であり、釉もオリーブグリーンから茶色に発色している。壺5は灰白色の素地（胎土）で、胴部片。オリーブグリーンが外面と内面にかかる。壺6は口縁部1片と胴部4片で、灰色の素地（胎土）で厚さは薄い。

青磁は碗が1194g、盤が254gであり、碗が盤の数十倍の個数であったことがわかる。青磁は白磁の約7倍の量が出土している。白磁は型物合子、口禿碗が主であり、多くが福建省産と推定できる。数量は少ないが景德鎮の青白磁皿もあり、これも13世紀から14世紀初の製品である。型物合子は高台と口縁部が無釉で、外側面に蓮弁の型文が施されるものが多い。碗の内面に刻線文が施されるものがある。白磁は合子が145g、碗が63g、瓶6gで、合子の個体数が多い。褐釉陶器はいずれも小片で全形の復元は難しいが、壺6個体の破片、重さは671gで、青磁の半分以下の出土量である。褐釉陶器は1個体のわずかな部分のみが採集されているから、青磁や白磁についても採集した破片は廃棄されたものの一部であろう。

イスラーム陶器の年代研究は遺跡との関係及び同じ層位出土品の組み合わせが重要であり、遺跡出土品は貿易を考える資料でもある[佐々木 2002]。ルリーヤ砦は短期間に1軒の家に居住した家族の使用品と推定できるため、年代研究の資料として価値がある。出土した中国陶磁器の年代が13世紀末から14世紀初にほぼ収まることから、同時に出土したイスラーム陶器の年代も同じ頃と推定できる。この時期のイスラーム陶器年代研究に寄与すると同時に、砦内で生活用品として使用した産地の異なるイスラーム陶器の組合せ、及び遠隔地貿易品の占める割合等が研究成果と評価できる。

中国陶磁器の出土割合と青磁、白磁、褐釉の組合せ、及び器種構成はこの時代の貿易品に一般的なものであり、遠距離貿易が広範囲な地域に同質の文化をもたらした例の一つと解釈できる。東南アジアの陶磁器は出土せず、14世紀後半のジュルフェール遺跡出土品と比較しても、この地域はまだ中国陶磁器の独壇場であった時代とわかる。中国陶磁器のなかでは14世紀中頃から増加する染付が見られず、13世紀末から14世紀初の特徴をよく示す組合せの出土品である。

## イスラーム陶器

イスラーム施釉陶器は中国陶磁器の18倍の重量が出土し、生活用飲食陶磁器の95%を占めている。施釉陶器で最多は8割を占める青・緑釉陶器である。黄釉陶器は青釉陶器の1/4ほどである。いずれも碗鉢が多く、盤瓶を含めれば大多数となる。一部に装飾付き製品もあるが、実質的な無装飾の実用品が大部分であり、装飾豊かな陶磁器が窖内に保管されたのは同時期に1個体程度であったと想像できる。黄釉及び緑釉の白化粧土上刻線文陶器、透明釉下に藍彩、緑彩、青・緑彩で装飾した透明釉下彩画陶器、色絵陶器があり、輸入した中国陶磁器と比較的近距离のイラン陶器、及びイエメン陶器を組み合わせた生活用品としての陶磁器、及び少量の装飾施釉陶器を組み合わせた生活様式が見える。イラン高原の装飾施釉陶器stonepaste素地は遠距離貿易で運ばれた中国陶磁器よりも珍奇で高価であったと推定できる。

青・緑釉陶器は前後の時代にも一般的な種類である。さまざまな発色の釉が見られ、素地は淡ピンク、ピンク、ピンク黄色、黄色、及びその中間的な色に分けられる。いくつかの産地に分かれるが、多くはイランの同じ産地から搬入されたようであるが、イランの窯跡と出土品が不明なため産地同定が難しい。器種は碗が87.6%でもっとも多い。壺は6.4%、瓶は3.5%、盆は1.5%、盤は1.0%である。

黄釉陶器は14世紀中頃から居住が始まるジュルファール遺跡では数片のみしか出土せず、15世紀が中心のコールファッカン町跡[佐々木 2005]からは同じ種類の黄釉下褐彩陶器碗片が1点のみ出土している。ルリーヤ窖以後の時代にこの地域の黄釉陶器流通すなわちイエメンとの貿易はほぼ途絶えたことを示している。ジュルファール遺跡に近いクッシュ遺跡では20片出土している[Kennet 2004]。アフリカ東海岸では13～14世紀に広く流通した陶器として知られている[Horton 1996]。黄釉陶器、黄釉褐彩陶器はイエメン産と推定されているが、産地や窯跡についてはなお不明瞭な部分が残る。ルリーヤ窖出土品は13世紀末を中心とするイエメン陶器の型式設定ができると同時に、この時期のイエメンを含む海上貿易のありかたを特徴付ける資料である。

釉下刻線文陶器（スグラヒアト）は9～10世紀のメソポタミア製品と異なるものであり、それ以降に現れる硬質ピンク素地陶器は11～13世紀の年代と推定されている。しかし、多彩釉を用いない黄釉及び緑釉の2種類は13世紀後半まで作り続けられた、あるいはこの時期であるという年代を出土品は示している。

色絵陶器（ミナイ）は3片のみの出土であり、小片のため全体の文様を知ることはできない。いずれも草花文あるいは抽象的な文様のようである。ミナイは12世紀に限られるとも言われるが、人物画は12世紀後半に多く、草花文は13世紀に多くなると筆者は推定しており、出土した色絵片は文様から13世紀代と推定できる。中国青磁の年代は13世紀末から14世紀初が大部分であり、同時に使用した他の陶磁器もほぼこの年代のものと推定できる。イラン高原産のミナイは半世紀ほどの短期間の生産ではなく、年代の下限を広げて考える資料となろう。多量に出土している陶器は時期が限定できるが、破片数が少ない特殊な陶器は古いものが伝世して混じった可能性を否定できない。研究資料の増加が待たれる。

土器は主な用途が貯蔵等の瓶壺、煮炊き用の鍋壺、それに碗鉢である。彩文土器も見られる。

採集した土器片の重量は陶磁器全体の92%を占めるが、この割合は筆者がフスタートやジュルファールなどで計量した数字とほぼ同じであり、西アジアの都市や港町では一般的な例である[佐々木 1995,1993]。土器碗の形はエジプト出土品などと異なり、イランと当該地域アラビア半島の製品が大部分である。フィルター付瓶は土器瓶が2片のみ出土している。14世紀中頃から15世紀中頃にかけてのジュルファール遺跡出土品でも数トンにのぼる発掘陶磁器のなかでフィルター付瓶は数点しか発見されなかったが、その前の13世紀末から14世紀初でもきわめて少ない。黄白色素地瓶E037は頸部が狭くなり径4.0cmで、上方からスぺード形の文様を切り取り周囲に円を描く。黄白色素地E031も瓶で素地は他の土器よりも薄い。いずれも文様は単純である。この2点は他の土器の素地と異なるから搬入品である。エジプトで多く発見されるフィルター付瓶はペルシア湾岸及びオマーン湾岸では例外的なものである。

13世紀末を中心とするイスラーム陶器の研究にたいし、ルリーヤ砦出土品は一つの基準となる成果を提供している。

### フジェイラFujairah

フジェイラ町跡<sup>13</sup>の出土品数量は都市遺跡の発掘と比べれば少量である。土器、施釉陶器、中国染付、ヨーロッパ陶器、青銅製品などが出土した。ワディの氾濫で水平堆積した小石層と粘土層が交互に堆積している。

土器は煮炊き用壺クッキングポットが主となり赤黒色素地が最多で、瓶が主となる刻線文が入るやや硬質の黄色素地が次に多い。赤黒色素地の土器には煮炊き用壺、蓋、水柱（把手付瓶）、壺があり、赤色彩文が施されるものがある。土器ランプもある。黄色素地の土器は胴部で鋭く曲がる形が一般的である。

施釉陶器はイラン産と推定しているやや緑色かかった透明釉下に彩文がある淡青釉下褐彩陶器、オマーン産と推定している褐釉陶器、ヨーロッパ産の施釉陶器、中国の染付、白磁がある。20世紀及び19世紀の陶磁器が主に出土している。施釉彩文陶器は鉢、碗が主で、壺もあり、軟質の黄色素地である。褐釉陶器は鉢、碗、瓶があり、硬質の赤色素地である。ヨーロッパ産陶器はオランダ製が主である。中国陶磁器は染付と白磁、最近の上絵磁器であり、18世紀後半から19世紀の福建省染付碗鉢皿が主である。

トレンチ4第1層からイラン産のstone pasteの透明釉下コバルト藍彩陶器（染付）鉢片が出土している。

なお、フジェイラ町跡に隣接するフジェイラ博物館が所蔵する土器大瓶などの写真を形状を知る参考資料として掲載した。

### コールカルバKhor Kalba町跡

<sup>13</sup> 佐々木達夫,佐々木花江,2005「フジェイラ首長国のフジェイラ町跡」『平成16年度今よみがえる古代オリエント・第12回西アジア発掘調査報告会報告集』日本西アジア考古学会、92-96.



コールカルバ町跡<sup>14</sup>はオマーン湾岸のイスラーム時代後期の町跡遺跡で、北緯25°01'東経56°21'に位置する。コールカルバ町跡はオマーン湾岸に沿う平地にある。アラブ首長国連邦とオマーンの国境に近い地域である。1994年の踏査でイスラーム時代後期の町跡と推定したが、地表面には陶器片も少なく、発掘調査は行わなかった。2001年、周辺の住宅開発が進み、町跡を含む地域にまで住宅が建設される予定となり、シャルジャ博物館のサバは町跡を遺跡として周辺の住宅地から保護することを望んだ。2002年1月15日、サバ、イッサ、佐々木はコールカルバに行き、海岸に建つ古いモスクの内陸側を中心とした地域を遺跡として保護する範囲と決めた。

そのため、この遺跡推定範囲に建物跡やどのような層位があるのか、建物跡があればいつの時代かを調べるため、2003年3～4月に広範囲にトレンチ調査を実施した。このような経緯で発掘をしたが、研究の主目的は古い時代の遺跡を解釈するための比較資料を入手することにあった。

土器片、施釉陶器片、貝殻片、魚骨・動物骨・鳥骨片が主な出土品である。出土地はFort隣接トレンチとHouse発掘区の2カ所に分けられる。ほぼ同じ組み合わせの出土品であり、同じ地域の同じ時代の特徴を示すと判断できる。

Fort隣接トレンチからの出土品。中国染付が3片出土した。17世紀の中国福建省染付碗、及び18～19世紀の染付碗鉢である。ヨーロッパの鉢、イランのストーンペイスト素地の染付鉢の小破片がいずれも1片ずつ出土した。Houseからも18～19世紀の中国染付皿片が出土した。施釉陶器は青色・淡青釉下黒彩文陶器、黄釉陶器、緑釉陶器、褐釉陶器が主である。土器は刻線文土器、彩文土器、無文土器が出土した。刻線文土器は表面が白化粧土され、素地は淡ピンクから黄色である。文様の種類は幾何文や波状文、突き刺し列点文である。ジュルファール遺跡から出土した刻線文土器とは種類と素地が異なるもので、時代が新しいことがわかる。彩文土器はジュルファール遺跡から出土した彩文土器と類似しているが、時代は新しいものであろう。白化粧土した上に赤色彩色したものと、化粧土なしで彩色したものがある。素地は粒混じりの赤色土である。無文土器はジュルファール遺跡から出土した種類と同様の素地を使用している。赤色粗質と淡ピンクの2種類の素地がある。産地の違いを示すのであろう。こうした土器の組み合わせ傾向はジュルファール遺跡出土の土器とほぼ同じものである。継続して生産されていたものを基本的な生活様式が同様であったために使用したのであろう。土器片を円盤状にして中央に孔を空けた土製品がある。紡錘車であろうか。

### アル・ハラAl Halah町跡

アル・ハラはマサヒィとディバの中間に位置し、狭いワディを遡ると数軒の石積み家跡がところどころに残る。ワディ内部の崖下緩い斜面に残る家を撮影する。北緯25°26'57"東経56°09'56"に位置する。いずれも狭い1部屋の家で、2つの立て石の間が出入り口となる。室内壁に棚が2つ

<sup>14</sup> 佐々木達夫、佐々木花江、2004「シャルジャ首長国のコールカルバ町跡—17～19世紀の漁村—」『平成15年度今よみがえる古代オリエント・第11回西アジア発掘調査報告会報告集』日本西アジア考古学会、72-77。佐々木花江・佐々木達夫、2003「物を使用した場所の検討—コールカルバ町跡の景観復元—」『第10回ヘレニズム～イスラーム考古学研究』69-80。

並ぶ家が1軒あるが、他の家は棚がない。棚は石積み壁の石を抜いた状態である。現在は廃墟となる。18～20世紀の遺跡に見られる土器片や中国白磁片が散乱していた。

### サラ—Salah町跡

サラ—SalahはTayyibahから西に狭いワジ・サラ—を遡った山の中に残る石積み家跡である。北緯25°24'46"東経56°10'01"に位置する。北緯25°24'57"東経56°10'02"に位置する。いずれも狭い1部屋の家で、平面形は方形、長方形、楕円形、円形などさまざまな形態がある。起伏に富んだ谷際と山上の両方に家が建てられている。ワディには農園がある。現在は廃墟となる。淡黄釉陶器や土器がみられた。

### マサヒMasafi Fort

北緯25°17'55"東経56°09'31"に農園際に建つ泥レンガ積みの家が廃墟となっている。マサヒの農園際に泥レンガ積みのFortがある。北緯25°17'48"～51"東経56°09'21"～20"に位置する。厚く堆積した泥の山であり、塔部分のみ崩れているが泥積み状態がわかる。塔は円形である。農園を越えた部分に小丘があり、その上に石積み基礎の塔が見える。2005年、泥山で18～19世紀の中国染付片や青釉彩文陶器を採集し、2006年に砦跡を発掘した<sup>15</sup>。

コールカルバ町跡やフジェイラ町跡、コールファッカン砦跡で採集された陶磁器と類似するものが主であり、多くは19世紀前半から20世紀中頃の製品と推定できる。当該地域産と推定される赤色素地の土器鍋（クッキングポット）瓶壺の出土量がもっとも多い。イラン産と推定される土器黄色・ピンク素地の刻線文が入る瓶が次いで多いが量は当該地域産土器に比べると僅かである。イスラーム施釉陶器では淡青釉下褐彩陶器鉢が多く、褐釉陶器碗鉢瓶が僅かにあり、緑釉陶器碗と黄釉陶器碗も僅かだが組み合わせに入る。中国清代の染付碗皿や色絵、ヨーロッパ施釉陶器皿もある。1点ずつであるが、日本の瀬戸色絵磁器皿と印判刷絵碗も出土した。こうした陶磁器の種類と組み合わせ、出土量比はコールカルバ町跡、フジェイラ町跡、コールファッカン砦跡、ハムリヤ町跡とほぼ同じであり、主要年代は同時代である。ただし、コールファッカン砦跡はそれ以前の年代の出土品もかなり含まれている。その他に、青銅コイン、ヤギ・ヒツジの骨、アサリ、ハマグリ、アコヤガイ、魚骨などがいずれも十点以下の数量で出土した。

出土品の年代は中国清代染付とイスラーム淡青釉下褐彩陶器が目立つことから18世紀後半から20世紀中頃であろうと推定できる。表土・上層は20世紀、それより下の層では19世紀の清代染付がみられる。18世紀以前の陶磁器はイスラーム白濁釉陶器数片と青緑釉陶器数片のみであり、14～15世紀のジュルファール遺跡にも類似品がある種類である。中国磁器は18世紀末～19世紀前半の清代染付、19世紀後半～20世紀の染付と色絵磁器があり、16～17世紀に遡る製品はない。ヨーロッパ陶器はオランダ製の色絵陶器鉢が主で19～20世紀。イスラーム陶器おそらくイラン産の緑釉陶器数片と白濁釉陶器数点は18世紀後半から19世紀前半に多い淡青釉下褐彩陶器よりも前の時

<sup>15</sup> 佐々木達夫・佐々木花江、2006「マサフィ砦の発掘と保存修復」『金大考古』53:6-17.

代の陶器で、14～15世紀以降であろうが下限は不明瞭である。ここに記載した年代はいずれも推定年代である。

a. マサヒイ砦中庭のトレンチ出土品 (Figure 7a)。日本磁器の型紙刷絵碗、美濃の19世紀末頃。清代染付仙芝祝寿文端反小形碗口縁部片1、捻れた区画文のなかに崩れた草花文、19世紀前半。清代染付仙芝祝寿文碗底部片1、口縁部片1、区画は直線となり草花文は×文に退化、19世紀後半～20世紀前半。清代染付囀字文碗底部片1、19世紀後半。清代唐花唐草文碗片2、その他清代染付碗片5、赤絵片2。中国白磁型製コーヒーカップ片3、うち1片に金彩、20世紀後半。中国赤色釉上彩磁器皿片2、20世紀。ヨーロッパ陶器はオランダ施釉色絵（赤青緑紫）陶器鉢片8、19～20世紀前半。底部下面にゴム印で銘あり。ヨーロッパ陶器に染付印判片3、染付陶器1。イスラーム施釉陶器は青緑釉陶器鉢片1、赤色素地、15世紀以降。他に類似する破片1。白濁釉下褐彩陶器鉢片1、白濁釉陶器鉢片1、14世紀後半以降。淡緑釉下褐彩陶器鉢片6、18～19世紀。淡白濁釉下褐彩陶器鉢片1、18～19世紀。黄釉陶器碗片1、18～19世紀。当該地域産の土器は赤色素地の鍋が主で赤色彩文があるもの多く、大形壺もあり、18～19世紀が多いか。イラン産の土器はピンク色素地で瓶、表面に刻線文、突刺文、貼付網文があり、18～19世紀。青銅製コイン1、赤色サンゴビーズ1、水晶ビーズ1、石灰岩小形円石花刻線文磨石1。

b. マサヒイ砦北東隅及び周壁外側のトレンチ出土品 (Figure 7b)。清代染付端反小形碗、唐花唐草文、19世紀前半。清代染付囀字文碗口縁部片1、19世紀後半。清代染付碗口縁部片1、19世紀。清代白磁稜花皿1、白磁碗1、20世紀。中国白磁型製コーヒーカップ片1、緑彩、20世紀。ヨーロッパ陶器はオランダ施釉色絵鉢片2、染付皿片1、18～19世紀。イスラーム施釉陶器は黄釉陶器碗片2、緑釉陶器碗片4片、18～19世紀。褐釉陶器瓶片2、19～20世紀。淡緑釉下褐彩陶器鉢片3、青釉下褐彩陶器片1、やや古いか。鉄片、緑色ガラス瓶片1、ハマグリ殻1、アコヤガイ1、動物骨18、ヤギ・ヒツジ歯1。当該地域産土器は赤色素地の鍋が多い。周壁内の東北隅の地表面に近い部分で赤色彩文土器鍋（クッキングポット）1個が出土し、内部に泥が柔らかく堆積しており、中型の魚1匹の歯、脊椎骨数点、鱗が下部に含まれていた。砦跡からは貝殻や動物骨もきわめて少量であるが出土している。フジェイラ海岸からワディを30km遡った砦でも海魚が出土したが、コールカルバ、フジェイラ、コールファッカンなどの海岸の町跡と比較すると、魚と貝殻の出土量はきわめて少ない。

c. マサヒイ砦西側周壁外に隣接するHouse 5及び周辺の出土品 (Figure 8a)。赤色素地土器、瓶壺鍋が多い。清代染付碗底部1、菊花蔓草文、19世紀後半。ヨーロッパ陶器はオランダ製施釉陶器鉢1、底部下面に印判銘あり、18～19世紀。イスラーム施釉陶器は緑釉陶器碗瓶片、淡緑釉下褐彩鉢片、淡緑釉陶器鉢片、計11片、18～19世紀。

d. マサヒイ砦とマサヒイモスクの間の出土品 (Figures 8bcd)。House 6の廃棄品が主であろうが、House 5とマサヒイ砦の廃棄品も含まれる可能性がある。清代染付囀字文碗口縁部片2、渦文、19世紀後半。清代染付梵字文磁器皿片2、内面に棒線にみえる梵字が円形状に数段に並ぶ、19世紀前半。清代染付仙芝祝寿文磁器碗高台部片1、内面中央に渦巻き文、19世紀前半。その他の中国磁器は染付碗片3、白磁碗片3、磁器赤絵片1、19～20世紀。白磁型製コーヒーカップ片3、色絵磁器皿

片2、20世紀。ヨーロッパ陶器はオランダ製で、色絵陶器鉢片2、染付陶器鉢片7、白濁釉陶器皿片1、18～20世紀。イスラーム施釉陶器は白濁釉陶器鉢片1、青釉陶器碗片1、緑釉陶器碗片2、緑釉陶器瓶片1、褐釉陶器鉢片7。淡緑釉陶器下褐彩鉢片6。淡白濁釉下褐彩陶器鉢片1。土器は赤色素地の当該地域産鍋壺が多い。赤色素地上に白泥を塗り赤彩文のある鍋。イラン産土器は瓶でピンク素地、刻線文。青銅製コイン1、石性ビーズ2、小貝5、動物骨3うち2片は焼け焦げる。

e. マサヒモスク出土品 (Figures 8e,8f)。モスク及びモスク中庭の出土品であるが、南側の斜面上に隣接するHouse 6からの廃棄品が主となり、マサヒモの廃棄品も含まれると推定できる。日本磁器皿の高台内にゴム印の赤絵でJFC, MADE IN JAPANと記され瀬戸か、20世紀。中国陶磁器は染付碗5、白磁1、赤絵2、色絵磁器1、19～20世紀。イスラーム施釉陶器は白濁釉陶器碗2、15世紀以降か。黄釉陶器碗2、緑釉陶器碗片7、青釉陶器片1、褐釉陶器鉢片2、淡青釉下褐彩陶器鉢片11、18～19世紀。当該地域産の土器は赤色素地で鍋壺が多く、無文の他に直接に赤色彩文と白泥上に彩文がある。イラン産ピンク素地の土器は瓶で刻線文がある。青銅製コイン3枚、黒ガラスバングル1点、褐色ガラス容器片1点、牡蠣殻2片、動物骨14片。

野上健紀は梵字が内側面に書かれる中国青花皿、見込み中央に渦文が描かれる中国青花皿などがDiana号(1817年沈没か)、Tek Sing号(1822年沈没)、Desaru (1840年代沈没か)などに類似品があり、1819年シンガポール建設以降が主となるプラウ・サイゴン (Pulau Saigon) 遺跡出土品に似ているとし、有田染付に与えた影響の年代も含め、砦出土清代磁器の19世紀前半製品を沈没船出土品から比定した<sup>16</sup>。

## ビスナBithnah町跡

ビスナBithnahは海岸の町フジェイラFujairahから北西13kmのハジャル山脈内にあり、フジェイラと山脈内の町マサフィMasafiを結ぶ山脈内道路の中間に位置する。ビスナは古いFortが残り、町も古い時代から続いていることが推測できる町であった。筆者も1987年踏査で砦周辺の地表面にイスラーム陶器片が落ちていることを確認していた。砦は北緯25°10'59"、東経56°14'03"であり、今の町とワディハムを隔てた反対側にある。砦はワディ際段丘上に築かれ、周囲に泥レンガの家跡もわずかに残るが、墓もあり、起伏のある地形で高い山並麓に続いている。山麓には塔などの遺構は見えない。現在の地勢からみると、イスラーム時代町跡も現在の町側にあったと推定できる。すでに鉄器時代を目的とした発掘調査も実施されている<sup>17</sup>。

<sup>16</sup>野上建紀, 2006「沈没船資料からみたマサフィ砦出土の中国染付の年代」『金大考古』53 : 17-21.

<sup>17</sup>Benoist, Bernard, Ploquin, Ohnenstetter, Saint-Genez, Schiettecatte 2003, French Archaeological Mission in Fujairah 2001: First campaign at Bithnah, CNRS, Maison de l'Orient, Lyon.

Benoist, Bernard, Hamel, Skorupka 2003, Second Archaeological Mission at Bithnah: Preliminary report, CNRS, Lyon.  
Corboud, Hapka, Im-Obersteg 1988, Archaeological survey of Fujairah 1(1987): Preliminary report on the first campaign of the Archaeological survey of Fujairah (United Arab Emirates). Swiss-Liechtenstein Foundation for Archaeological Research Abroad, Bern, Vaduz, Geneva and Neuchatel.

Corboud, Castella, Hapka, IM Obersteg, 1994, Archaeological survey of Fujairah 3(1993): Preliminary report on the 1993 campaign of the Archaeological survey of Fujairah (United Arab Emirates). Swiss-Liechtenstein Foundation for Archaeological Research Abroad, Bern, Vaduz, Geneva and Neuchatel.

Ann Benoist (French archaeological Mission in the U.A.E., CNRS)が実施したイスラーム時代以前のビスナ遺跡発掘が2001年と2003年の春に行われ、発掘目的である鉄器時代Ⅱ期の土器と共にイスラーム陶器片も出土した。Ann Benoist及びAhmed Al-Shamsi, Salah Ali Hassan (フジェイラ博物館)の許可のもとに、2003年8月出土品の観察撮影をフジェイラ博物館で行った。

P. Corboud (Swiss-Liechtenstein foundation for archaeological research abroad) はビスナ及び付近の遺跡踏査と発掘を1987年から1994年に実施した。筆者は表面採集土器等をフジェイラ博物館でスイス人が整理中に観察したが、その中にイスラーム陶器は含まれていなかった。今回のビスナ出土イスラーム時代陶器は、筆者が行ったアラブ首長国連邦オマーン湾岸に沿う1994年イスラーム時代遺跡踏査の資料、及びその後のルリーヤ砦、コールファッカン砦、コールカルバ町跡発掘資料と比較すると、山間地域の特徴を知る資料となる。

ビスナ発掘陶磁器のうちからイスラーム時代陶器片を分類紹介する。出土品の大部分は無釉土器片である。壺瓶鉢クッキングポット類が多く、胴部片が多い。素地の色で分けると2種類になる。1つは大きな砂粒混じりの粗い紅色あるいは赤褐色の素地で、小型品には大きな砂粒の混じらないものもある。ほとんどが無文であるが、赤色の単純線で文様を描いた彩文土器もある。彩文は直接器表面に描くものが多いが、灰白色スリップを施した上に描くものもある。スリップのない土器は表面が赤色か黒色になるものが多い。2つめの素地は砂粒が少なく淡紅色で、瓶壺が多く、器表面に波状文や直線文を刻むことが多い。表面は灰白色スリップを施したものが一般的であるが、新しいものはスリップがないものが多い。

無文無釉土器の胴部片が出土品の大部分を占め、文様が描かれた土器や施釉陶器の量は少ない。そのため、文様のある土器や施釉陶器を発掘地点順に紹介する。発掘地点はBithnah 24, 44, 50の3地点である。

Bithnah 24出土の陶器。472,478緑釉下黒色彩陶器鉢、黄色素地。15世紀、イランまたは中央アジア。471緑釉陶器鉢、淡紅色素地。15-17世紀、イラン。389褐釉陶器鉢、灰色赤色素地。釉はほとんど剥げ落ちている。220褐釉陶器小碗、灰色赤色素地。16-19世紀。378,382,403透明淡黄釉下緑色黒色彩陶器鉢、黄色素地、軟質素地。18-19世紀、イランか。UF310黄釉下刻線文陶器碗、黄色素地、18-19世紀。刻線文土器瓶、黄色素地。刻線文土器瓶、淡紅色素地。赤褐色彩文土器瓶、淡紅色素地。506透明釉下白化粧土上緑彩陶器鉢、淡紅色素地、硬質素地、底部。473黒釉陶器壺、黒色素地。口縁部に段あり、東南アジア産か。UF307刻線文土器瓶、黄色素地。381赤色彩文土器瓶、砂粒混じり赤色素地、注口付。479刻線文土器瓶、黄色素地。灰白色スリップ上に簡単な3本線単位の連続刻線文。胴部で屈曲し、文様は胴部上半部のみにある。17-19世紀。537土器クッキングポット、砂粒混じり赤色素地。表面にスリップなし。口縁部下横方向に薄い三角形の把手を貼り付ける。16-19世紀。24土器クッキングポット、砂粒混じり赤色素地。表面にスリップなし、赤色彩文。

---

Ploquin and Ohnenstetter 2003, *Paleometallurgy*, 6-9. (in Benoist, Bernard, Ploquin, Ohnenstetter, Saint-Genез, Schiettecatte 2003, *French Archaeological Mission in Fujairah 2001: First campaign at Bithnah*, CNRS, Maison de l'Orient, Lyon).

Bithnah 24 & 44出土の陶器。釉下赤色彩陶器鉢、黄色素地、釉は剥げ落ちている。灰白スリップ上赤色彩文土器瓶、紅色素地。刻線文土器瓶、黄色素地。

Bithnah 44出土の陶器。388,450緑釉陶器鉢、黄色素地。口縁部段あり、15世紀、イラン。UF110緑釉陶器鉢、黄色素地、15-16世紀、イラン。黄褐釉下灰白色スリップ上刻線文陶器鉢、淡紅色素地。470白濁釉（白色スリップ）上緑色黒色彩陶器鉢、紅色素地、硬質、外面は無釉でスリップなし、11-12世紀、イランまたは中央アジア。UF123淡緑釉下灰白色スリップ陶器鉢、紅色素地。UF129淡緑釉下灰白色スリップ上刻線文陶器鉢、淡紅色素地。スグラヒアト。441,449釉下白化粧土陶器鉢、淡紅色素地。口縁部。釉が剥げ落ちているため、緑彩があったか不明である。449黄褐釉下白化粧土上刻線文陶器鉢、淡紅色素地、硬質素地、外面は無釉でスリップなし、12-13世紀、イラン。12,310,330緑褐釉陶器鉢、淡紅色素地、硬質素地。16-19世紀。UF112緑釉陶器鉢、黄色素地、18-19世紀。土器瓶、淡紅色素地。灰白色スリップ上赤色彩文土器瓶、砂粒混じり赤色素地、15-19世紀。刻線文土器大壺、砂粒混じり赤黒色素地。UF115灰褐釉陶器鉢、灰色素地。UF126緑褐釉陶器瓶、黄色淡紅色素地、16-19世紀。UF104緑褐釉陶器瓶、灰色素地、17-19世紀。440褐釉陶器鉢、紅色素地。軟質陶器。16-19世紀。445灰白色スリップ上刻線文土器瓶、黄色素地。細い刻線文で細かな文様を描く。225土器クッキングポット、赤色素地、外部胴部に貼り付け紐文。228土器クッキングポット、赤色素地、スリップなし、赤色彩文を口縁部と胴部に斜め文。231土器クッキングポット、赤黒色素地、外面口縁部下に三日月状貼り付け。357土器クッキングポット、赤色黒色素地。スリップなし。赤色彩文を口縁部は横方向、胴部は4本線を単位にして縦方向に描く。UF100土器クッキングポット、砂粒混じり黒色素地。スリップなし。赤色彩文を縦方向に4本線単位で描く。355土器クッキングポット、砂粒混じり赤色黒色素地。スリップなし。赤色彩文を口縁部は横方向に、胴部は縦方向に3本線または4本線を単位に描く。胴部上部の四方に孔付き把手がある。362土器クッキングポット、砂粒混じり黒色素地。表面黒色。スリップなし。胴部上部に把手を貼り付ける。把手は凸レンズconvex lens状で両側に傾斜して下がり、左側が長い。217土器クッキングポットか、口縁部下縦方向に貼付文。外面に煤が付く。鉄器時代か。368,391土器クッキングポット、砂粒混じり赤色素地。スリップなし。口縁部下にやや中央部が上になり盛り上がる、小さな把手を貼り付ける。15-16世紀か。UF302a刻線文土器瓶、淡紅色素地、硬質素地、4片が同じ、灰白色スリップ上に点列状文。UF302b刻線文土器瓶、黄色素地、軟質素地1片、複線の乱雑な刻線文。UF302c刻線文土器瓶、黄色素地、硬質素地、直線状文と波状文。UF302d刻線文土器大瓶、砂粒混じり紅色素地、灰白色スリップが少し見える、頸部と胴部の境部分。UF302e土器内面に小さな点状窪みがある淡紅色素地、瓶か。446,500土器大壺、砂粒混じり赤色黒色素地。446口縁部、500底部。ただし、同じ個体ではない。鉄器時代か。UF125刻線文土器大壺、赤褐色素地。胴部外側面に横方向凸帯状文があり、その上に刻線で×の連続文。鉄器時代の土器か。UF110土器刻線文瓶。黄色素地。淡紅色素地。灰白色スリップ上に刻線文。

Bithnah 50出土の陶器。UF141a緑釉陶器碗、黄色素地、硬質素地、18-19世紀。UF141b透明黄釉下赤色彩文陶器鉢、黄色素地、硬質、18-19世紀。UF141c緑釉陶器鉢、灰色素地、灰色素地の一部は赤色となる、硬質、16-19世紀。UF141d緑褐釉陶器鉢、灰色に赤色が混じる素地、UF141c,dは釉

と素地の色が異なるが、同じ種類である。赤色彩文土器瓶/クッキングポット、赤色素地、砂粒混じり素地、スリッパなし、2片。土器クッキングポット、赤色素地、赤色砂粒混じり素地、スリッパなし、把手付、1片。刻線文土器瓶、淡紅色素地、スリッパなし。UF142a緑釉陶器碗、黄色素地、軟質素地、緑釉の一部に赤褐色が混じる、18-19世紀。UF142b内面黄釉・外面黄釉下赤釉彩陶器鉢、黄色素地、軟質素地、補修孔1つ、18-19世紀。UF142c黄釉下赤色緑色彩陶器碗、黄色素地、軟質素地、18-19世紀。UF142d内面緑釉・外面褐釉陶器鉢、黄色素地、素地はやや硬質、内面緑釉には赤褐色が混じる、17-19世紀。UF142e,f褐釉陶器鉢、黄色素地、素地はやや硬質、UF142dと同じタイプであるが、内外面ともに褐釉、17-19世紀。UF142g,h褐釉陶器瓶鉢、灰色素地、一部に淡紅色が混じる、硬質素地、褐釉には粒状の混じりがある、16-19世紀。UF142i,j灰白色スリッパ上刷毛状文様器瓶、淡紅色素地、硬質、文様は素地に刻まれたのではなく厚いスリッパ上のみと同じ道具で複数筋状文と波状文を描く、16-19世紀。UF142k彩文土器瓶、赤色黒色素地、砂粒混じり素地、灰白色スリッパ上に縦方向の単純な赤色彩文、15-19世紀。UF142l,m彩文土器クッキングポット、赤色素地、砂粒混じり素地、外側口縁下に貼付の小さな把手あり、斜め方向に複数の線で彩文、15-19世紀。408,532灰緑釉陶器灰色赤色素地鉢。407赤褐釉陶器灰色赤色素地鉢、口縁部片補修孔1。396,409,539褐釉陶器灰色赤色素地鉢、17-19世紀。褐釉陶器はクンジュKunj wareと呼ばれて一括されることがある。しかし、褐釉及び緑釉が混じり、褐釉も様々な発色があり、素地は硬質のものや軟質のものがあり、赤色と灰色に発色しているため、同じ名称で一括することはできない。ただし、焼成条件が異なると同じ産地でも釉と素地の色が変化するため、釉と素地の色で産地分類することは難しい。産地はオマーンやイエメンの各地にあると推定できるため、クンジュと呼ぶことは適切でない。UF102緑褐釉陶器鉢、灰赤色素地。素地は硬質。540土器クッキングポット、砂粒混じり赤色素地。表面は黒色。胴部上部に把手を貼り付ける。把手は凸レンズconvex lens状で両側が下がるが右側が長い。

上記の他にやや大きな破片の施釉陶器や彩文土器等があることはAnnレポートからわかるが、Ann紹介品はいずれも博物館所蔵棚で発見できなかった。

ビスナ出土陶器のイスラーム時代の状況。ビスナはWadi Hamの谷が幅1 kmほどに広がった地点にある町で、農園の広がる場所である。フジェイラとマサフィを結び、山脈を越える交通の要所である。銅鉱石も周辺から産出したことがcopper mining sitesやsmelting ovens [Corboud et al 1988, p.22]からわかる。ただし、鉄器時代の採鉱miningと期待されていたBithnah 54のcopper melting ovensをD. Pottsが試掘し、charcoalsを採集して14C年代測定を行った。その結果はcal AD894-937/0.31とcal AD940-1010.0.69で、9-11世紀と判断された[Ploquin and Ohnenstetter 2003, p.8]。イスラーム時代の陶器が出土したビスナ発掘地点は24, 44, 50の3地点である。この地点はすでにP. CorboudがWadi Ham東側テラスで1990年に発見したもので、Bithnah 24 (fortified building) とBithnah 44, 50, 48 (集落or住居) と名付けられ、CorboudはBithnah 44で4カ所の試掘を行った[Corboud et al, 1994]。2002年及び2003年にAnn BenoistがBithnah 24, 44, 50の3地点を発掘した[Benoist et al, 2003]。Bithnah 44と50は現在のBithnah町及びWadi Hamの東側にあり、小さな谷で隔てられている。

Bithnah 44は50 x 70m、Bithnah 50は100 x 80mほどの広さがあり、イスラーム時代の墓が多数あ

り、ともに周囲に農園がある。44地点ではtempleと推定された建物跡Building B[Corboud et al, 1994; Benoist et al, 2003]から鉄器時代Ⅱ期(1100-600BC)の土器が出土した。鉄器時代の土器が多いようであるが、例えばbuilding Bに追加したroom P54の出土品は十数点が鉄器時代で、2片が最近のものという[Benoist et al, 2003 p.14]。Building Bの周囲にも石積み家跡が見え、Houses A,C,D,F,Jと名付けられた。また家跡発掘後にさらにHouses J,Kが発見された。House Aは2部屋と囲い庭をもち、イスラーム時代と推定された。床面上と崩落層から石製道具、ガラス・バングル片、イスラーム時代と鉄器時代の土器が混じって出土した。石壁は厚く、両面に石が積まれている。床は小石を10cmほど敷き、その上を土で固めている。この家下を発掘すると鉄器時代の層があった。House FはHouse Aに接した西側にあり、方形の1部屋である。石壁は薄く、片面だけに積まれる。家の内外から鉄器時代とイスラーム時代の土器が発見されたが、イスラーム時代土器は家外よりも家内からが多かった。House Cは方形の1部屋で、石壁は両面積みで厚く、幅80-100cmである。床は土を固めており、その上を崩落した石が厚く堆積し、その層をイスラーム時代の墓が掘っている。この層は遺物量が多い居住層で覆われ、16世紀頃と推定できる完全な瓶も出土している(筆者未見)。House Cの床面及びHouses A,F内から赤色黒色素地土器が多く出土している。House Cの下でHouse Jが発見された。鉄器時代の小さな土器片2点が泥レンガmud brick床面から出土したが、House Jの時代はイスラーム時代か鉄器時代か不明である。House Dは方形の1部屋で、石壁は両面積みで厚く、床は土を固めている。鉄器時代の土器片が多少あるが、最近のpotsherdも1片出土している。House KもHouse Jと同じ泥レンガ床であり、出土土器から鉄器時代Ⅱ期と判明したため、House Jも鉄器時代のようなものである。

Bithnah 50地点では多くの家壁跡が地表面に見え、全域から鉄器時代とイスラーム時代の遺物を含む多量の遺物が発見された。鉄器時代のStructure Hと時代不明のHouse Iが発掘された。Wall Gは高さ1.4m残る両面積み石壁で、Wadiの水を溜める小ダムである。関連する遺物はイスラーム時代である。Bithnah 24地点では鉄器時代Ⅱ期のfortressが発見されたが、イスラーム時代の遺構は不明である。

#### ビスナ出土イスラーム時代陶器の特徴

##### 無釉の土器

それぞれの地点から出土した陶器は、ほとんどが土器である。土器は素地と器表面の色で2種類に分けられる。(1)赤色/黒色素地の土器、(2)灰黄色/黄白色の器表面の土器である。いずれもイスラーム時代の全般にわたってこの地域で見られる土器である。時代によって器形と文様は変化するが、同じ土器産地あるいは種類の系統であることが理解できる。詳細な編年はまだ確立していないが、ジュルファール遺跡やその前後の遺跡調査から、おおよその年代が推定できるようになった。土器産地はアラブ首長国連邦やオマーンの各地にあることがすでに知られており、とくに赤色/黒色素地土器の産地はワディハキールWadi Haqirやムサンダム半島などの各地にあるため、産地を特定することは難しい。一部の研究者はJulfarタイプと呼ぶが、ジュルファール遺跡では土器を生産しておらず、しかもジュルファール遺跡は14-16世紀が中心であるため、その後には作られた赤色/黒色素地土器をJulfarタイプと呼ぶことは不適切である。



(1)赤色あるいは灰黒色が混じった色の素地の土器は、砂粒が混じる粗い素地が多い。素地の色及び焼成状態から、表面が赤色になるものと黒色になるものがある。灰白色スリップをかけたものが少量ある。無文土器が多いが、赤色彩文土器も僅かにある。14世紀はスリップなしの彩文土器が種であるが、15世紀以降はスリップを掛けた上に彩文する土器が多くなる。器種は壺瓶クッキングポットが主である。

(2) 灰黄色/黄白色の器表面の土器は、表面に灰白色スリップを施し、刻線文で装飾する土器である。軟質の黄色素地と、器壁が薄く硬い淡紅色素地がある。器壁が薄い素地の土器は、黄色素地から淡紅色素地へと変化する傾向があり、文様も複雑なものから単純で粗雑な文様に変化する。**施釉の陶器**

土器と比較すると施釉陶器の出土量はきわめて少ない。イスラーム時代以前の施釉陶器はない。白濁釉（白色スリップ）上に緑色と黒色で彩文した陶器鉢片が11-12世紀頃の製品。黄褐釉の下に白色スリップを施し、スリップ上を刻線で文様を描いた陶器鉢が12-13世紀頃で古いものである。緑釉下黒彩陶器鉢、緑釉鉢が15世紀頃の製品であり、この頃から後の時代の施釉陶器がいくつか見られる。18-19世紀頃には施釉陶器がやや多くなり、緑釉陶器、褐釉陶器、淡黄色陶器、赤色釉陶器がある。中国陶磁器は出土していない。

ビスナには鉄器時代Ⅱ期(1100-600BC)に集落があるが、その後の時代の集落痕跡すなわち陶磁器はイスラーム時代まで未発見である。イスラーム時代前期の出土品は未発見である。イスラーム時代中期頃の陶磁器は少し発見されているので、集落の存在が推定できる。イスラーム時代後期あるいは17世紀以降の土器は多いようであり、集落もその頃から現在に至るようである。

海岸に沿う遺跡出土品と比較すると、コールカルバKhor KalbaやコールファッカンKhorfakkan遺跡から出土したものの一部が少量出土している。中国陶磁器が出土していないことは、山間の遺跡の特徴になる可能性もあるが、これから採集されるであろうと思う。ヨーロッパ陶器が出土していないことは20世紀以前に発掘地点の集落が廃絶されたことを示すのであろう。

### ファルファルFarfar町跡

ビスナから直線で南方4kmほどの位置にファルファルFarfarがある。しかし、現在も山越道路はなく、以前もビスナとフジェイラを結ぶワディハムに沿う道の間中部から西方にワディを遡る道を利用したのであろう。ファルファル村はワディファルファルとワディサハムSahamが合流する地点にある。ワディハムの支流となる。表面では土器片が少し見られる程度であった。

### アル・ヘイルAl Hayl町跡

アル・ヘイルはワディヘイルHaylにある山間の町跡である。現在のアル・ヘイル町は下流側に移り、少し上流にあった町は一時廃墟となったが、フジェイラ政府によって大きな家を中心に修復されている。ワディ段丘上に町跡が広がり、Palaceと呼ばれる支配者の家(N23,04,48, E56,13,22)、丘上の見張り塔(北緯25°04'44"東経56°13'19")、周囲の斜面に石積み壁の家跡が広がる。ワディ内を中心にナツメヤシ畑や野菜畑が広がる。ワディを隔てた反対側の山上にも見張り塔の痕跡が

見える。数片の施釉陶器と、細かく割れた土器片が落ちている。18～19世紀の中国染付鉢片、緑色で彩色されたコールカルバと同様の陶器片が、それぞれ1片ずつあった。ワディヘイルは東方に流れ、ワディハムが形成するフジェイラの扇形扇状地の中央部に至る。ワディの急峻な谷部を遡るとやや広くなった谷部を見下ろす地点に町跡がある。

### ワジ・サファドWadi Safad

ワジ・サファドWadi Safadの谷を見下ろす丘上に石積み基礎の塔跡や家跡が残る。土器小片がわずかに見られた。

### オワラ、オウハラ、アーワラAwhala (Wahala, Ohala)町跡

2003年8月、オワラのイスラーム時代の集落を踏査した。フジェイラ首長国最南部の山麓部ワディに沿う、海岸から10kmほど離れた町である。コールカルバの西南にあたり、現在はオマーン国境に近い山間の町である。オワラではすでにオーストラリア<sup>18</sup>とフランス<sup>19</sup>の調査隊が鉄器時代の遺跡調査を実施している。ワディ段丘上にある壊れかけた砦をフジェイラ首長国博物館が修復中である。20世紀まで使用されていた砦平面図を示す。Fortの周囲に鉄器時代の石積み壁が地表面に見える。石積み壁家跡も地表面に見える。ピスナで地表面に見える石壁家と同じ構造である。鉄器時代から最近の家まで同じ面に壁部分が見えるため、発掘して壁の年代を決定する必要がある。

砦及びその周辺で最近のゴミからいくつかの陶磁器を採集する。2003年8月の採集品。いずれも地表面に落ちていた陶磁器を選別して採集した。新しい時代のものである。磁器。白磁コーヒーカップ、金色彩で椰子木が描かれる、20世紀。白磁コーヒーカップ、青色彩と赤色彩がある、20世紀。白磁皿、20世紀。染付鉢、手描きで草花文、20世紀か。染付、内面蛇の目釉剥ぎ、高台下部無釉、19-20世紀。磁器はいずれも中国製か。白濁釉上緑色黒色彩文皿、20世紀、ヨーロッパ製か。淡緑釉下青黒色彩陶器鉢、淡紅色素地。土器壺、外面器表面はスリップで黒色、内面はスリップなし、外面黒色スリップ上に赤黒色彩文、口縁部は横方向に塗り、口縁下方は斜め線を描く、砂粒混じり赤色素地、一部は黒色素地となる。土器刻線文瓶。1片のみ灰白色スリップ上に刻線文、紅色素地。5片はスリップなし、紅色素地。1片はスリップなし、黄色素地。小片だが、点列文と波状文、点列文が見える。土器大瓶、黒色大砂粒混じり黄色素地、外面器表面は刻線文上に黒色スリップ、内面はスリップなし。

### おわりに

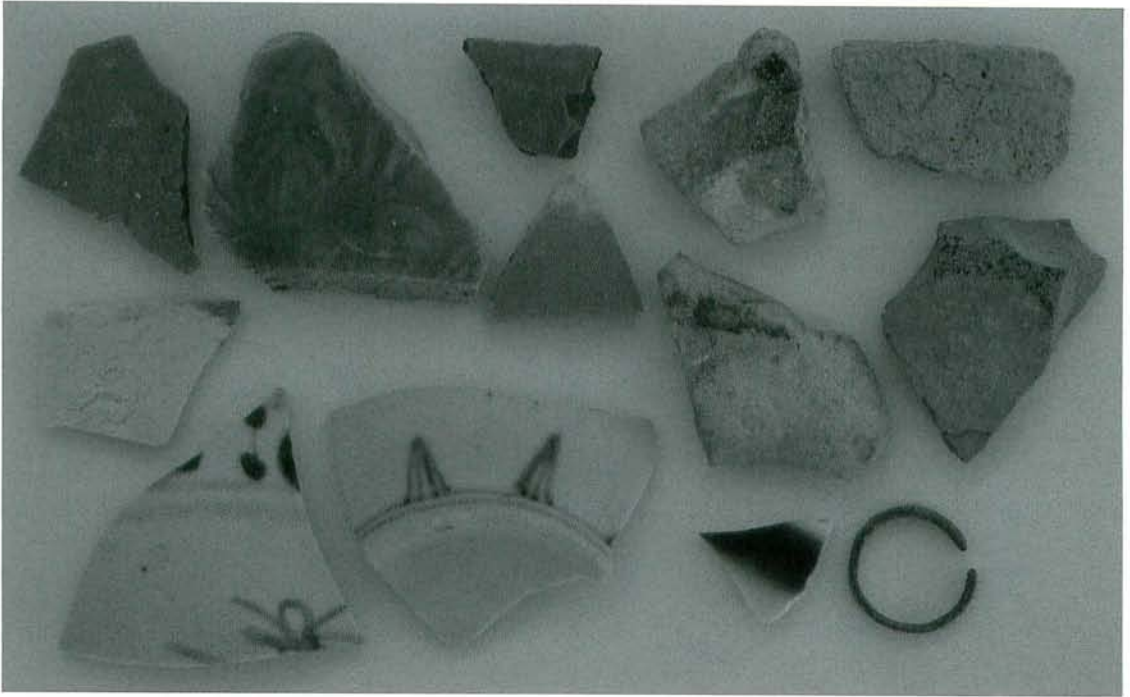
オマーン湾岸北部地域の遺跡出土陶磁器を資料化した。遺跡を探して発掘し、そこで使われて

<sup>18</sup> Potts,D.T., Weeks,L., Magee,P., Thomson,E., Smart,P., 1996, Husn Awhala: A late prehistoric settlement in southern Fujairah, Arabian archaeology and epigraphy, 7:214-239.

<sup>19</sup> Petrie, C., 1998, The Iron Age fortification of Husn Awhala (Fujairah, U.A.E.), Arabian archaeology and epigraphy, 9:246-260.

いた陶磁器を歴史資料とするためにデータ化する。ペルシア湾岸も含めた地域の考古学陶磁器からみる出土品の実態、編年や流通、生活での使用に関していくつかの発表がある<sup>20</sup>。遺跡からは陶磁器の他にもガラスや石、装飾品、食料残滓が出土している。こうした遺跡出土品の総合的な検討を出土した遺跡の状態に照らし合わせて行い、その歴史的意味を生活史のなかで探る研究が継続的な課題である。今回追加した資料を含めて、遺跡出土資料から地域生活文化を描きだすことが発掘調査に基づく研究の主な目的である。

<sup>20</sup> 佐々木達夫, 2006 「アッバース朝と唐の陶磁器生産技術の交流」 『日本オリエント学会第48回大会研究発表要旨集』 46. 佐々木達夫, 2006 「ジュルファール出土陶磁器の重量」 『金沢大学文学部論集史学・考古学・地理学篇』 26:51-202. 佐々木達夫, 2005 「ペルシア湾岸遺跡出土の陶磁器」 『東洋陶磁』 34:13-30. 佐々木達夫, 2005 「ルリーヤ砦出土13世紀末のイスラーム陶器」 『西アジア考古学』 6:151-165. Kennet, D., 2004, *Sasanian and Islamic Pottery from Ras al-Khaimah*, BAR IS, 1248, Hadrian Books Ltd., Oxford. Sasaki, T. & Sasaki, H., 2003, *Southeast Asian Ceramic Trade to the Arabian Gulf in the Islamic Period*, "Archaeology of the United Arab Emirates" Trident Press, London, 253-262. 佐々木達夫, 佐々木花江, 2002 「アラビア半島に広がるミャンマー青磁の発見」 『金沢大学考古学紀要』 26:1-11. Sasaki, H. & Sasaki, T., 2002, Myanmar green ware—the kiln sites and trade to the Indian Ocean in the 15-16 centuries, "Bulletin of Archaeology, The University of Kanazawa", 26:12-15. 佐々木花江, 佐々木達夫, 2002 「ペルシア湾北岸遺跡と採集陶磁器」 『金沢大学考古学紀要』 26:27-47. 佐々木達夫, 佐々木花江, 2002 「アッバース朝白濁釉陶器に与えた中国白磁碗の影響」 『金沢大学考古学紀要』 26:64-75. 佐々木達夫, 佐々木花江, 2002 「唐代外銷白瓷影響的斯蘭白陶」 『中国古代白瓷国際学術検討会論文稿』 上海博物館, 368-369. 佐々木達夫, 2002 「西アジアの陶磁」 『東洋陶磁史』 東洋陶磁学会, 301-309. 佐々木達夫, 2002 「遺跡出土の破片が語るイスラーム陶器の変遷と流通」 『東洋陶磁史』 東洋陶磁学会, 310. 佐々木花江, 佐々木達夫, 2001 「サーサーン朝後期ハレイラ島出土陶器の産地」 『第8回ヘレニズム～イスラーム考古学研究会』 36-49. 佐々木達夫, 1999 『陶磁器、海をゆく』 増進会出版社. 佐々木達夫, 1999 「イスラームの染付」 『東洋陶磁』 28:43-54. 佐々木達夫, 1995 「物が語るインド洋の交流」 『文明と環境10巻 海と文明』 朝倉書店, 109-130. 佐々木達夫, 1994 「湾岸出土の陶磁器とその背景」 『インド考古研究』 16:44-46. 佐々木達夫, 1993 「インド洋の中世陶磁貿易が語る生活」 『上智アジア学』 11: 87-117.



Myanmar green ware, Chinese green ware, Chinese blue-and-white, Islamic blue ware and brown ware. Farm in Wadi, Diba.



Chinese green ware bowls, 14th century. Chinese blue-and-white bowls, 18th century. Islamic glazed ware found at the farm in wadi, Diba.

Figure 2 Ceramics found at farm in wadi, Diba



Ceramics from market beside sea.



Ceramics from market beside sea.



Ceramics from market beside sea.



Glasses from market beside sea.



Ceramics from fort beside sea.



Ceramics from market beside sea.



Ceramics from fort beside sea.



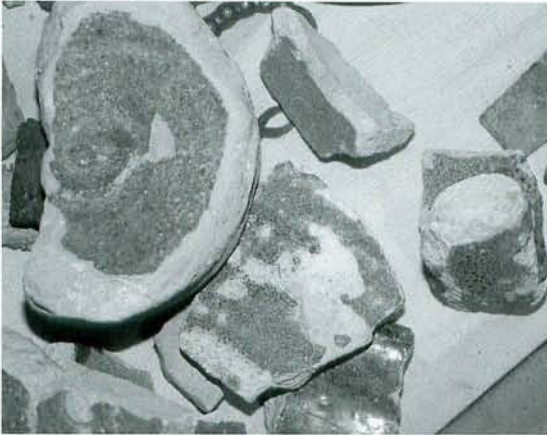
Ceramics from dwelling site near Hellenistic tomb beside sea.



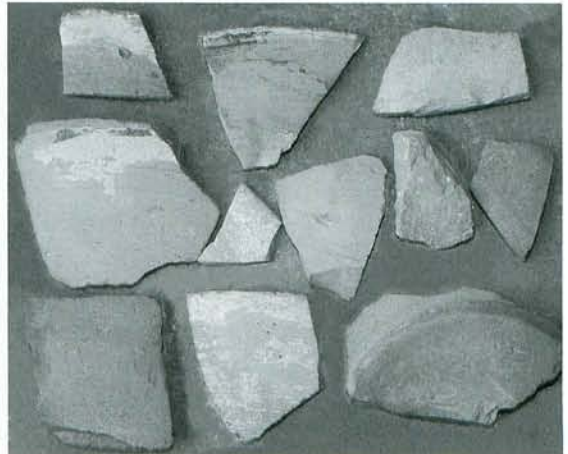
Figure 3 Ceramics found at Diba



1a. Blue-green glazed ware, Vases/Jars and Bowls, creamy yellow fabric, 9th-10th centuries, made in Mesopotamia. found at Madha.

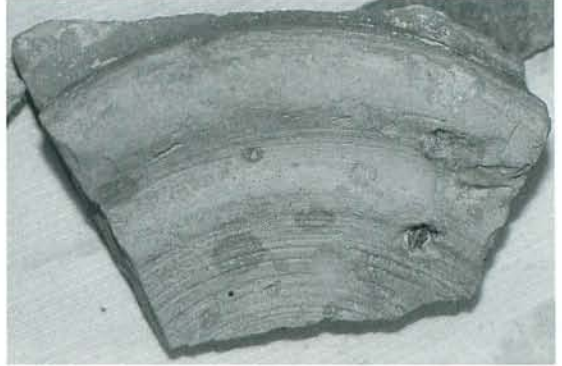


1b. Blue-green glazed ware, Vases/Jars and Bowls, creamy yellow fabric, 9th-10th centuries, made in Mesopotamia. found at Madha.



1c. Green glazed ware on white slip, Bowls, pink fabric, incised decoration (Sgraffiato), 13th century, made in Iran. found at Madha.

Figure 4 Ceramics found at Madha, Oman



2a. Green glazed ware on white slip, Bowl, pink fabric, incised decoration (Sgrafiato), 13th century, made in Iran. found at

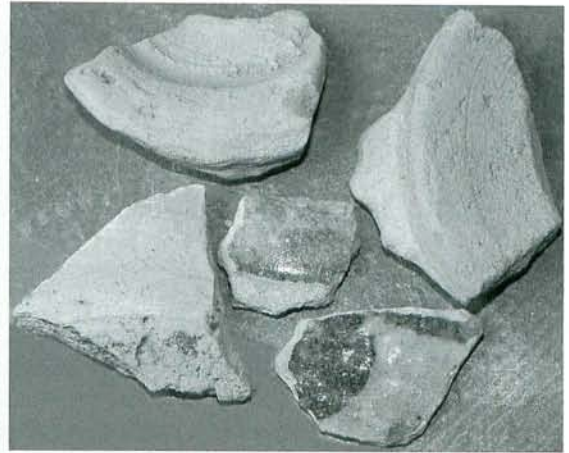
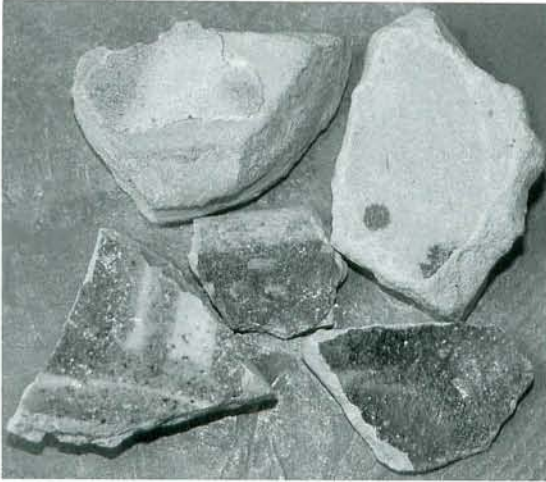


2b. Yellow glazed ware on white slip, Bowls, pink fabric, incised decoration (Sgrafiato), 13th century, made in Iran. found at Madha.



2c. Brown glazed ware, Vases and Bowls, red fabric, 16-18th centuries, made in Oman. found at Madha.

Figure 5 Ceramics found at Madha, Oman



3a. White and blue glazed ware underglaze painted black and purple design, Bowls, yellow/pale pink fabric, 13-15th centuries, made in Iran. found at Madha.



3b. Pale green glazed ware underglaze painted black design, Vase, with four handles, yellow/pale pink fabric, 18th-19th centuries, made in Iran. found at Madha.



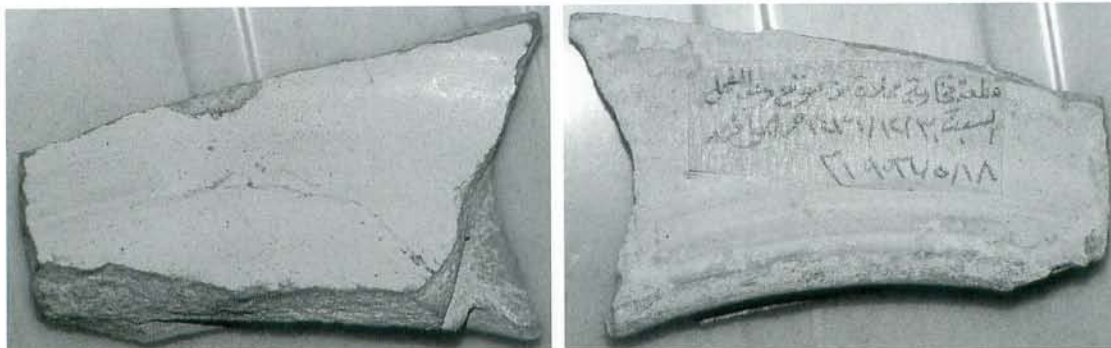
3c. Blue-green ware. Red painted earthenware on white slip. found at Madha.



3d. Chinese green ware, 15th century. Blue-green glazed ware, 9th-10th centuries. Red painted earthenware on white slip. Glass bangles. found at Madha.

Figure 6 Ceramics found at Madha, Oman

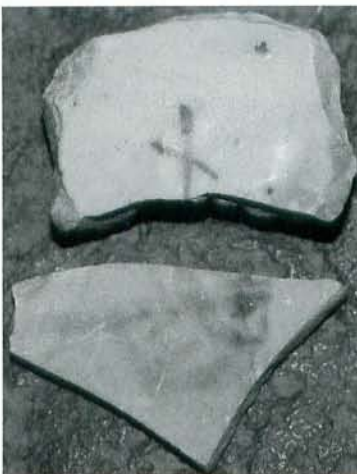




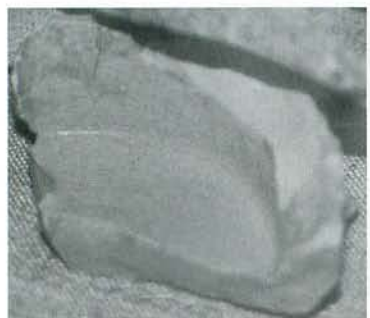
4a. Opaque glazed ware, Dish, red fabric, 16th century. Made in Myanmar. found at Madha.



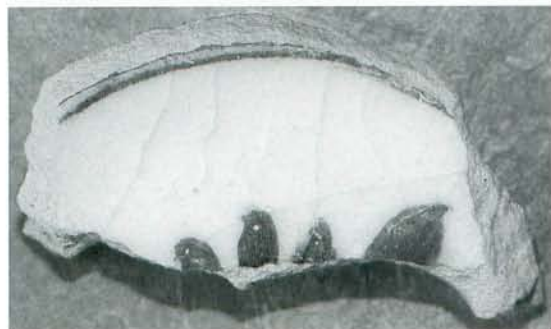
4b. Chinese green ware, Dish, whitish gray fabric, 14th century. found at Madha.



4c. Chinese blue-and-white, Bowl. Chinese green ware, Dish. 18th century. found at Madha.



4d. Chinese green ware, Bowl. 18th century. found at Madha.



4e. Blue and white, Bowl, underglaze painted black and blue, stonepaste fabric, 17th century, made in Iran. found at Madha.

Figure 7 Ceramics found at Madha, Oman



5a. Earthenware painted red, Vases and incense burner, red fabric, made at Lima, Oman. found at Madha.



5c. Earthenware vase, with 1 handle, 1 spout and 1 lid, painted red design, red coarse fabric. Probably made in Lima,



5b. Earthenware painted red, Vase, red fabric, made at Lima, Oman. found at Madha.



5d. Earthenware jar/cooking pot, with painted red and incised wavy lines, red coarse fabric. Probably made in Lima, Oman.



5e. Earthenware jar/cooking pot, with painted red design, red coarse fabric. Probably made in Lima, Oman.

5f. Earthenware vase, with one handle and incised wavy line, red/black coarse fabric. Probably made in Lima, Oman.

Figure 8 Ceramics found at Madha, Oman



6a. Earthenware Large vase with four handles, red coarse fabric. Probably made in Lima, Oman. found at Madha.



6b. Red painted earthenware vase, red coarse fabric, with one handle. Probably made in Lima, Oman. found at Madha.



6c. Red painted earthenware vase. Probably made in Lima, Oman. found at Madha.



6d. Earthenware jar with incised design. Probably made at Bahra, Oman. found at Madha.



6e. Earthenware jar with white-yellow fabric. Probably made in Iran. found at Madha.



6f. Earthenware vase, red fabric with incised design. Probably made at Lima, Oman. found at Madha.

Figure 9 Ceramics found at Madha, Oman

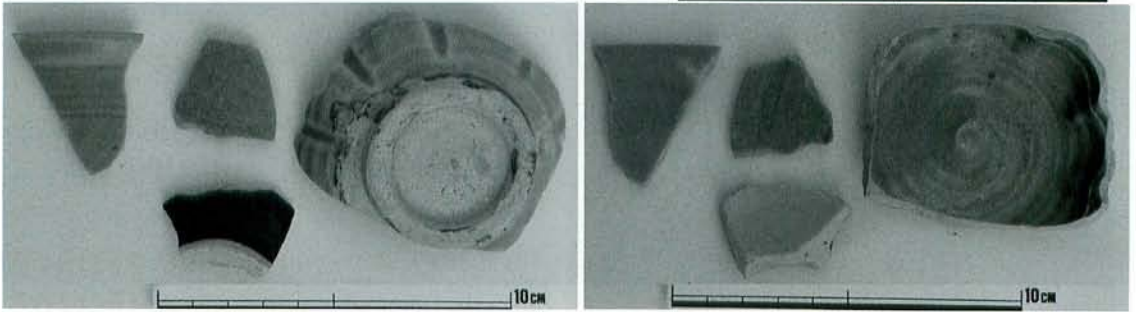
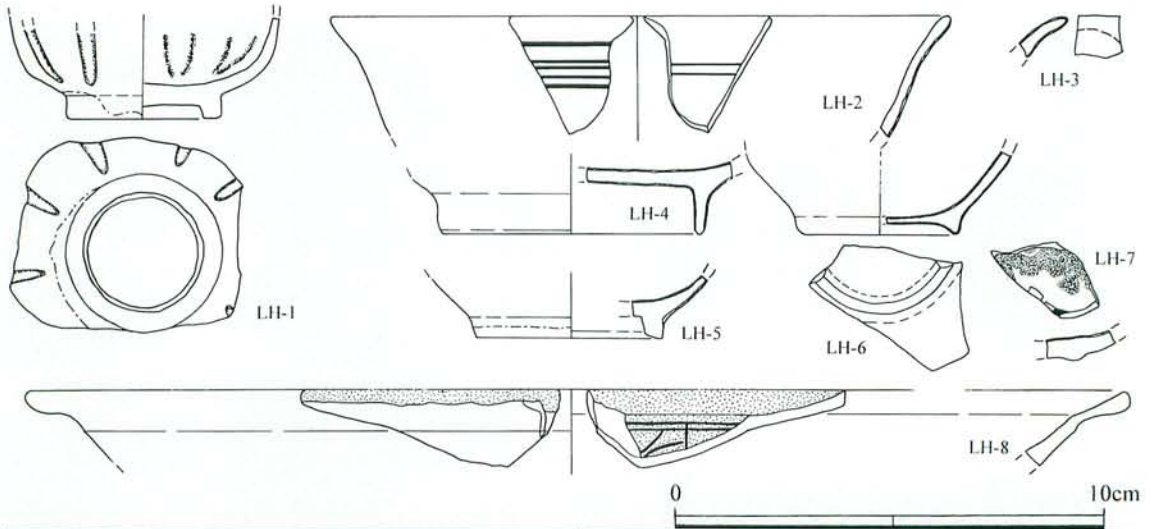


7a. Large bowl, white fabric. Floral design painted blue, green, yellow, red and purple. Made in Holland. found at Madha.

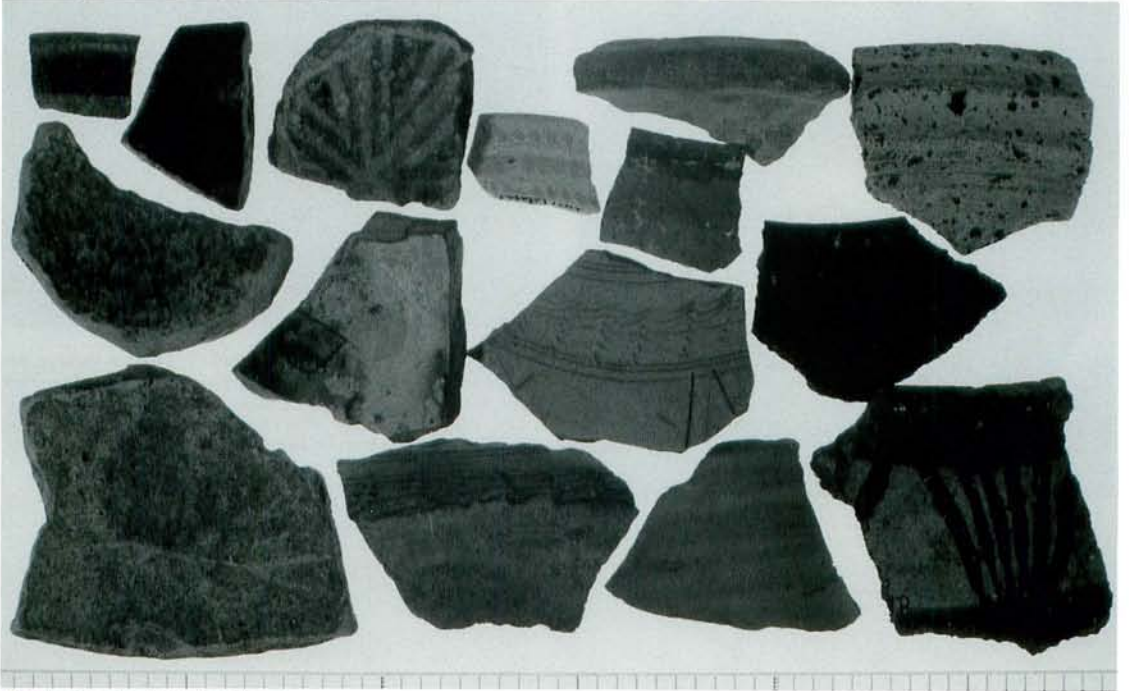


7b. Large bowl, white fabric. floral and shell design were painted blue. mark on base "W EMBERTON". found at Madha. This design was copied from Chinese blue-and-white of the early half of 18th century. Chinese whorl designs and two circular lines varied shell and one circular line in Holland.

Figure 10 Ceramics found at Madha, Oman



Chinese green ware bowl, 14th century. Chinese cobalt blue bowl.



Islamic glazed and unglazed ware.  
Figure 11 Ceramics from House area at Luluiyah, Khor Fakkan

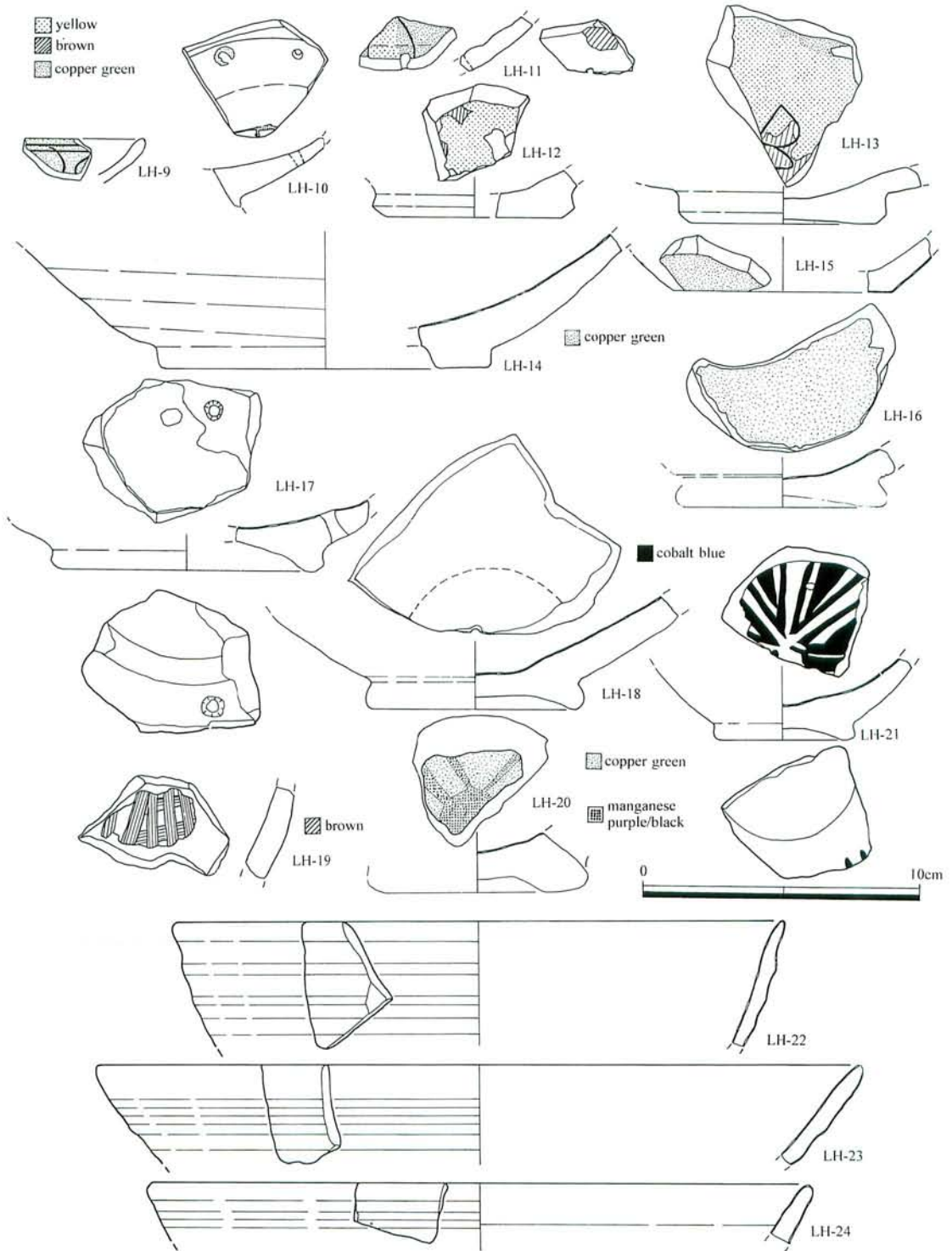


Figure 12 Glazed ware and earthenware from House area at Luluiyah, Khor Fakkan

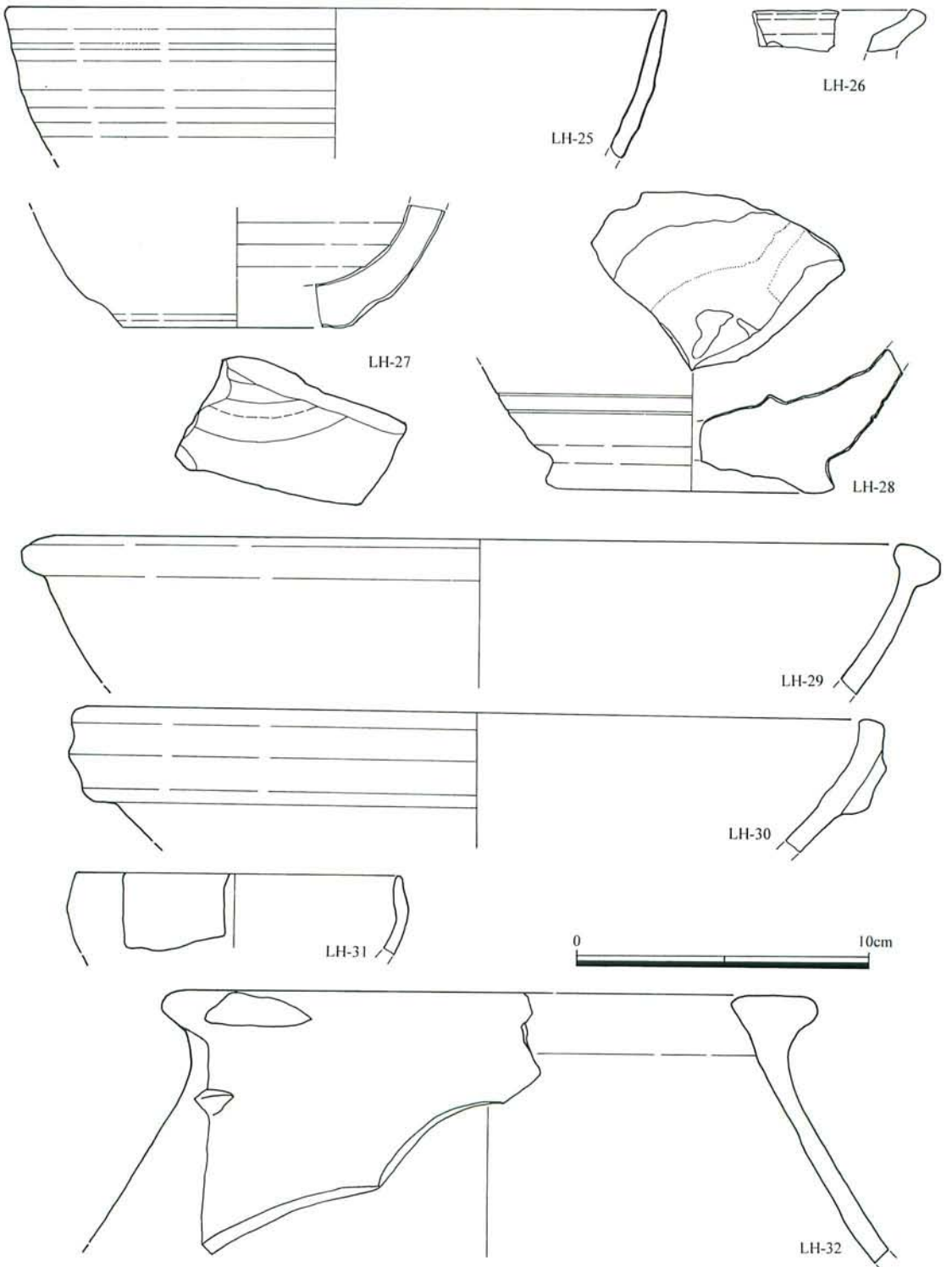


Figure 13 Earthenware from House area at Luluiyah, Khor Fakkan

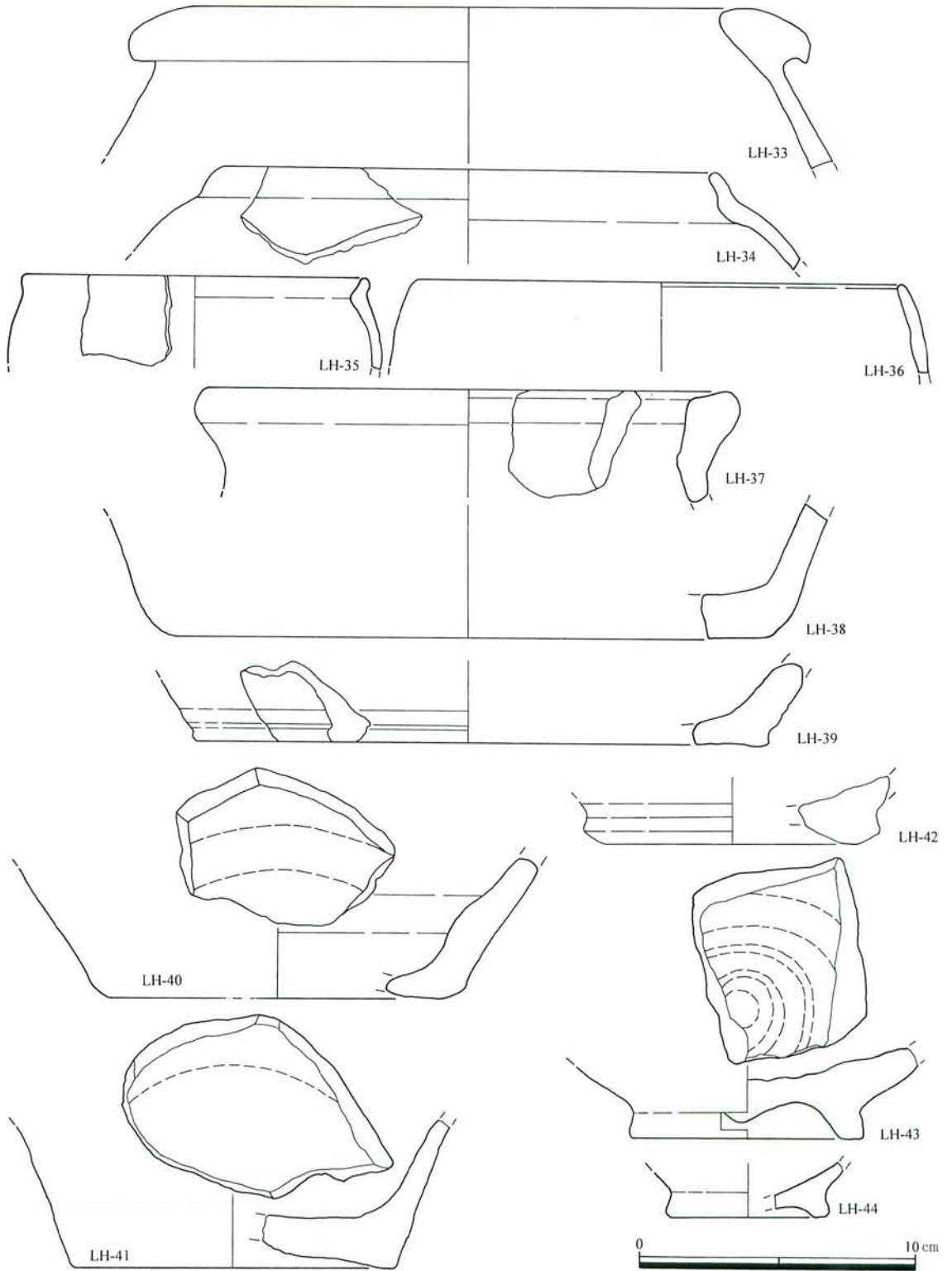


Figure 14 Earthenware from House area at Luluiyah, Khor Fakkan



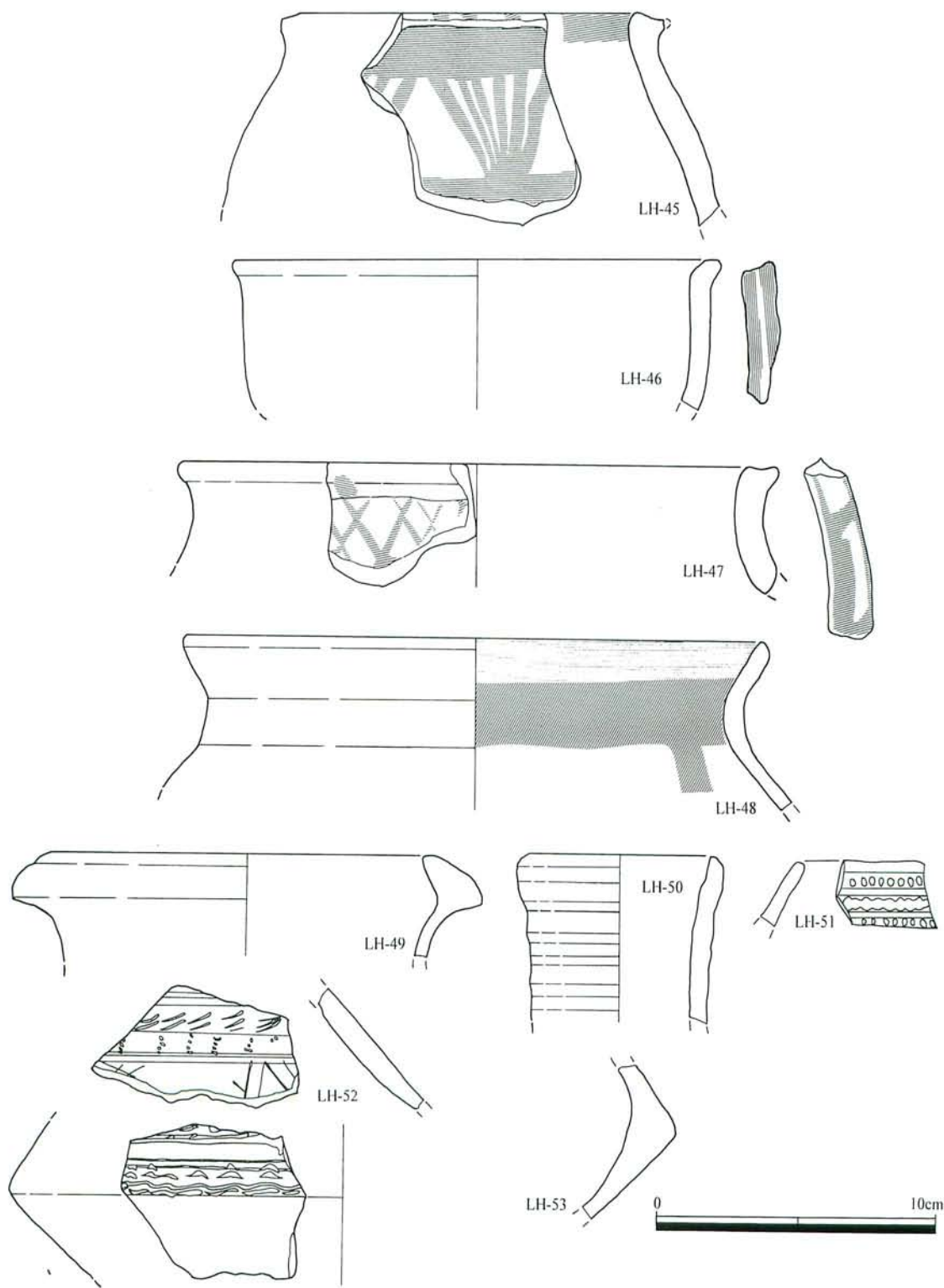
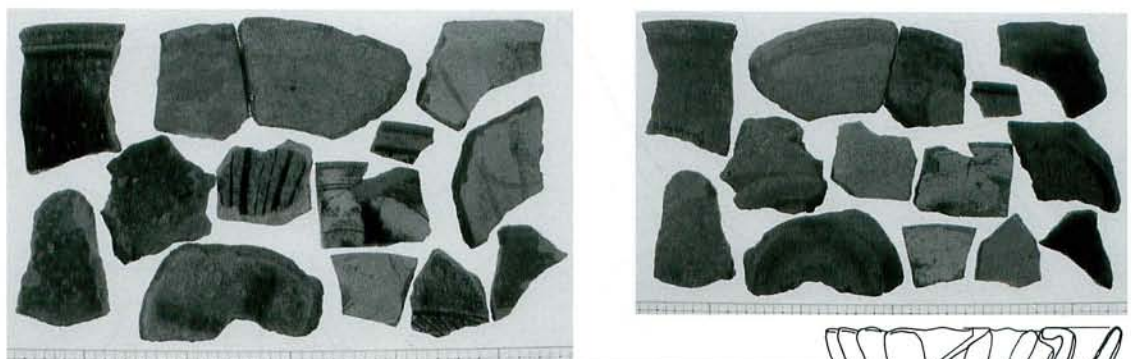


Figure 15 Earthenware from House area at Luluiyah, Khor Fakkan



Green ware large bowls. Pale green ware underglaze painted black, large bowl. Yellow glazed ware with incised lines (sgraffiato), bowl. Yellow glazed ware underglaze painted black, bowls, Yemen. Dark yellow glazed ware, incised lines, bowls.

Chinese green ware bowl, 13th century.

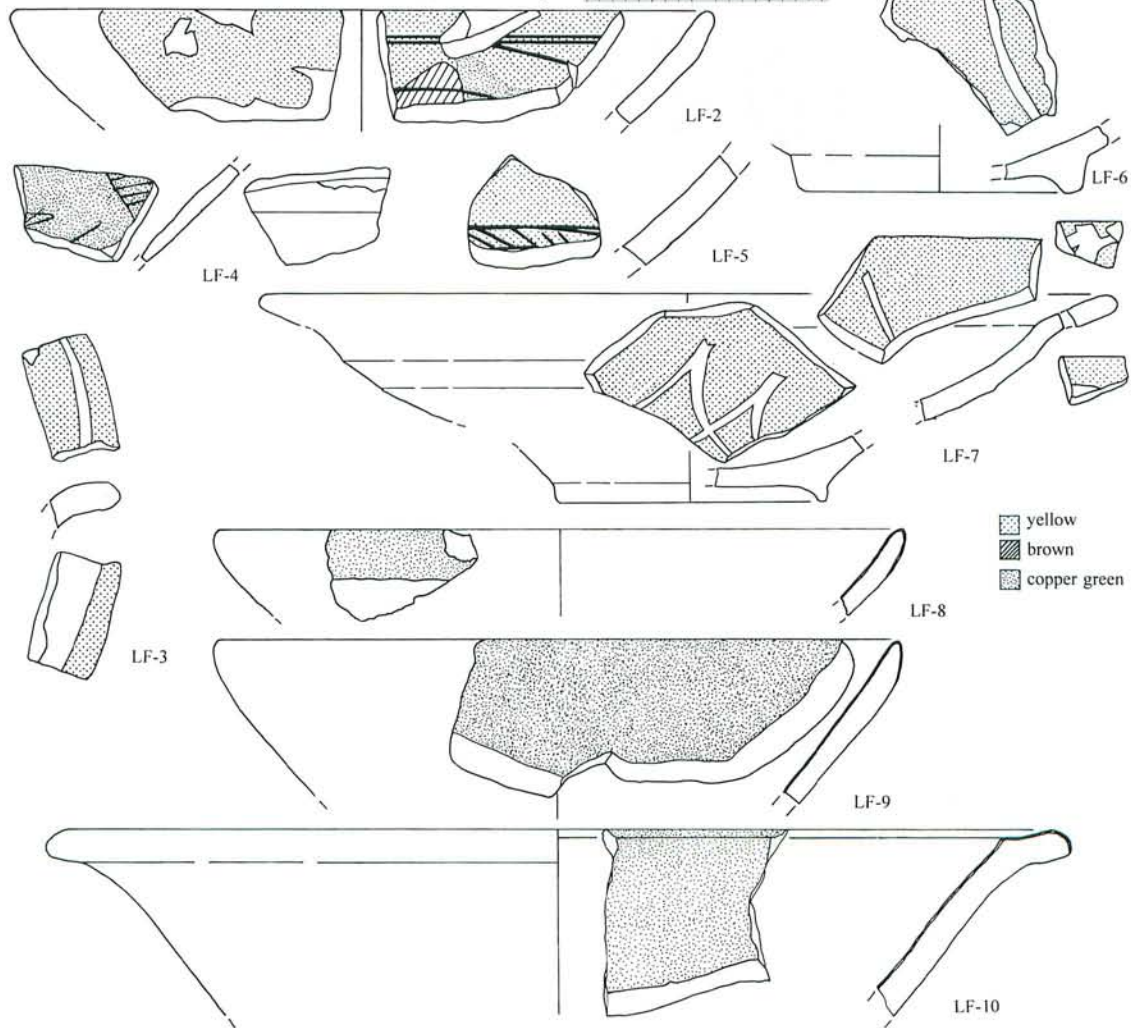


Figure 16 Glazed ware from Fort area at Luluyah, Khor Fakkan

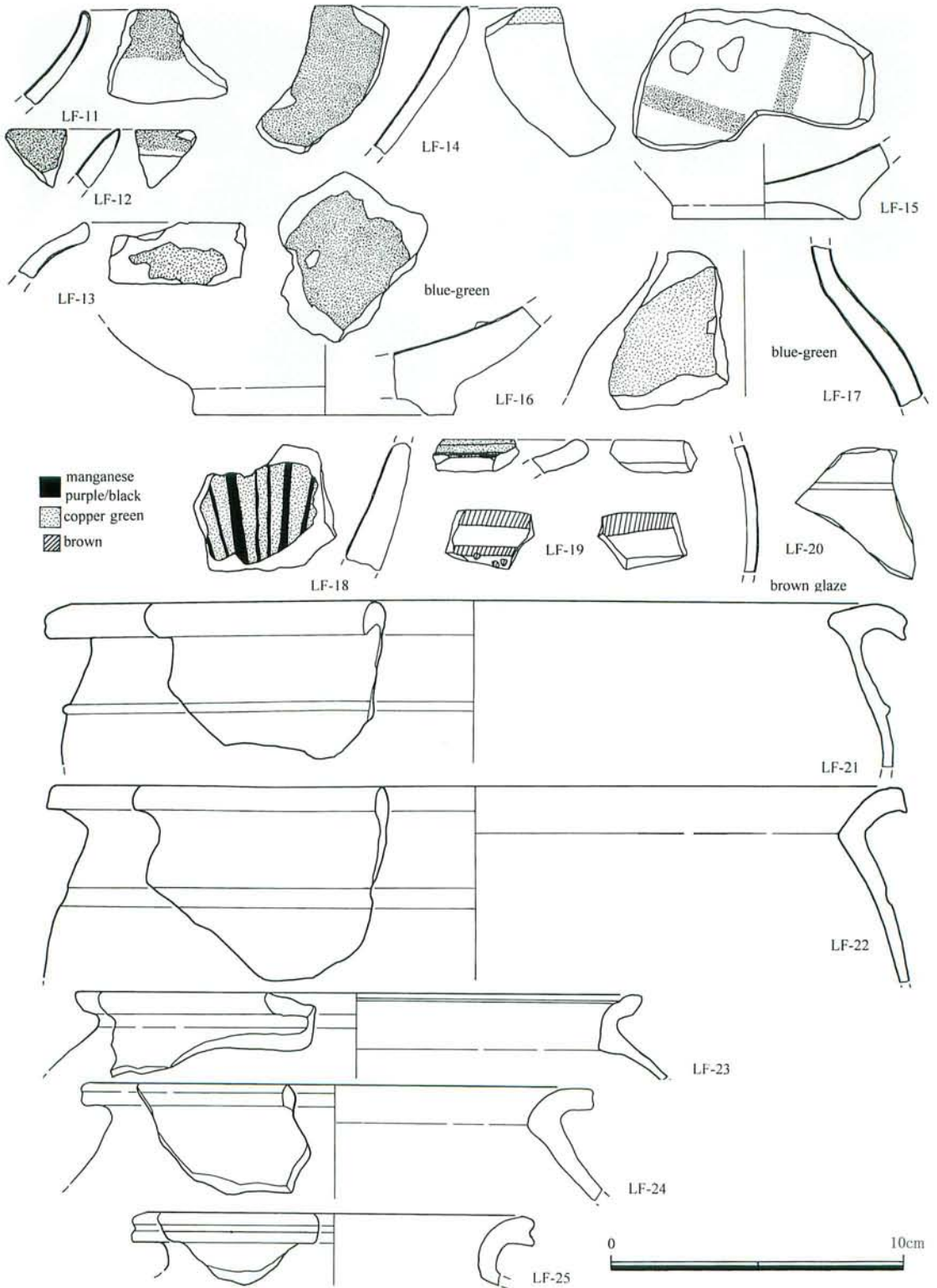


Figure 17 Glazed ware and earthenware from Fort area at Luluiyah, Khor Fakkan

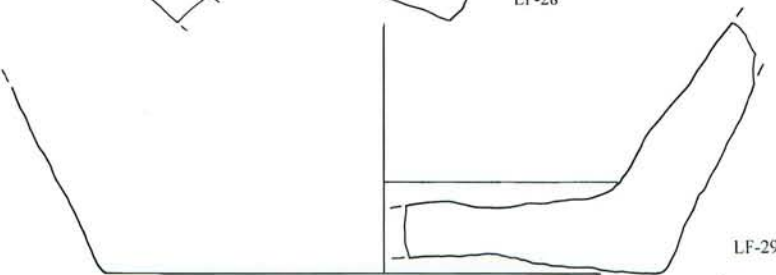
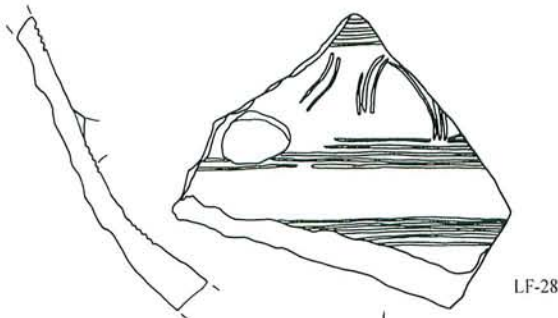
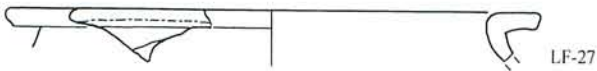
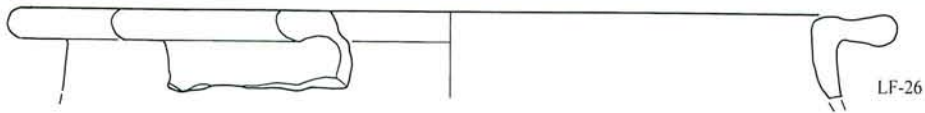


Figure 18 Earthenware from Fort area at Luluyah, Khor Fakkan

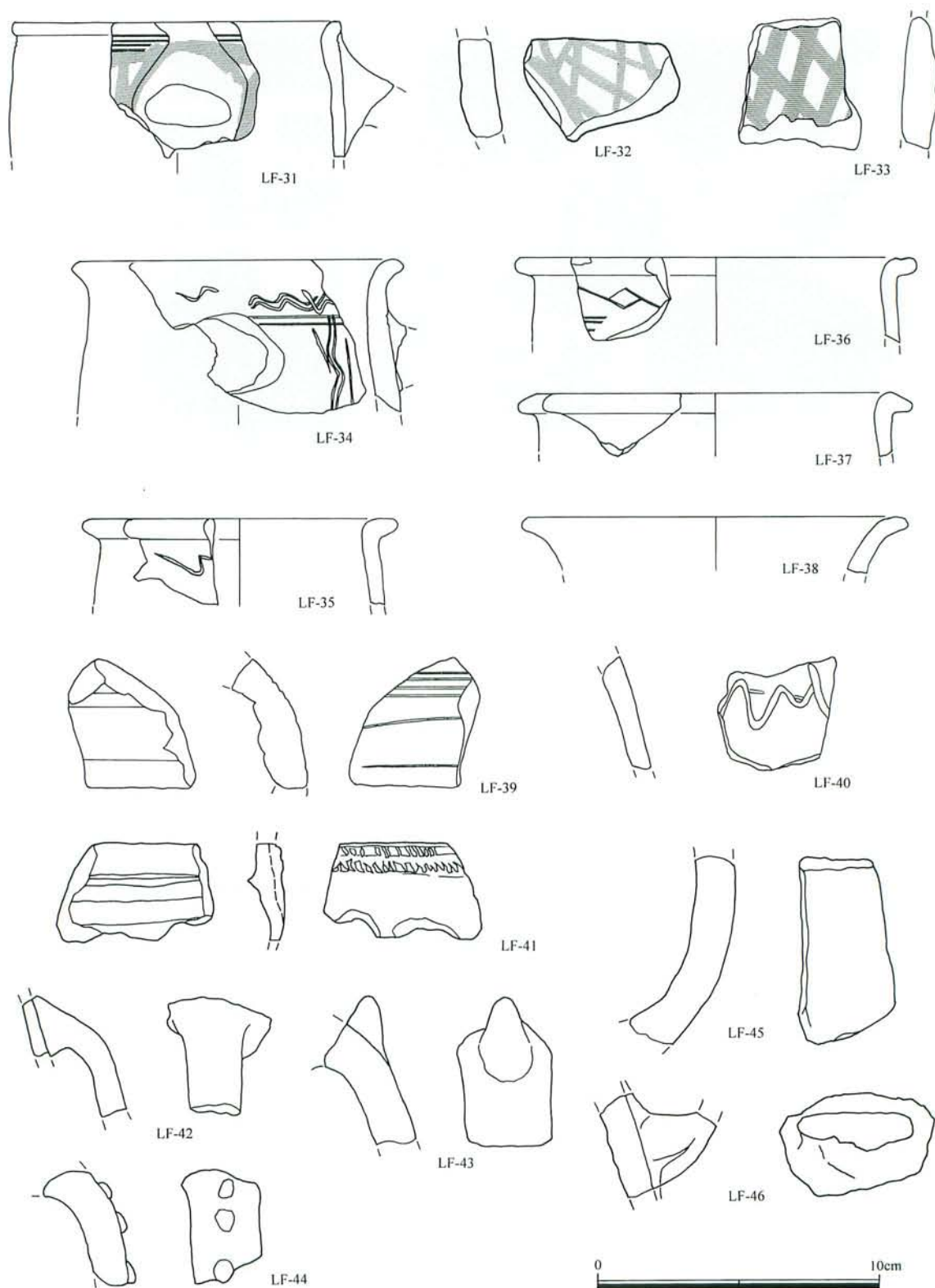
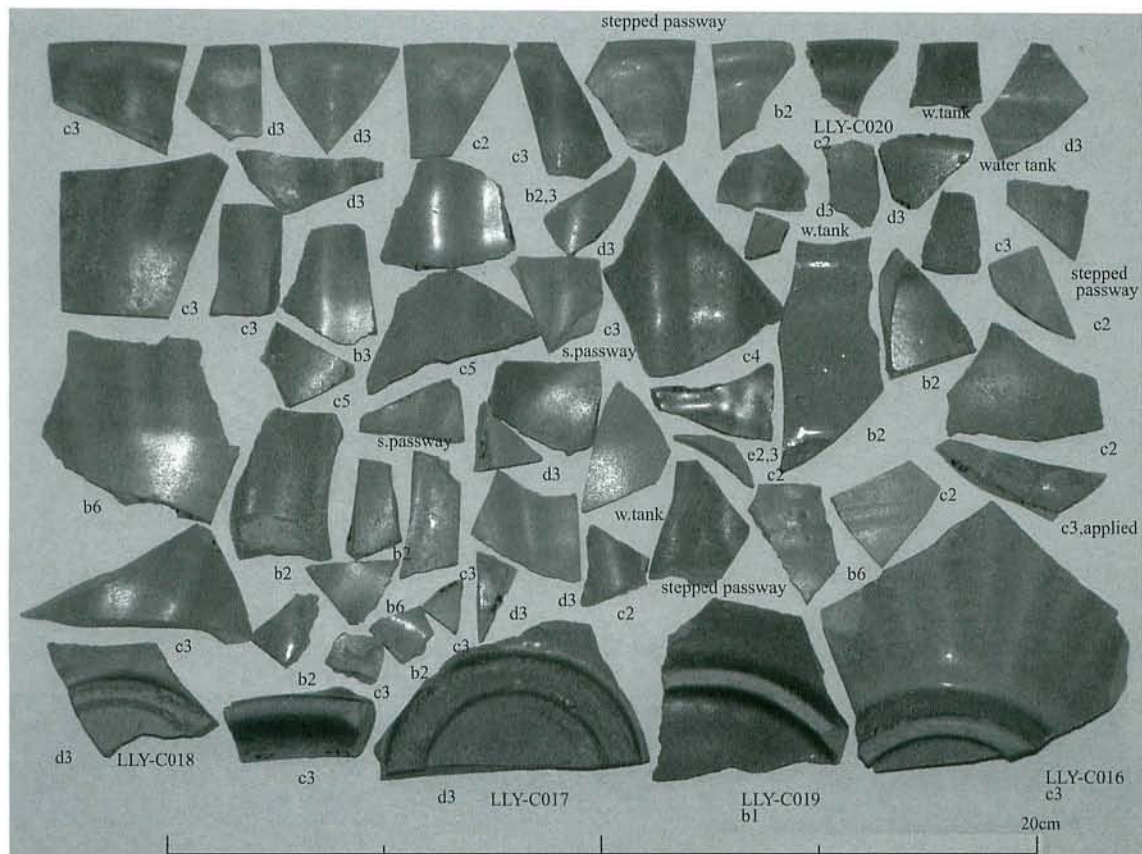
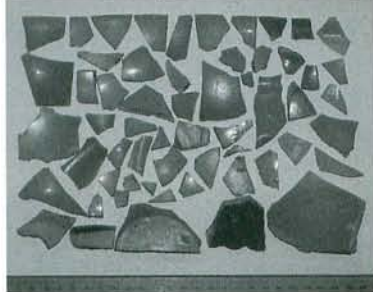


Figure 19 Earthenware from Fort area at Luluiyah, Khor Fakkan



a1 Exterior. Chinese green ware excavated from Luluyiah Fort, showing found places. Most of them were bowls and made at Longquan kiln 竜泉窯 in the later half of 13th century and the first quarter of 14th century.



a2 Interior.



b2 Interior.



b1 Exterior. Chinese green ware collected from Luluyiah Fort.

c greenware, found at the step

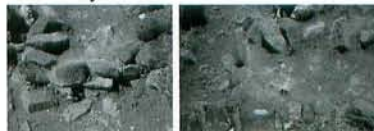
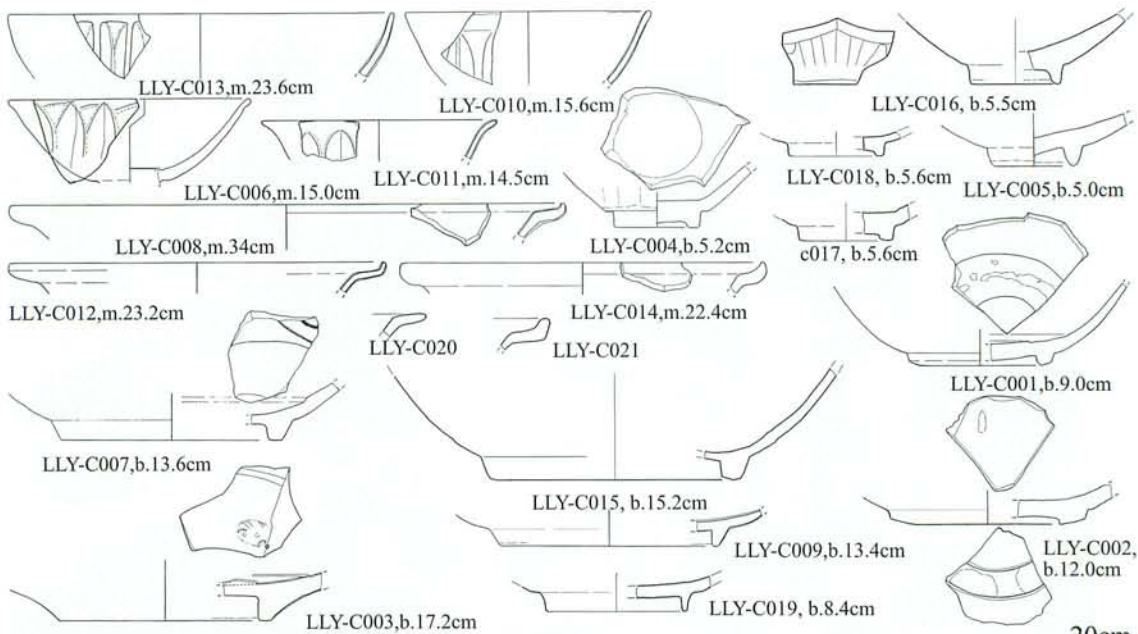


Figure 20 Chinese green ware from Luluyiah Fort

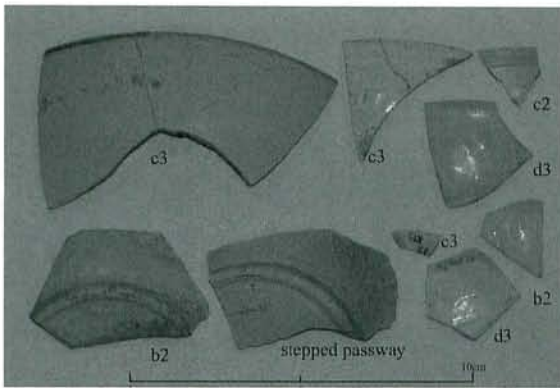
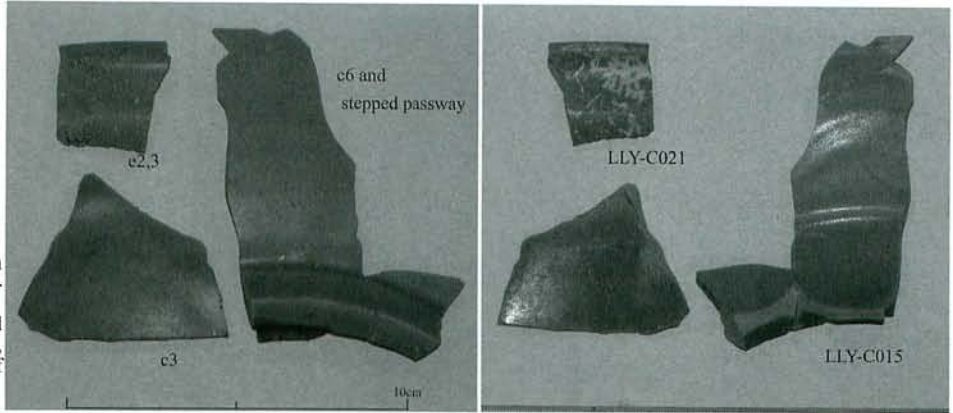


3a Chinese green glazed ware, or celadon. Longquan kiln 竜泉窯 except C001 and C002.

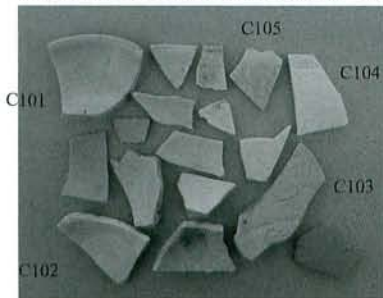


Figure 21 Chinese green ware from Luluiyah Fort

Chinese Green ware from Luluyah fort LLY-C021 and C015, green ware, large bowls, 1/4 of the 14th century.



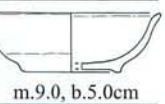
Chinese white ware excavated from Luluyah Fort, showing found places. latter half of the 13th and 1/4 of the 14th century.



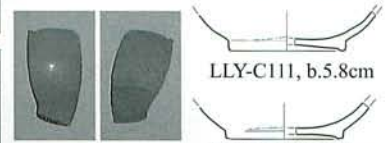
Chinese white ware, surface collection.



LLY-C101, white covered box, latter half of the 13th to 1/4 of the 14th century.



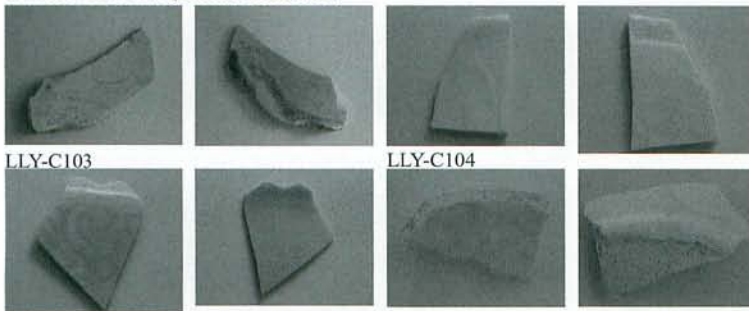
LLY-C102, b.5.0cm



LLY-C107

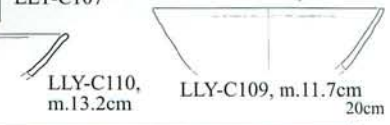
LLY-C111, b.5.8cm

LLY-C112, b.6.0cm



LLY-C103  
LLY-C105  
LLY-C106, b.6.4cm

LLY-C104  
LLY-C106  
LLY-C108, m.17.2cm

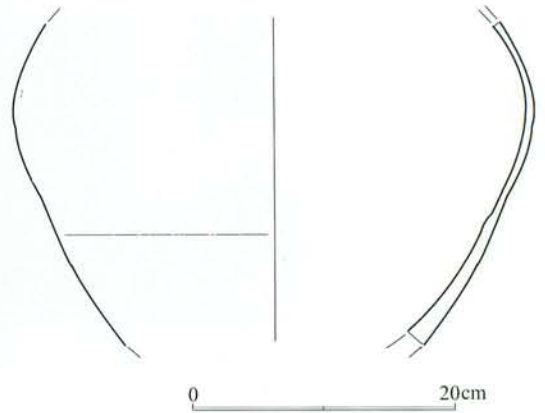
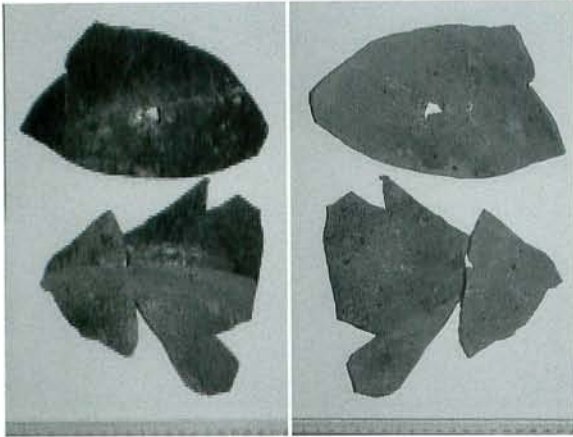


LLY-C110, m.13.2cm

LLY-C109, m.11.7cm

Figure 22 Chinese white ware from Luluyah Fort

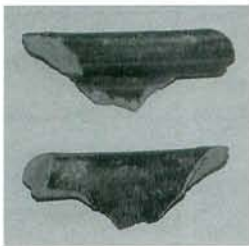




LLY-C203, brown glazed large jar, wall diameter 40cm, found at C2 and B1



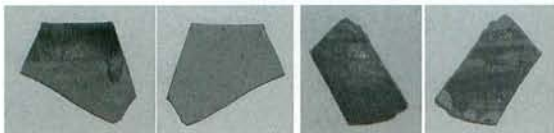
LLY-C201,C206, Large jar found at C2,B1,surface



LLY-C202, brown glazed Jar, m.12.1cm

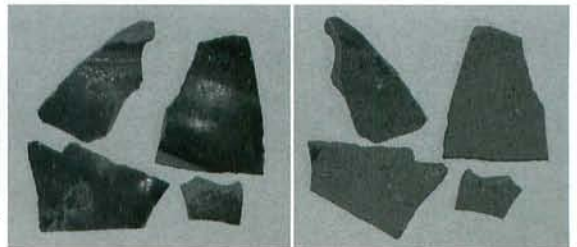


LLY-C203, Large jar collected from surface



LLY-C204, brown glazed jar, found at D3

LLY-C205, brown glazed jar, surface



LLY-C206, brown glazed jar, surface

Figure 23 Chinese brown glazed ware from Luluyah Fort

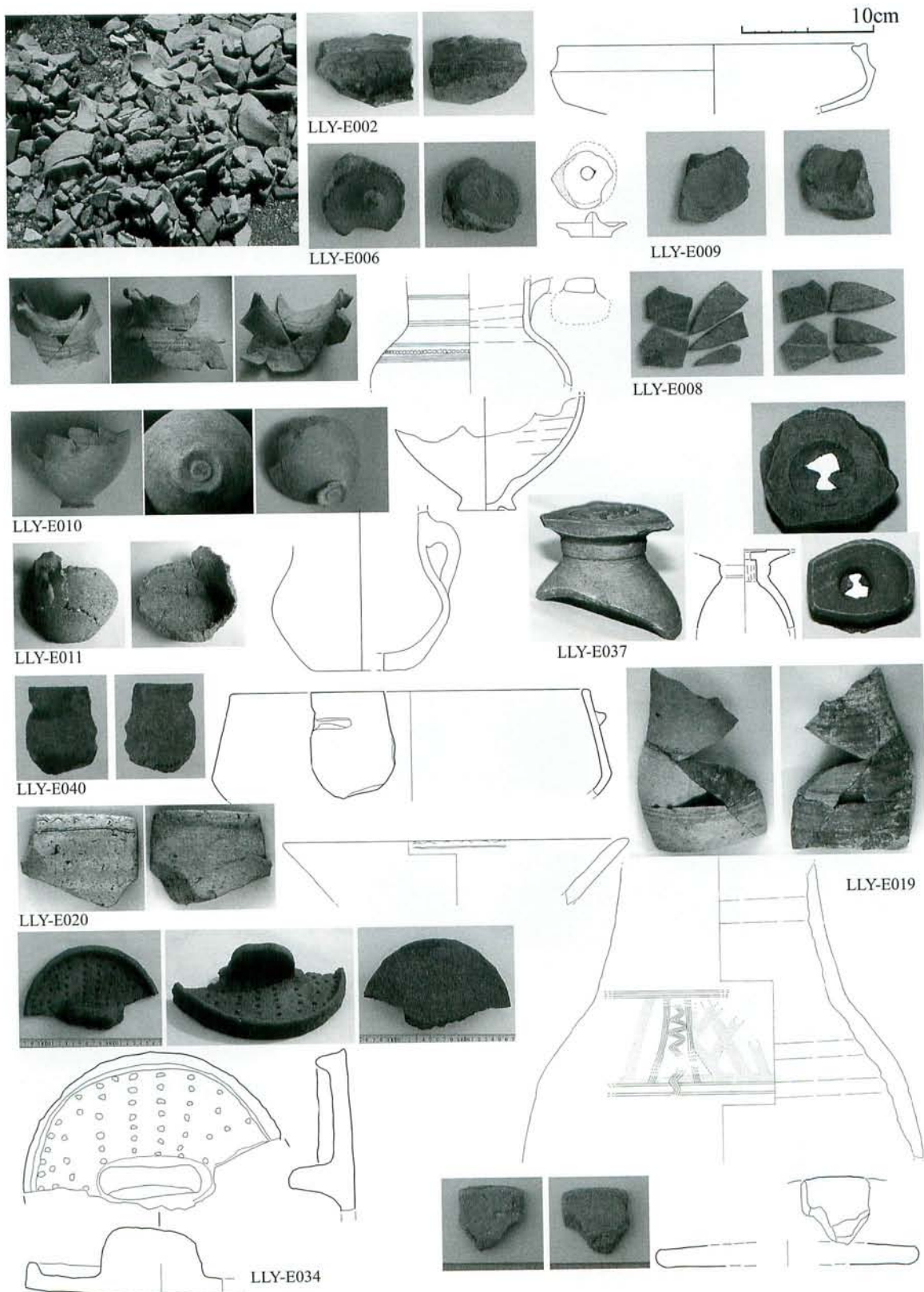
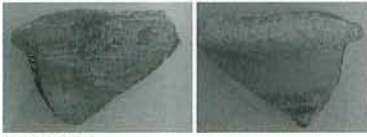
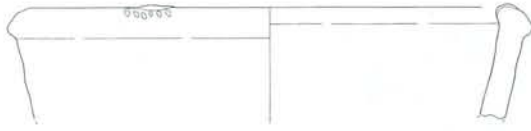


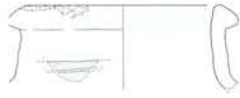
Figure 24 Earthenware from Luluyah Fort



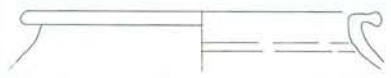
LLY-E027



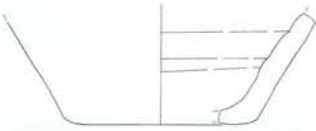
LLY-E028



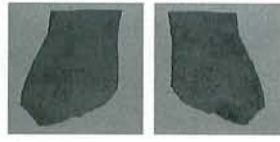
LLY-E012



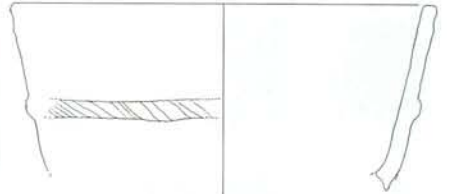
LLY-E013



LLY-E014



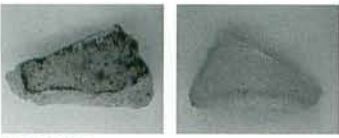
LLY-E030



LLY-E032



LLY-E033



LLY-E015



LLY-E018



LLY-E016

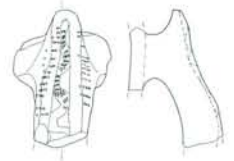


Figure 25 Earthenware from Luluyah Fort

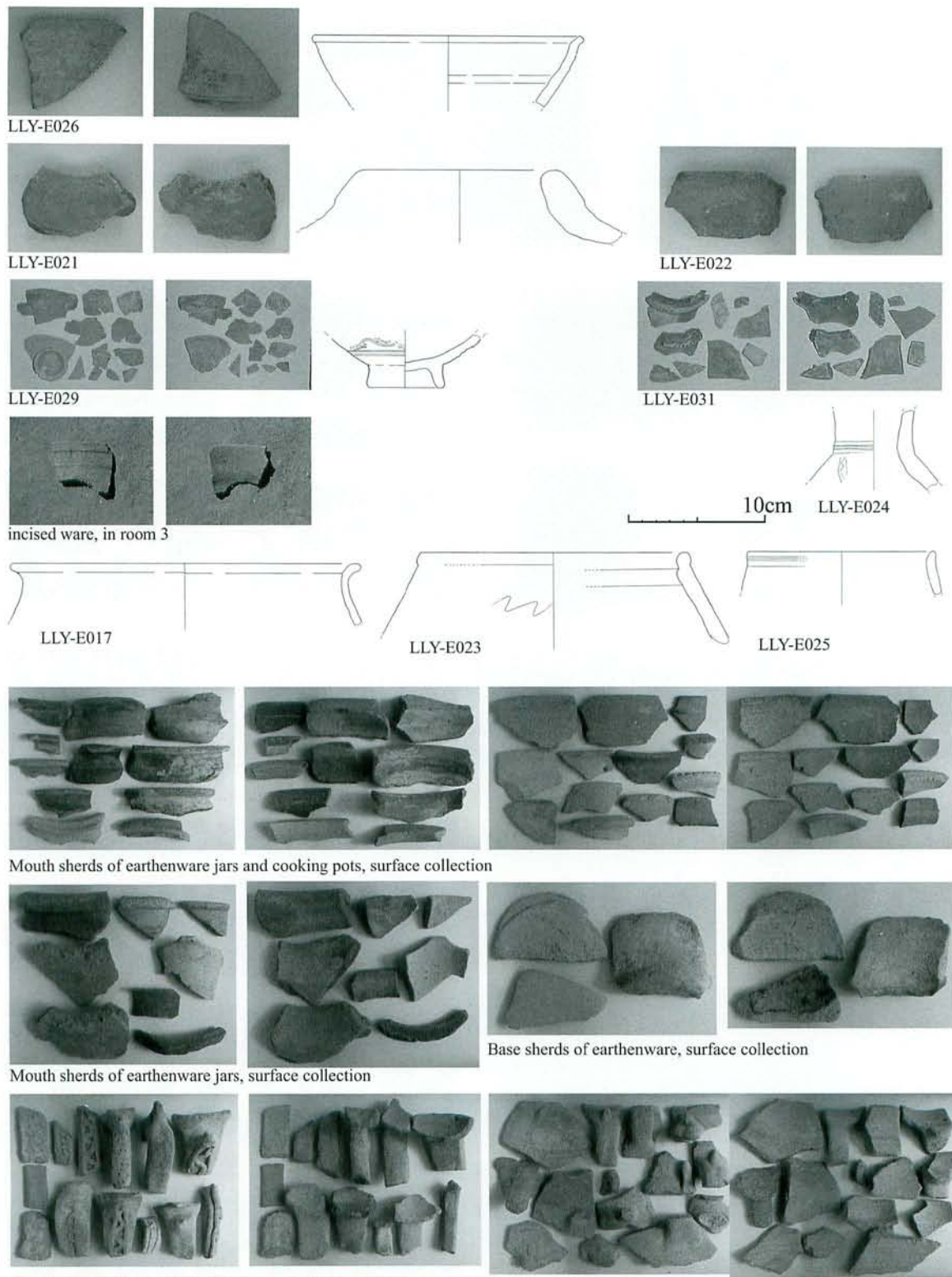


Figure 26 Earthenware from Luluyiah Fort



Red painted sherds of earthenware, surface collection



Earthenware sherds, surface collection

Incised decoration sherds of earthenware, surface collection



Incised decoration sherds of earthenware, surface collection

Earthenware sherds, surface collection



Earthenware sherds, surface collection

Earthenware sherds, surface collection



Earthenware sherds, surface collection

Earthenware sherds, surface collection



Incised decoration sherds of earthenware, surface collection

Earthenware sherds, surface collection



Bases of Earthenware vases, surface collection

Handles of Earthenware, surface collection

Figure 27 Earthenware sherds, surface collection

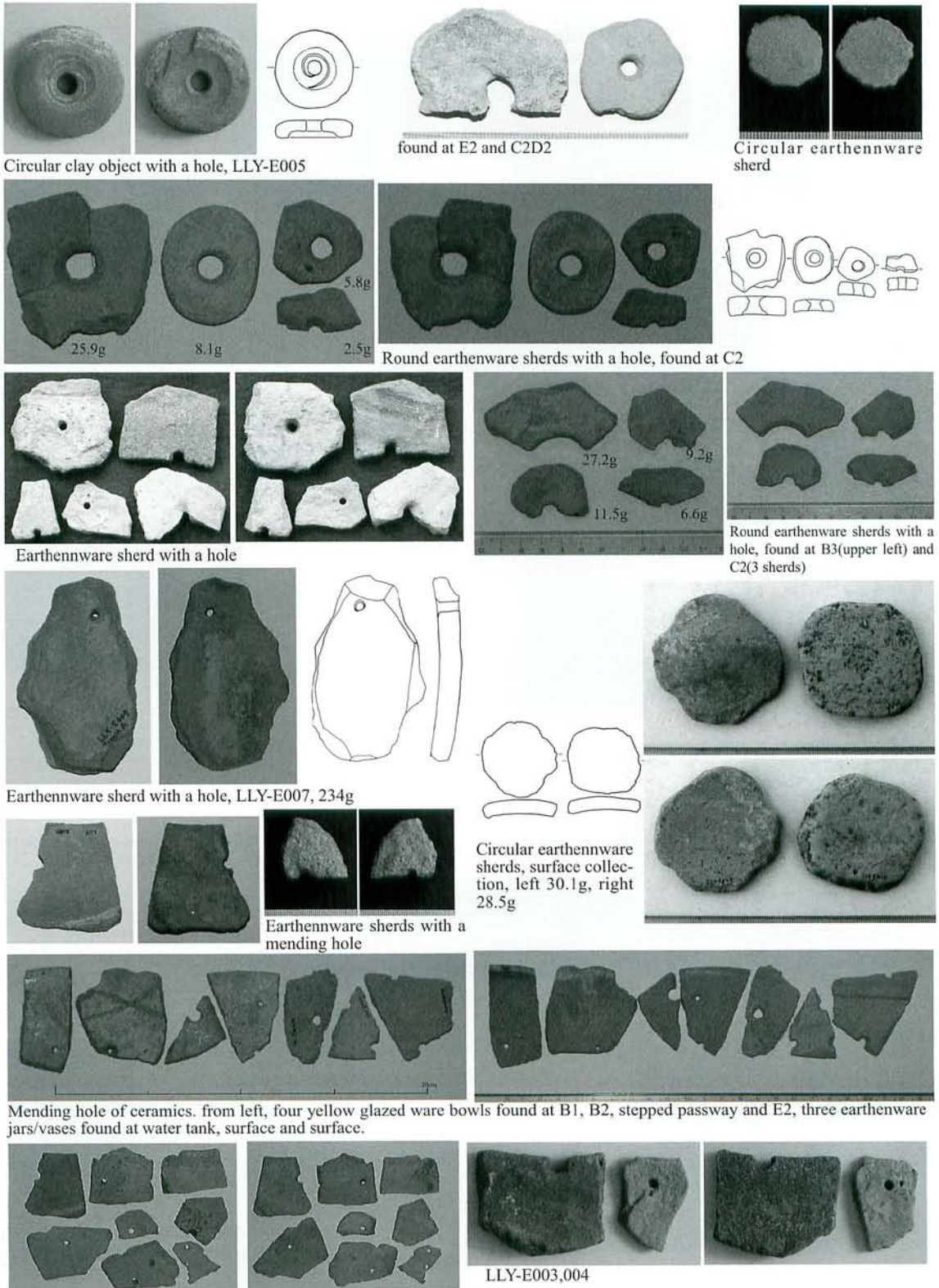


Figure 28 Earthenware with holes and Clay objects from Luluyah Fort.

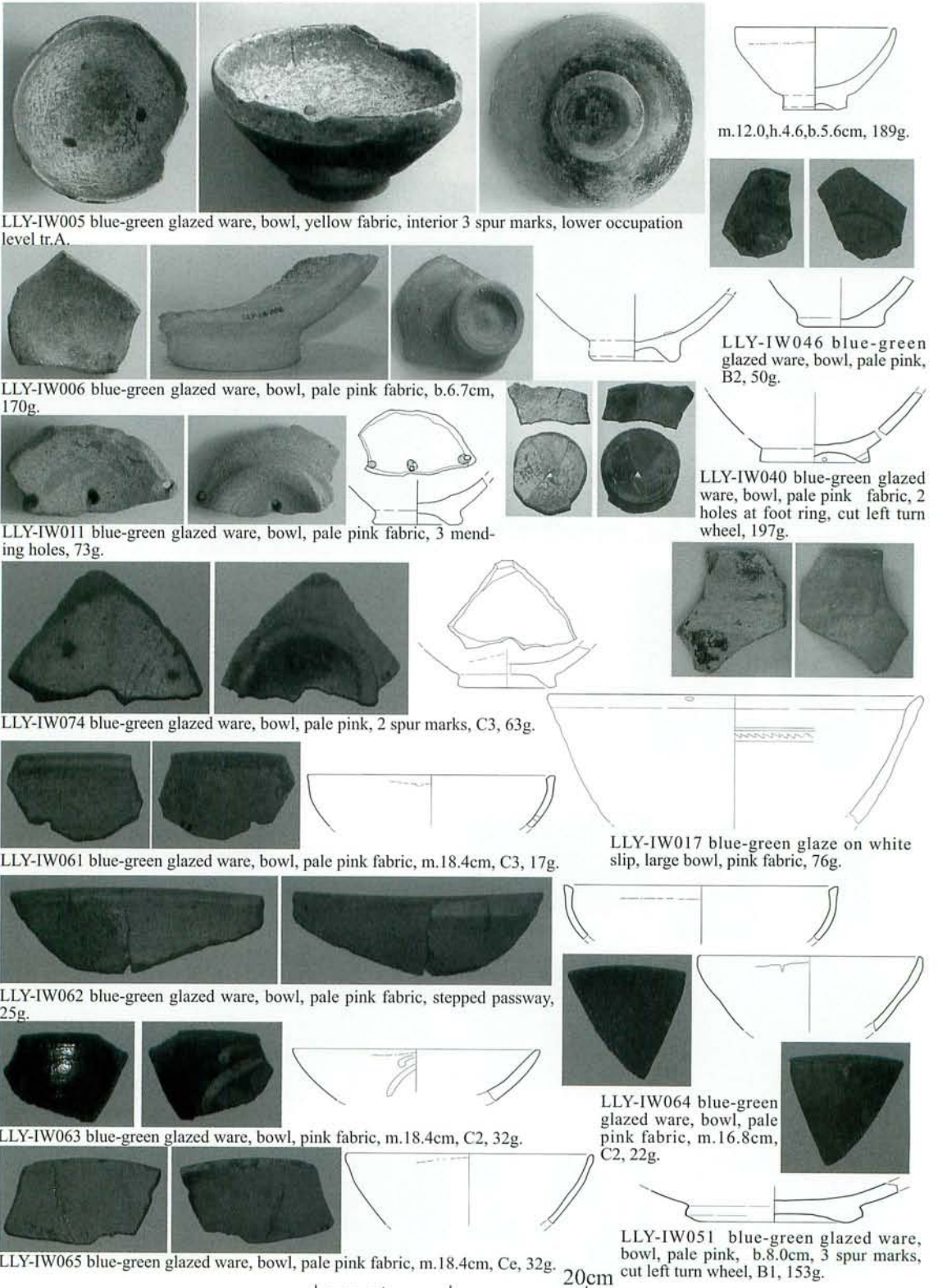


Figure 29 Green glazed ware, Luluyah fort

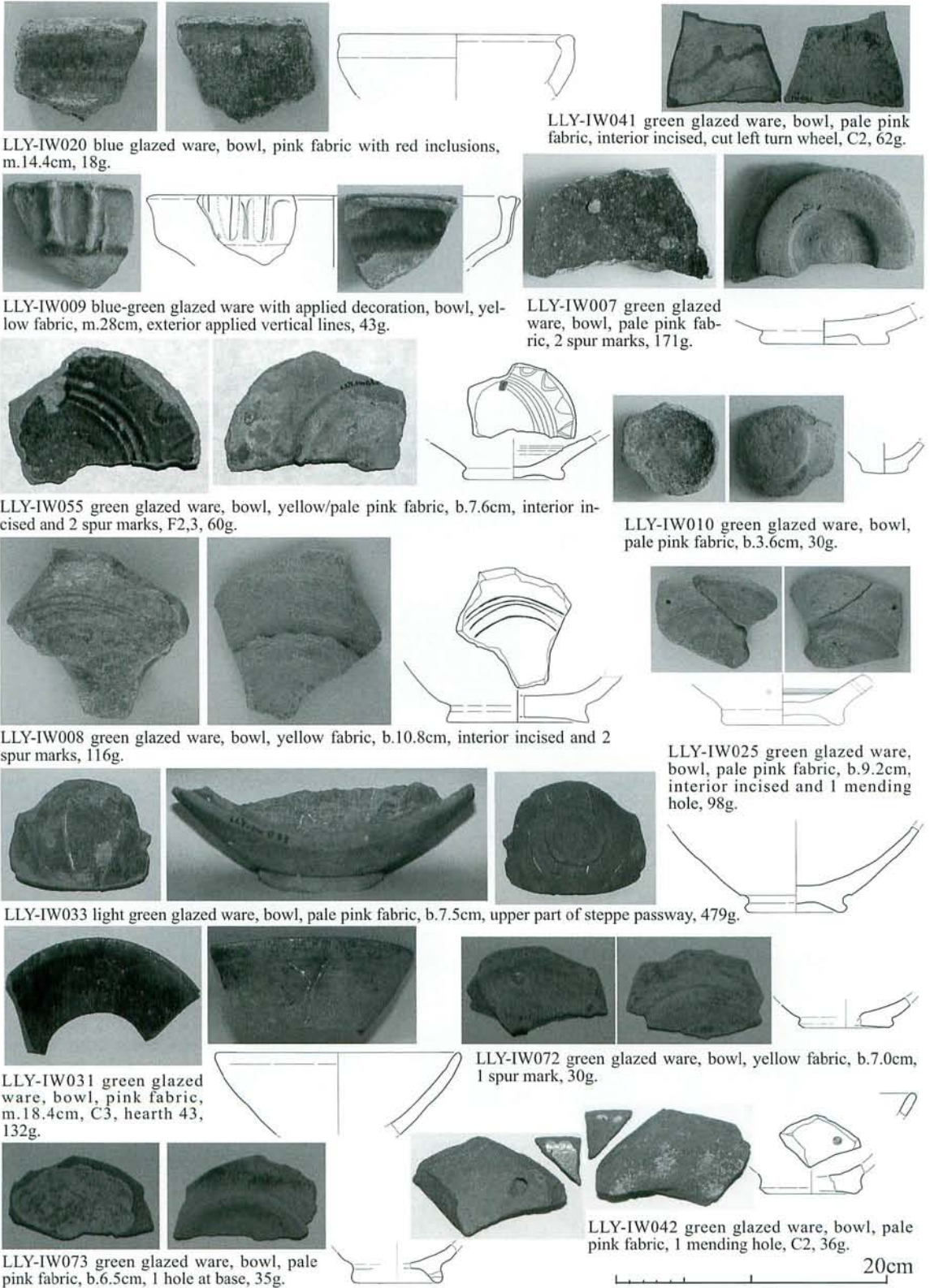


Figure 30 Green glazed ware, Luluyiah fort



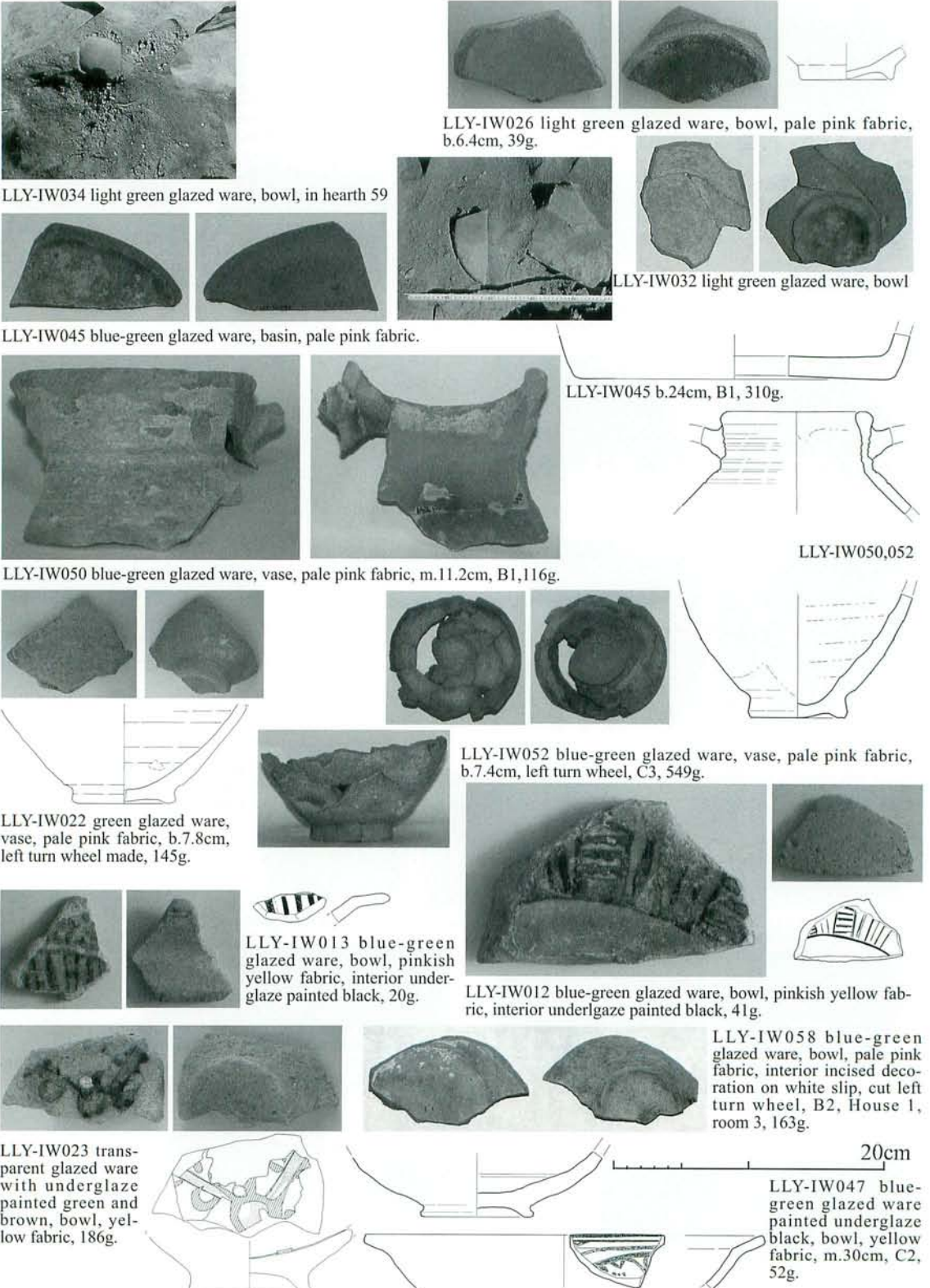


Figure 31 Green glazed ware, Green glazed ware with underglazed black decoration, Luluiyah fort

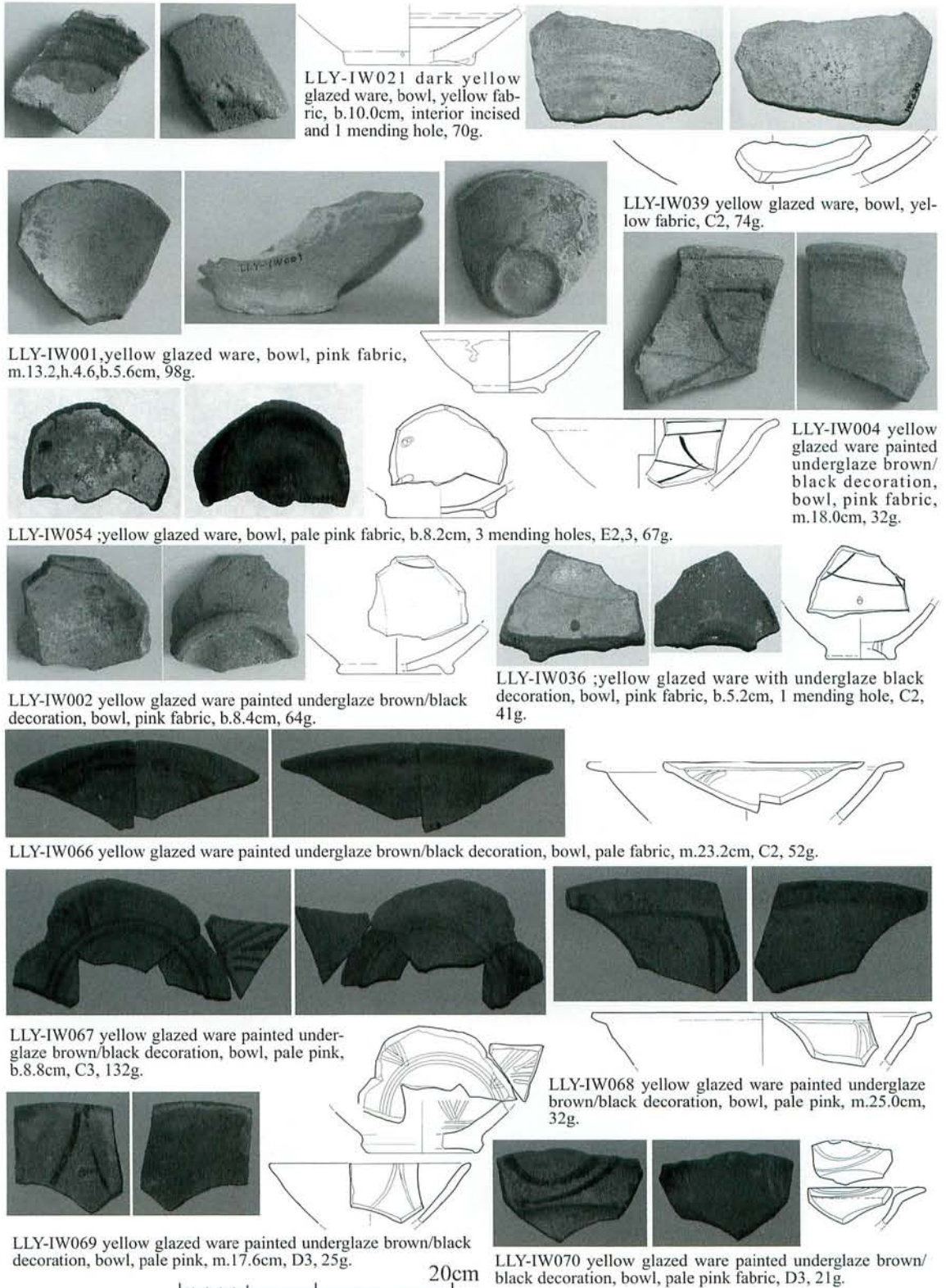
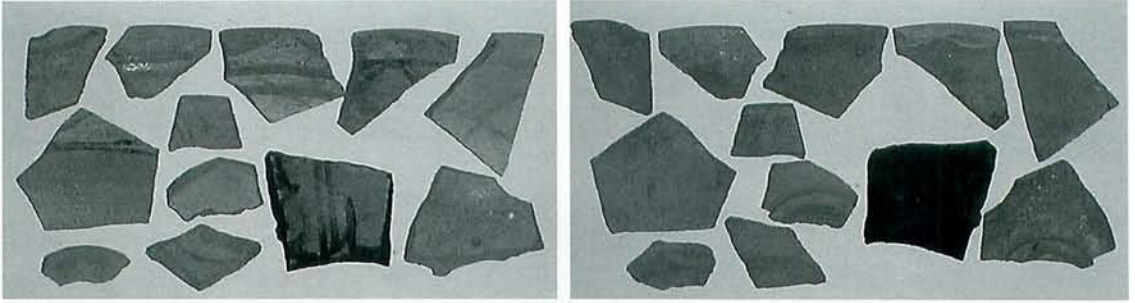
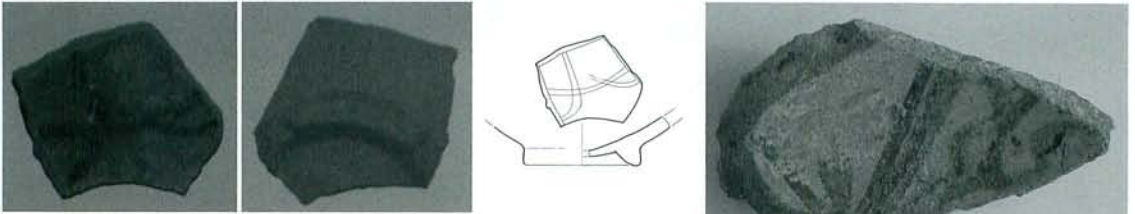


Figure 32 Yellow glazed ware, Yellow glazed ware with underglazed black decoration, Luluyah fort



Yellow glazed ware painted underglaze brown decoration, bowls, found at C2 grids.



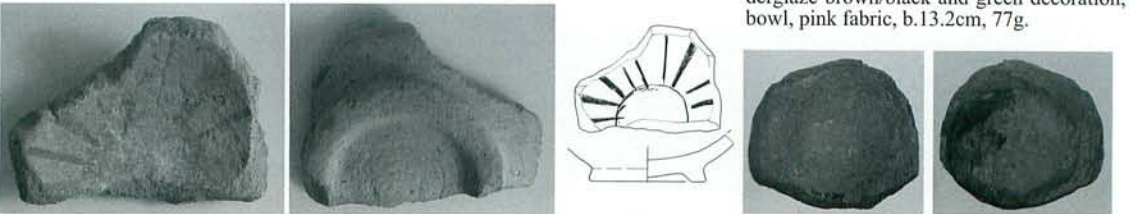
LLY-IW071 yellow glazed ware painted underglaze brown/black and green decoration, bowl, pale pink fabric, b.7.0cm, D3, 43g.



LLY-IW030 yellow glazed ware, dish, pink fabric, m.23.2cm, D2, 101g.



LLY-IW003 yellow glazed ware painted underglaze brown/black and green decoration, bowl, pink fabric, b.13.2cm, 77g.



LLY-IW015 Yellow glazed ware, bowl, pink fabric, b.7.2cm, 1 spur mark, 80g.



LLY-IW037 yellow glazed ware, vase, pink fabric, b.7.0cm, C2, 137g.

LLY-IW014 yellow glazed ware, bowl, yellow fabric, b.8.8cm, painted underglaze black, 1 spur mark, 173g.

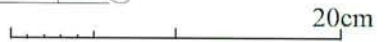
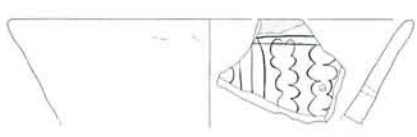
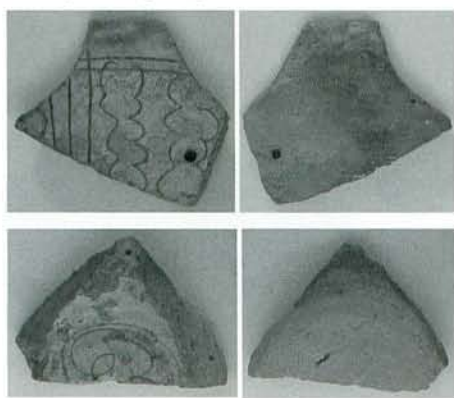
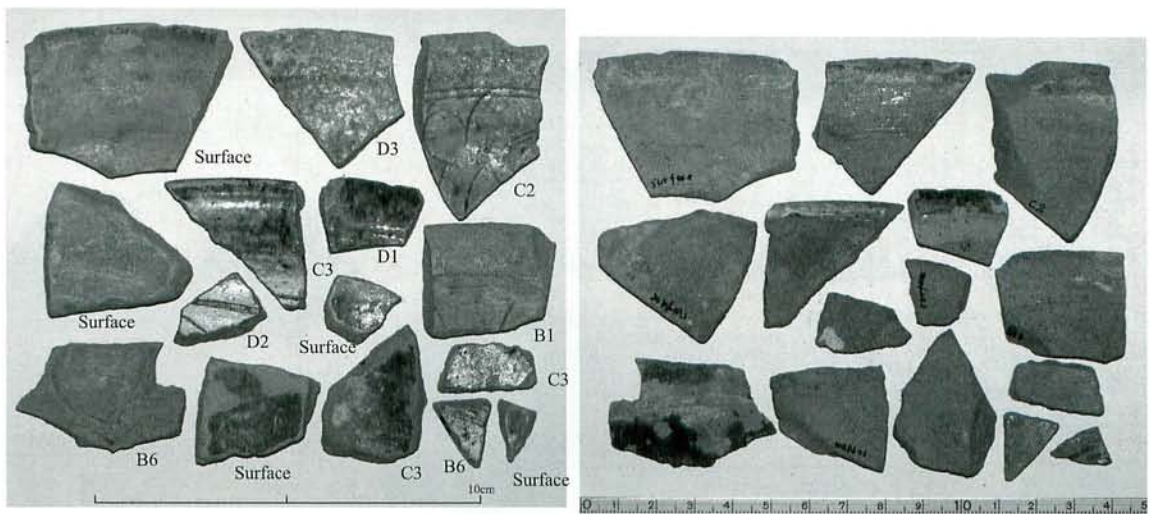
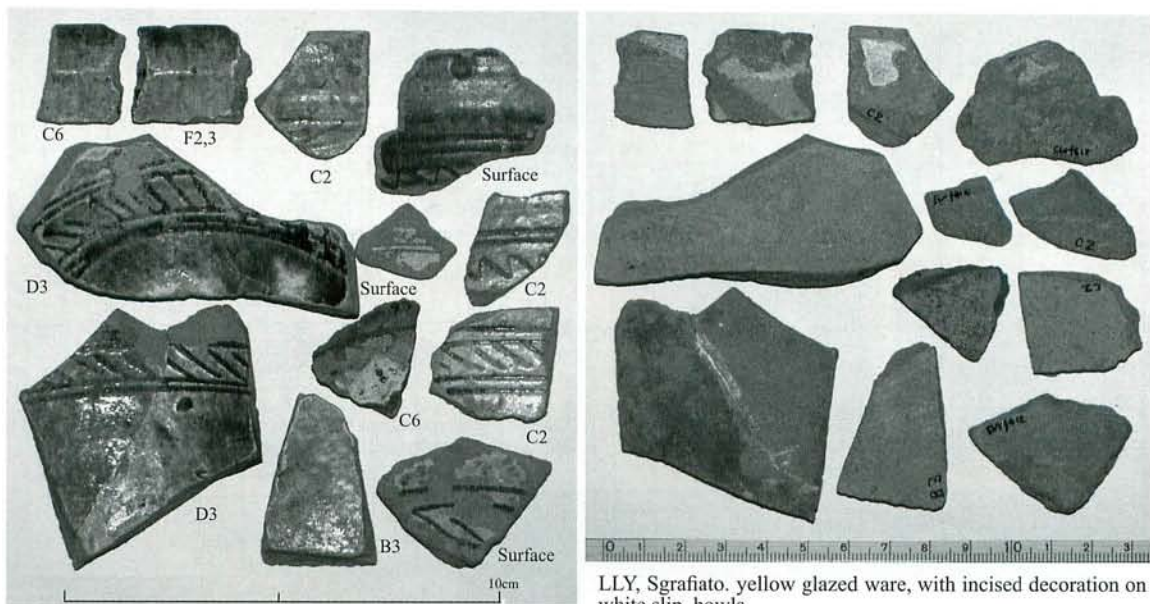


Figure 33 Yellow glazed ware, Yellow glazed ware with underglazed black decoration, Luluyah fort



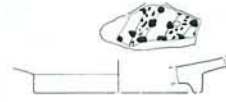
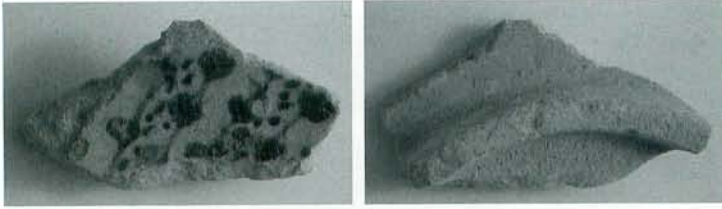
LLY-IW018 Sgrafiato, yellow glazed ware, with incised decoration on white slip and splashed green glaze, bowl, pink fabric, m.24.6cm, 1 mending hole, 42g.



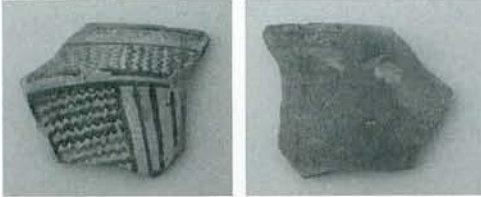
LLY-IW024 green glazed ware with incised decoration on white slip, bowl, pink fabric, b.7.4cm, 41g.

20cm

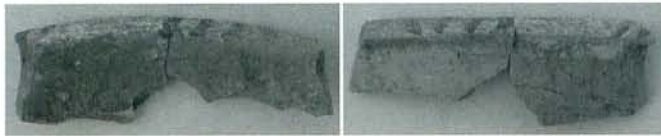
Figure 34 Sgrafiato, yellow glazed ware and green glazed ware with incised decoration on white slip, Luluyiah fort



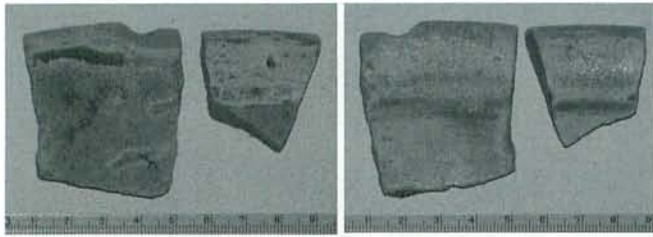
LLY-IW016 transparent glazed ware, bowl, yellow fabric, b.10.4cm, painted underglaze brown, 1 mending hole, 20g.



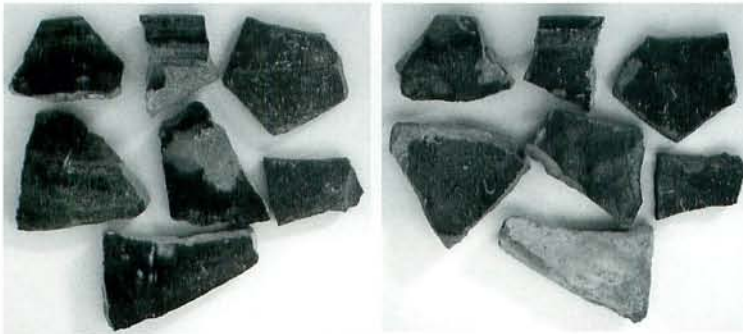
LLY-IW059 transparent glazed ware, bowl, yellow fabric, m.36cm, painted underglaze brown, water tank deposit, 70g.



LLY-IW060 transparent glazed ware, bowl, yellow fabric, m.27.8cm, painted underglaze brown, water tank deposit, 27g.

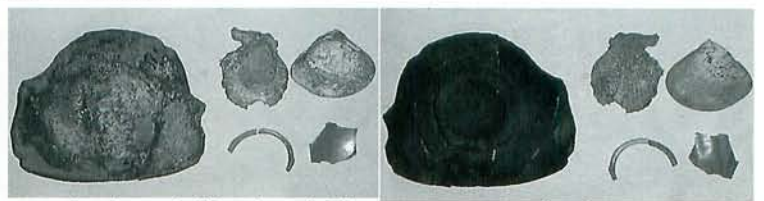


LLY-IW056 Opaque white glazed ware painted green, bowl, yellow fabric, B3,C3, 34g.



LLY-IW038 brown glazed ware (interior: light green glaze), vase, pink fabric, C2, 41g.

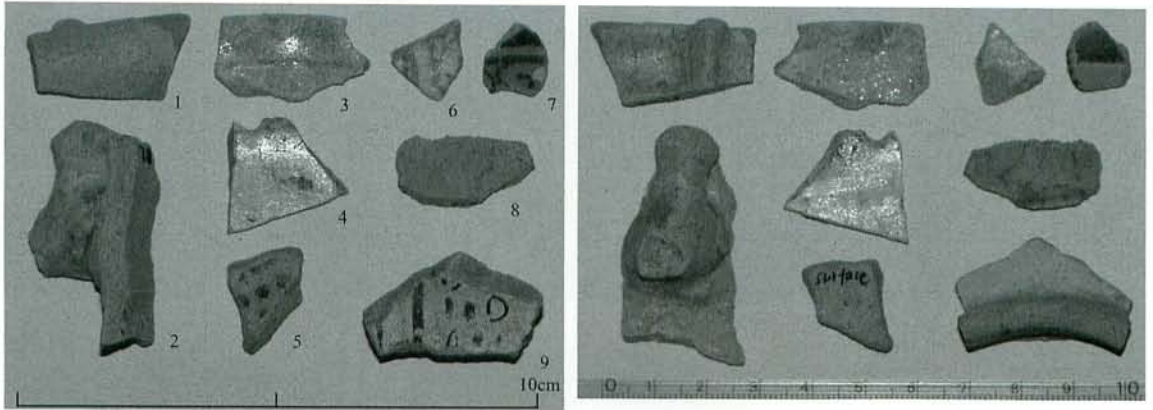
LLY-IW019a,b,c,d,e brown glazed ware, vase, pink fabric, 128g.



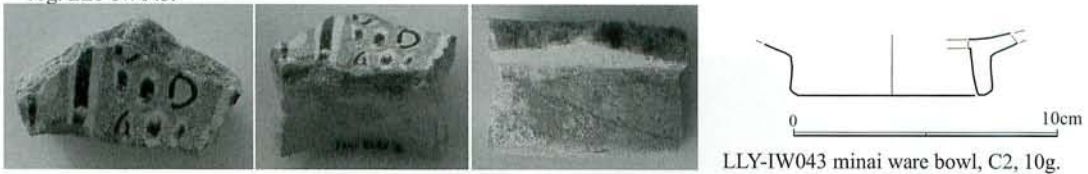
green glazed ware, shell, bangles and Chinese green ware, found at the upper parts of the stepped passway.

20cm

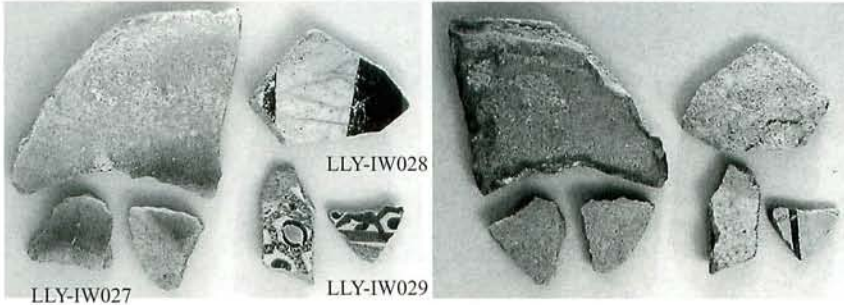
Figure 35 Transparent glazed ware, Yellow glazed ware with black decoration, Brown glazed ware, and green glazed ware, Luluyah fort



1. Opaque white glazed ware, bowl, yellow fabric, applied decoration on exterior rim, found at C5, 4g. LLY-IW057.
2. Green glazed ware, handle of vase, yellow fabric, found at B2.
3. Light green glazed ware, bowl, yellow fabric, Wavy rim, found at C2.
4. Green glazed ware, bowl, yellow fabric, petal shaped rim, found at B2.
5. Transparent glazed ware painted underglaze black decoration, bowl, yellow fabric, surface collection.
6. Transparent glazed ware painted underglaze black decoration, bowl, pale pink stone paste fabric, 1g.
7. Blue-green glazed ware painted underglazed black decoration, bowl, pale pink stone paste fabric, surface collection, 1g.
8. Green (?opaque white) glazed ware, pale pink stone paste fabric, bowl, found at water tank, 3g.
9. Minai ware. White glazed ware painted blue, green, brown and black, on white glaze, bowl, pale pink clay+stone paste fabric, 10g. LLY-IW043.



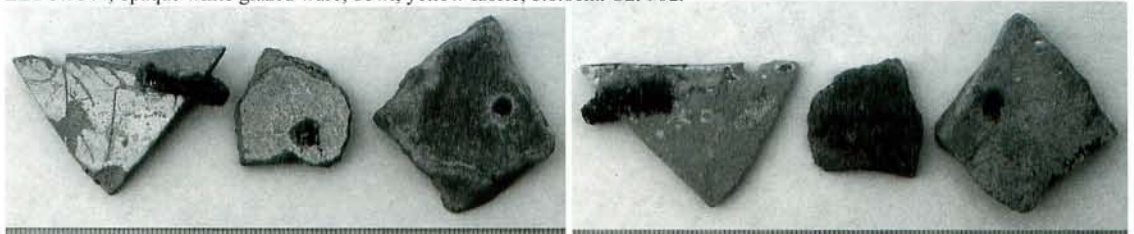
LLY-IW043 minai ware bowl, C2, 10g.



- LLY-IW027 grayish green glazed ware with green painted overglaze decoration, bowl, white/pink fabric, 12g.  
 LLY-IW028 transparent glazed ware painted underglaze cobalt blue and green, white/pink fabric, 3g.  
 LLY-IW029 minai ware, bowl, white/pink stonepaste fabric, surface collection, 2g.

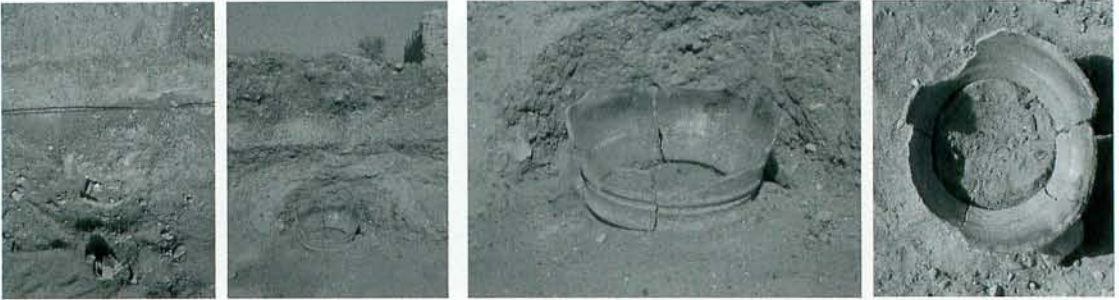


LLY-IW044, opaque white glazed ware, bowl, yellow fabric, b.6.8cm. C2. 90g.



Iron sticks and mending holes; Left LLY-IW049 sgraffiato bowl, pink fabric, C3, 9g. Middle yellowish green glazed bowl, pink fabric, from stepped passway. Right dark yellow glazed ware with white slip, pink fabric, from surface collection.

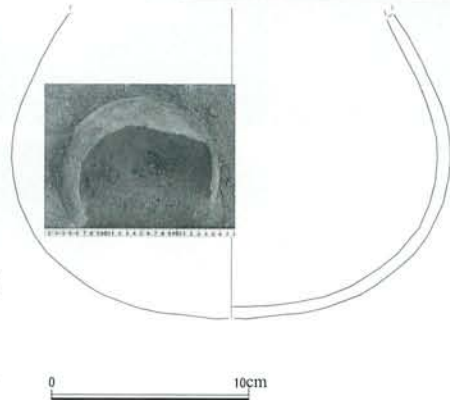
Figure 36 Glazed ware, Luluyah fort



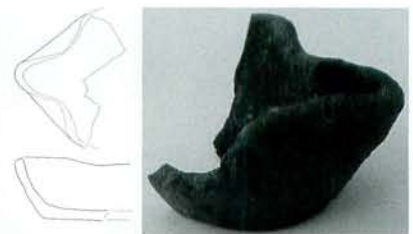
Hearth 4, 10.22m, layer 2. Mouth of earthenware jar, FJR004 was set on the ground upside down as a hearth. Upper part of interior was blackend. White ash was filled inside jar.



FJR001, cooking pot, red fabric, level, 10.63m. Layer 1.

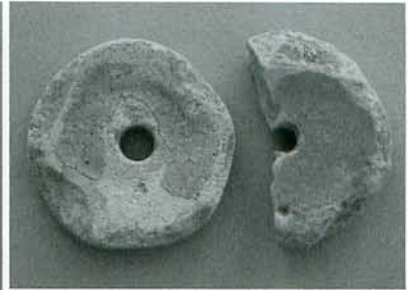
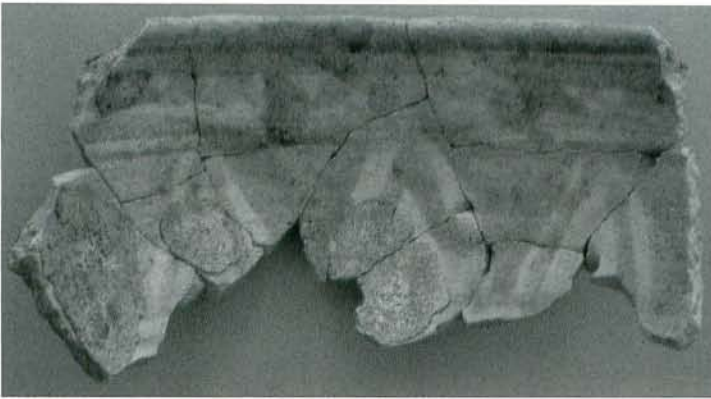


FJR002, earthenware jar, red fabric with red and black inclusions, mouth diameter 13.8cm, layer 1.



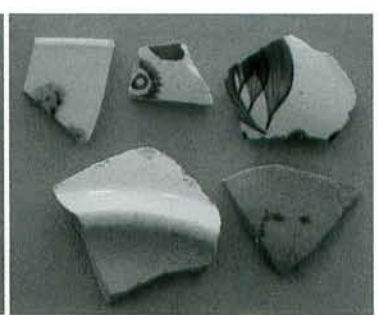
FJR003, earthenware lamp, black/red fabric with white inclusions, layer 1, 10.21m.

Figure 37 Ceramics from Trench 1, Fujairah old town site.



Sherds with a hole, from Trench 1, Fujairah old town site.

Pale blue glazed ware large bowl with unhderglaze painted brown, from Trench 1, Fujairah old town site.



European ware, from Trench 1, Fujairah old town site.



Chinese blue-and-white bowls, from Trench 1, Fujairah old town site.



Chinese blue-and-white bowls, from Trench 1, Fujairah old town site.



Chinese blue-and-white bowls, from Trench 1, Fujairah old town site.



Chinese white ware bowls, from Trench 1, Fujairah old town site.

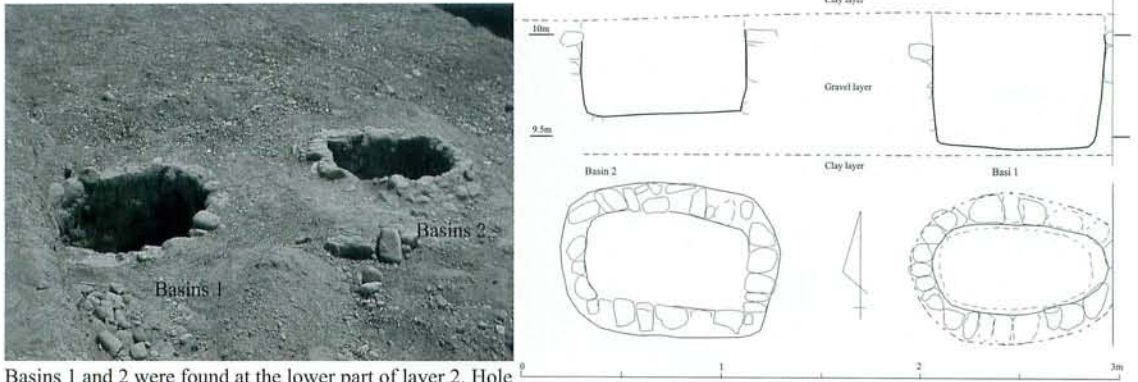
Chinese blue-and-white bowls, from Trench 1, Fujairah old town site.



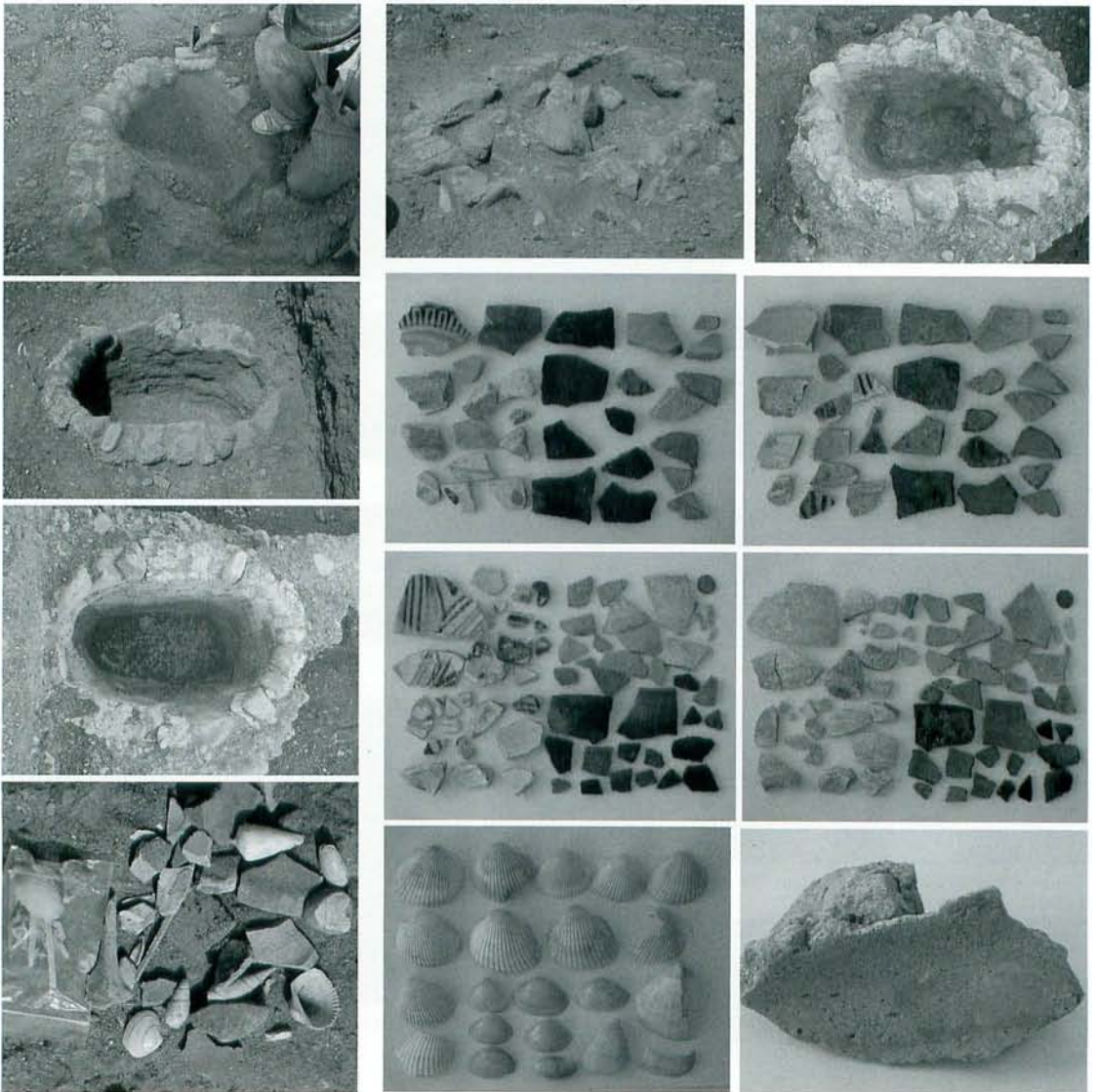
Pale blue glazed ware, from Trench 1, Fujairah old town site.

Figure 38 Ceramics from Trench 1, Fujairah old town site.





Basins 1 and 2 were found at the lower part of layer 2. Hole was dug into gravel layer and clay was plastered inside surface. Top parts of wall were made by 2 layers of round stones with clay. Deposited earth was same with layer 2 and materials found inside was also same with the one from layer 2. Wall stones which were falling down from the wall, were found at the upper parts of deposited earth.



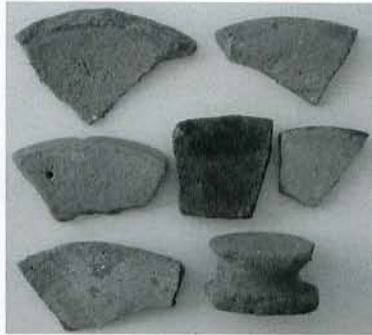
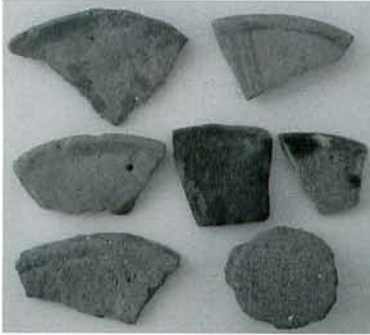
Left; Basin 1 and finds from inside.

Right; Basins 2 and finds from inside.

Figure 39 Basins 1 and 2, Trench 1, Fujairah old town site.



Layer 1, trench 1.



Lids of earthenware cooking pots, Layer 1, trench 1.

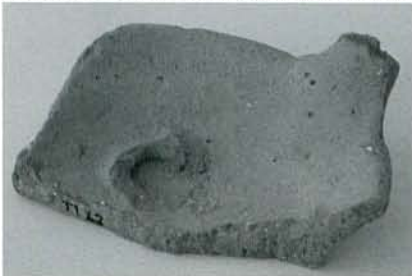


Glazed bowl with white slip, yellow clay layer, Layer 2, trench 1.



Lids of earthenware cooking pots, yellow clay layer, Layer 2, trench 1.

Bowl from yellow clay layer, Layer 2, trench 1.



Lamp from gravel layer, Layer 3, trench 1.



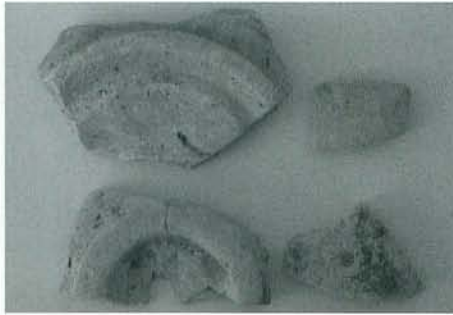
Spindle wheel from gravel layer, Layer 3, trench 1.

Finds from gravel layer, Layer 5, trench 1.

Figure 40 Ceramics from trench 1.



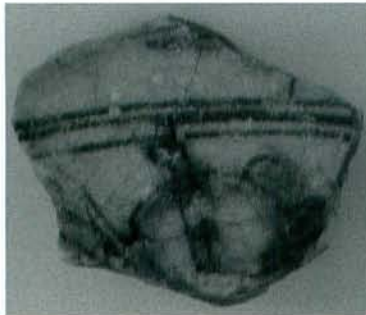
Earthenware, layer 1, Trench 2, Fujairah town site.



Yellow glazed ware bowls, layer 2, Trench 2, Fujairah town site.



Brown glazed ware bowls, layer 1, Trench 3, Fujairah town site.



Iranian blue-and-white bowl, stonepaste, Trench 4, Fujairah town site.

Finds from layer 1, Trench 4. Left: Transparent glazed ware, bowl, underglaze painted cobalt-blue and black, stonepaste fabric. Right; bowl, made in Holland



Figure 41 Ceramics from Trenches, Fujairah town site.

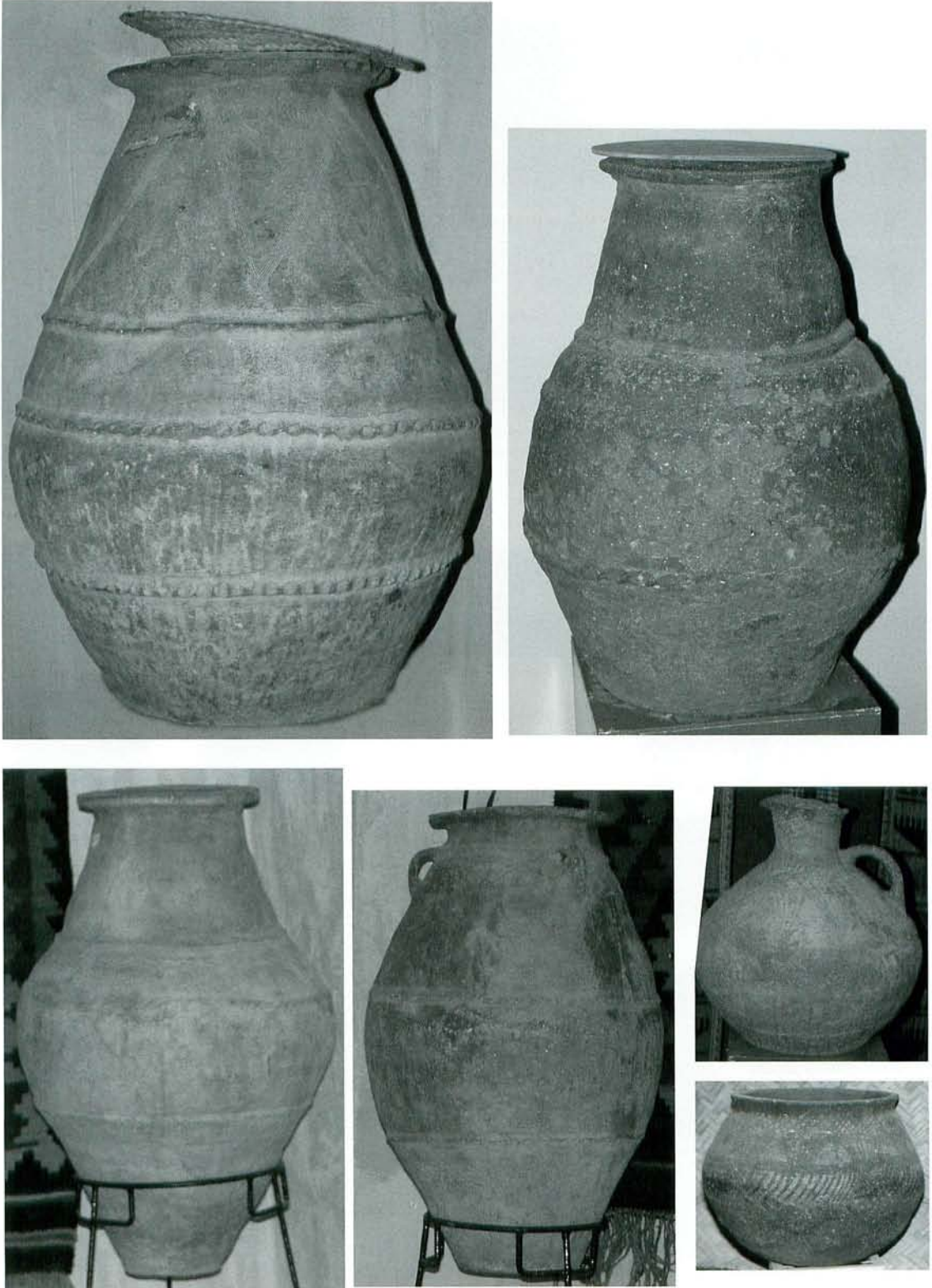
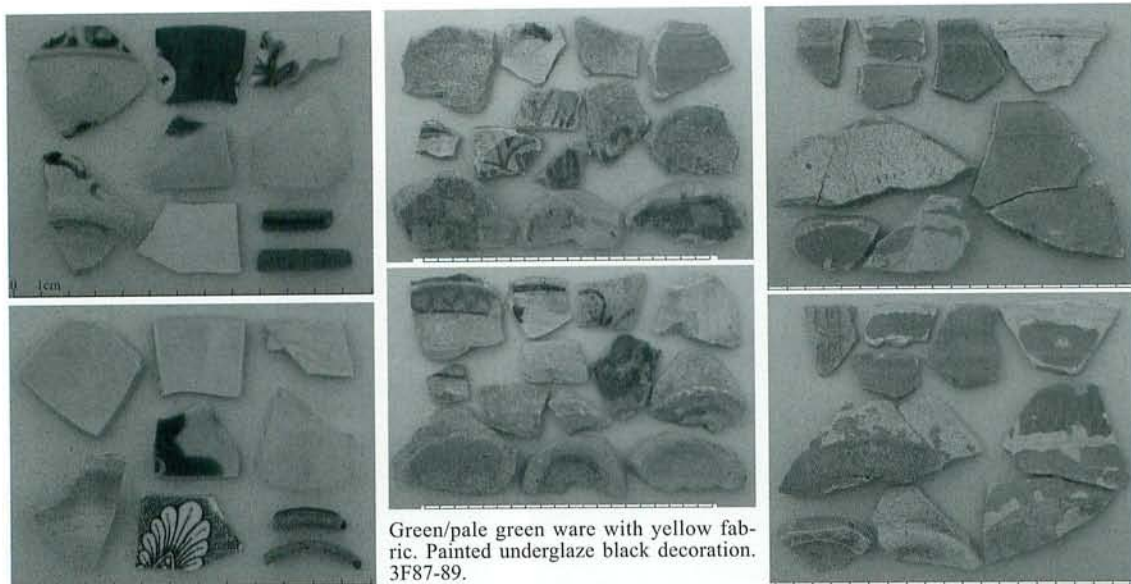


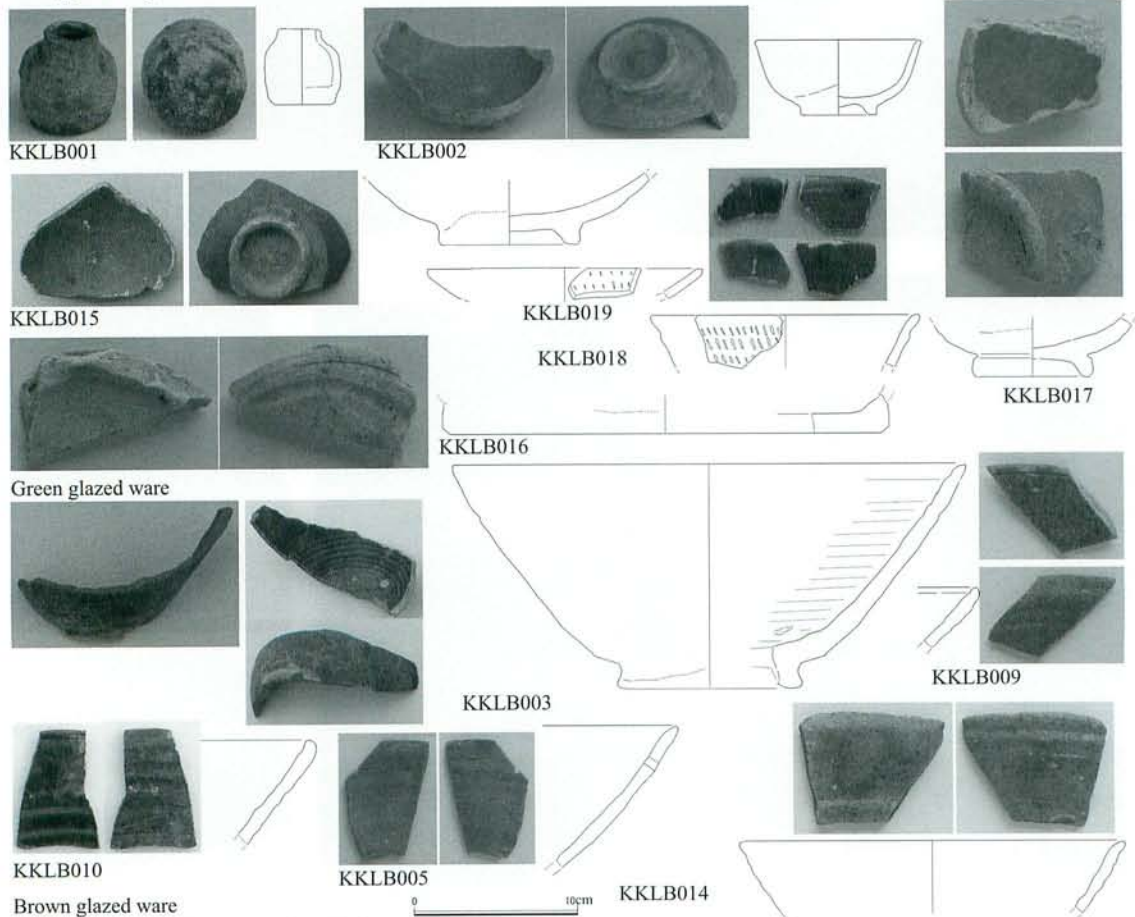
Figure 42 Earthenware jars, vases and cooking pots stored in Fujairah Museum.



Chinese blue-and-white, Iranian stonepaste blue-and-white, European print ware, Glass, glass bangles. 3F87-89.

Green/pale green ware with yellow fabric. Painted underglaze black decoration. 3F87-89.

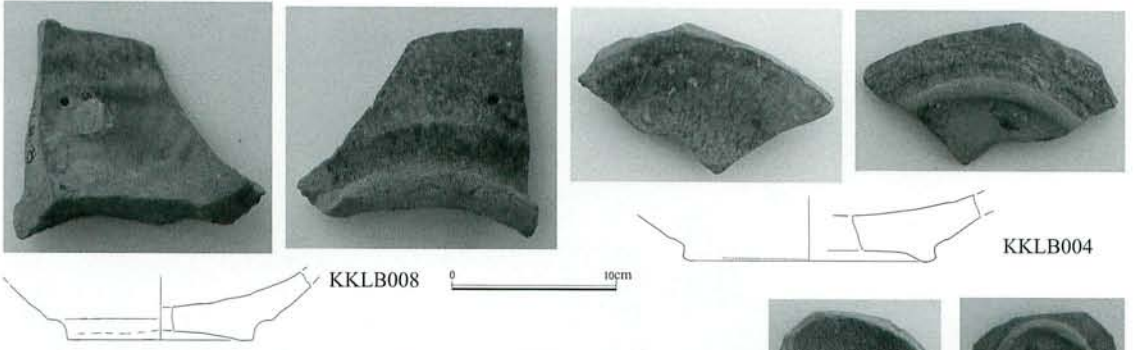
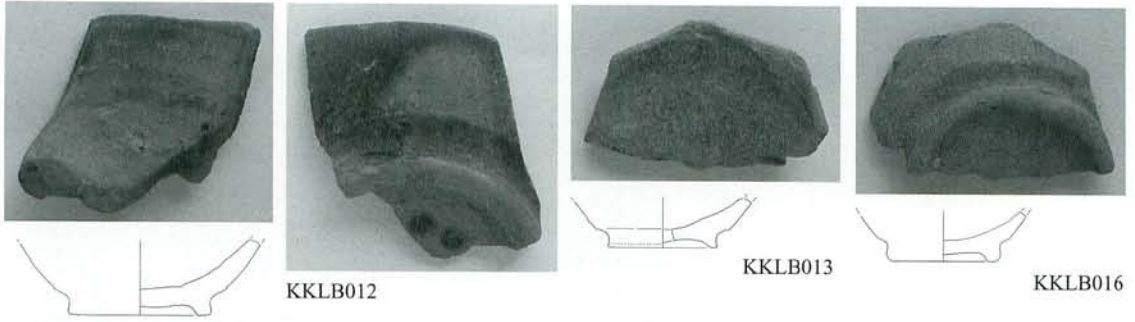
Yellow glazed ware with yellow fabric. Some are incised interior/exterior. 3F87-89.



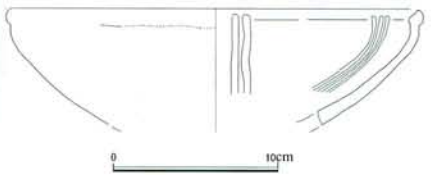
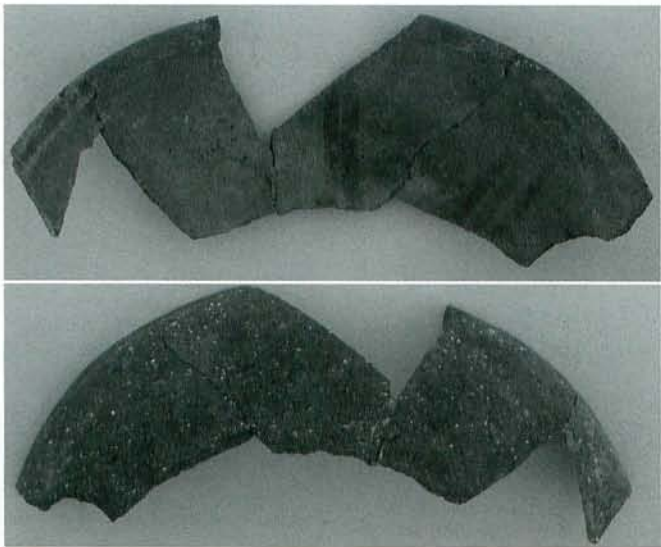
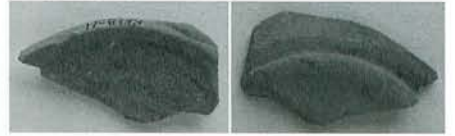
Green glazed ware

Brown glazed ware

Figure 43 Ceramics from Khor Kalba.



Brown glazed ware.



Earthenware. Figure 44 Ceramics from Khor Kalba.



Ceramics from the courtyard in the Masafi fort. Chinese blue-and-white, enamel ware. European ware. Pale green glazed ware underglaze painted black. Yellow glazed ware. Brown glazed ware. Earthenware.



Ceramics from the courtyard in the Masafi fort. European ware, Holland.



Ceramics from the courtyard in the Masafi fort. Chinese blue-and-white, Fujian province, 18-19th century.



Ceramics from the courtyard in the Masafi fort. Chinese, European and Islamic ware.



Ceramics from the courtyard in the Masafi fort. Seto/Mino blue-and-white, 19th century.



Stone ball with incised design, from the courtyard in the Masafi fort.

Figure 45 Ceramics from the courtyard in the Masafi fort



Ceramics from north-east corner and outside of boundary wall of the Masafi fort. Chinese blue-and-white, white ware and enamel ware. European enamel ware and blue-and-white. Blue glazed ware. Green glazed ware. Yellow glazed ware. Transparent glazed ware underglaze painted blue. Brown glazed ware.



A cooking pot with painted red decoration which bears 4 rugs was found near the surface of the north-east corner of the Masafi fort. Fish bones and scales were contained with the muddy sand in the cooking pot.



Figure 46 Ceramics from north-east corner and outside of boundary wall of the Masafi fort



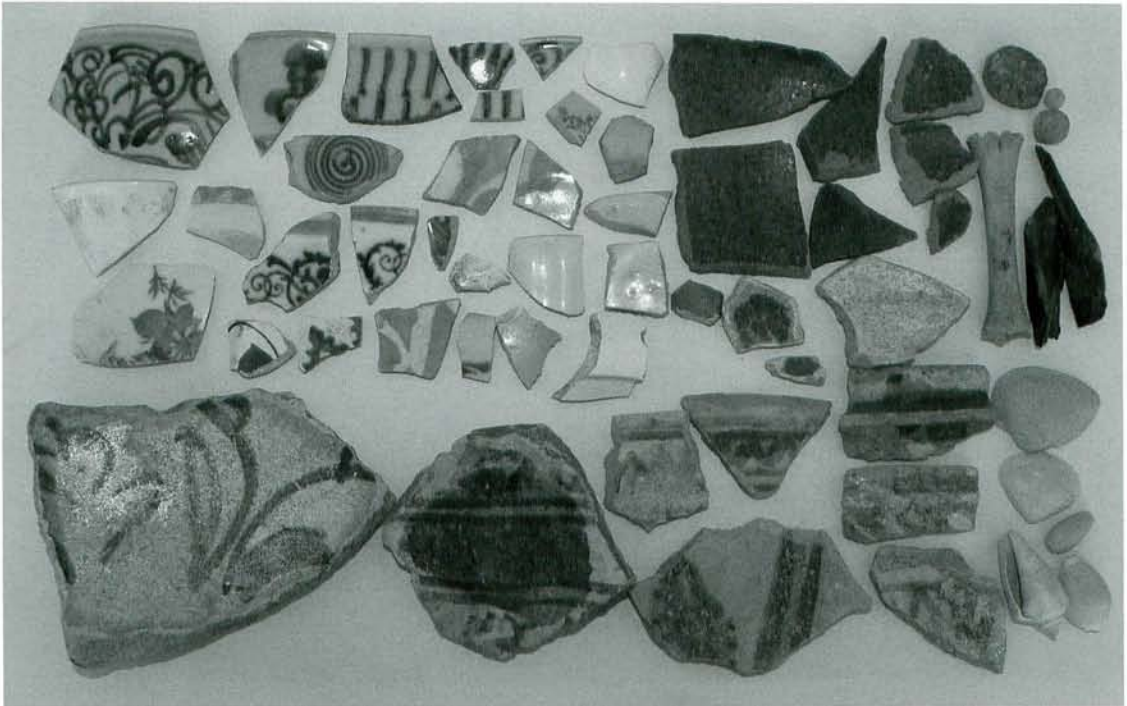


Earthenware sherds from the western outside of the Masafi fort near the House 5



Ceramics from the western outside of the Masafi fort near the House 5. Chinese blue-and-white bowl, Fujain province, 18-19th century. Holland enamel ware. Green glazed ware and pale green glazed ware underglaze painted black.

Figure 47 Ceramics from the western outside of the Masafi fort near the House 5



Ceramics from the area between Masafi fort and Masafi mosque. Chinese blue-and-white and enamel ware. European blue-and-white and enamel ware. Transparent glazed ware underglaze painted black. Green and pale green glazed ware underglaze painted black. Brown glazed ware. Opaque white ware.

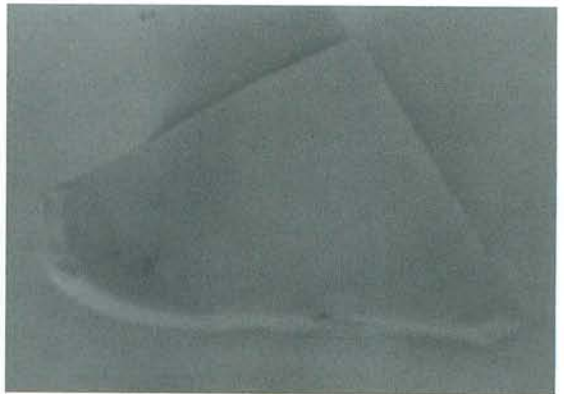
Earthenware from the area between Masafi fort and Masafi mosque. Earthenware painted red over white slip, red coarse fabric, Oman. Earthenware with incised decoration, pink fabric, Iran. Earthenware, red coarse fabric, local and Oman.



Figure 48 Ceramics from the area between Masafi fort and Masafi mosque



Ceramics from the Masafi mosque and mosque area. Chinese blue-and-white and enamel ware. European ware. Japanese enamel ware. Transparent glazed ware. Yellow glazed ware. Green glazed ware. Blue-green glazed ware. Pale green glazed ware underglaze painted black. Earthenware, incised decoration, pink fabric, Iran. Earthenware, red coarse fabric, local and Oman.

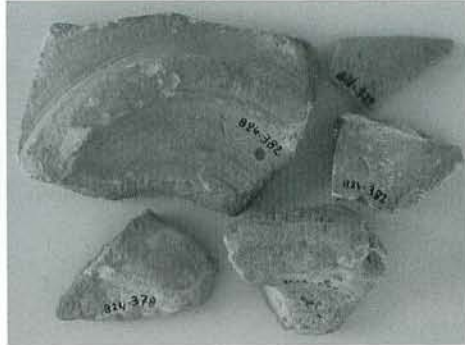


White porcelain with the mark "JFC Made in Japan", Seto ware.

Figure 49 Ceramics from the Masafi mosque and mosque area



Bithnah 24(382,378,378,382,403)



Bithnah 24(471)



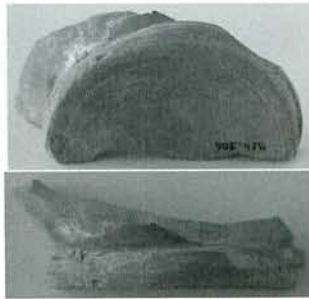
Bithnah 24(472,478)



Bithnah 24 (389)



Bithnah 24(506)



Bithnah 24(220)



Bithnah 24(121)



Bithnah 24 (473)



Bithnah 24,UF307



Bithnah 24(479)

Figure 50 Ceramics from Bithnah

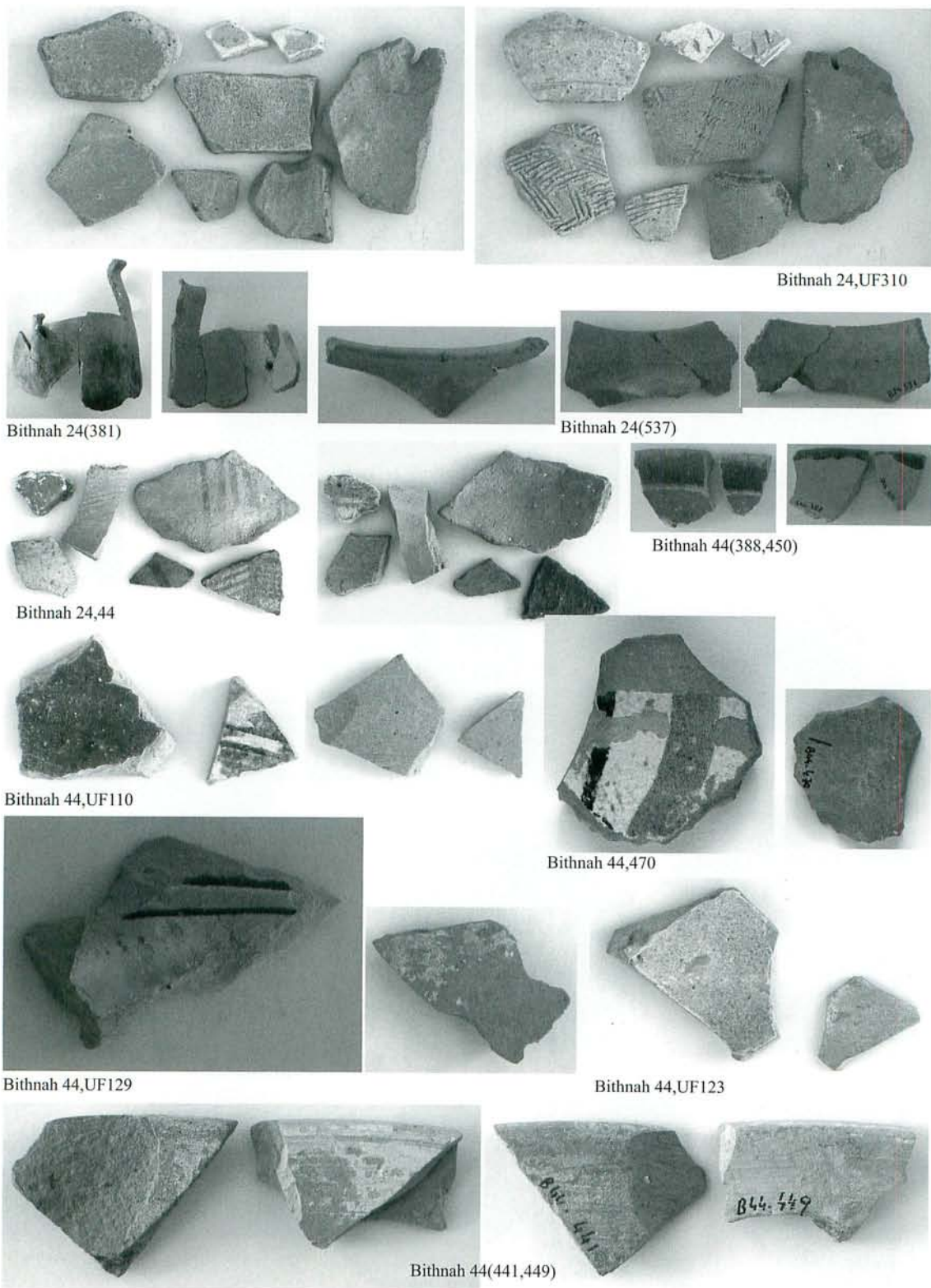
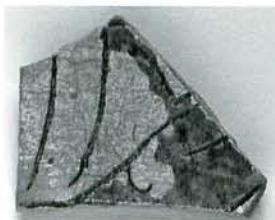


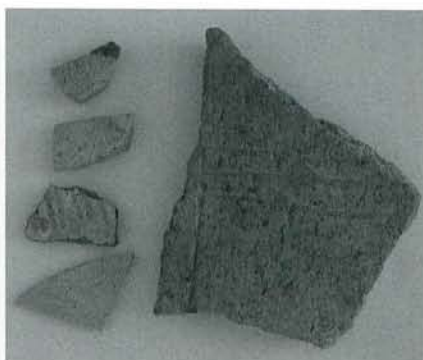
Figure 51 Ceramics from Bithna



Bithnah 44,449



Bithnah 44,UF112



Bithnah 44,UF115



Bithnah 44,UF104



Bithnah 44,UF126



Bithnah 44(440)



Bithnah 44(445)



Bithnah 44(B44,12,330,310)



Bithnah 44(357)



Bithnah 44,UF100

Figure 52 Ceramics from Bithna

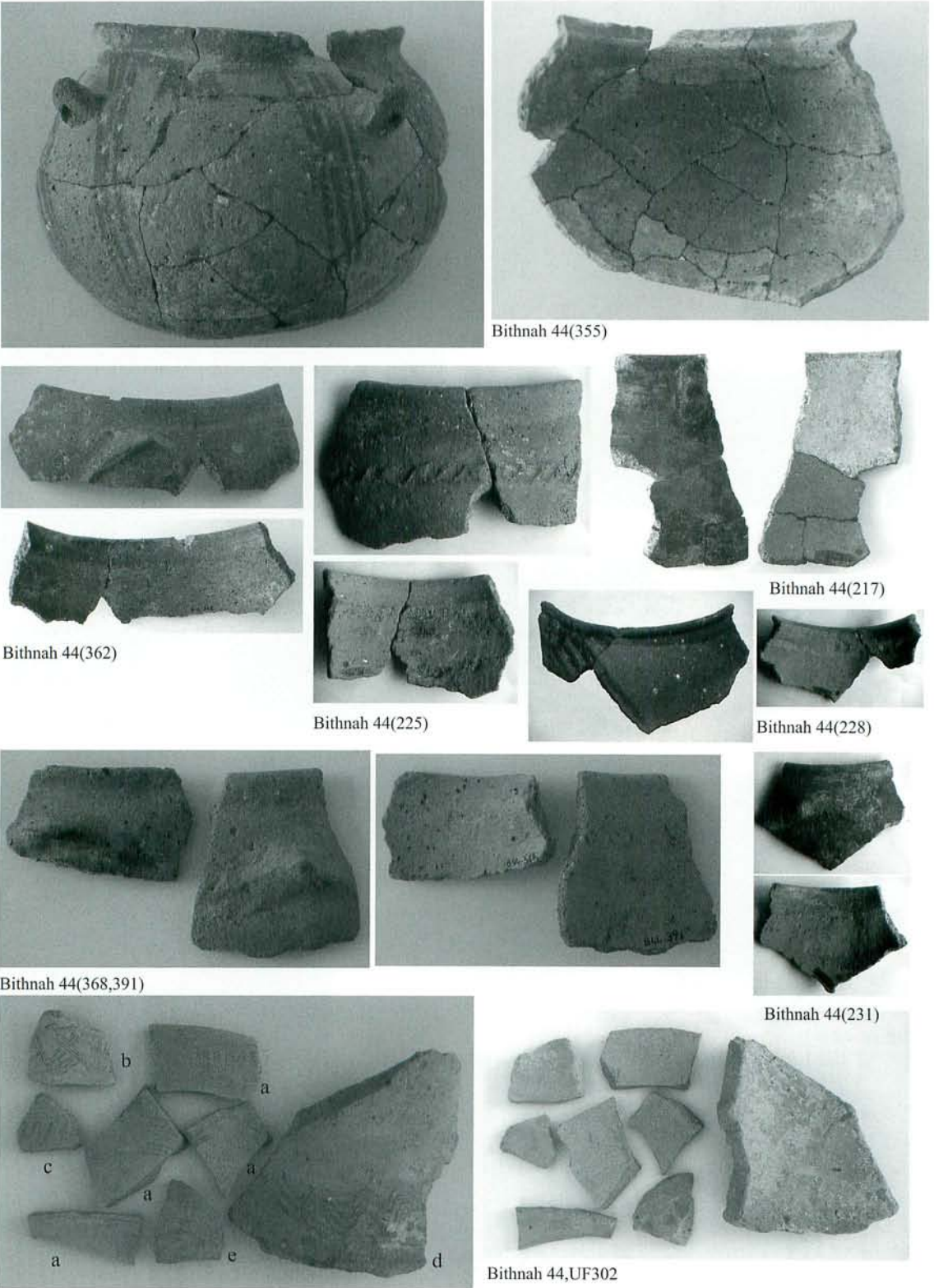
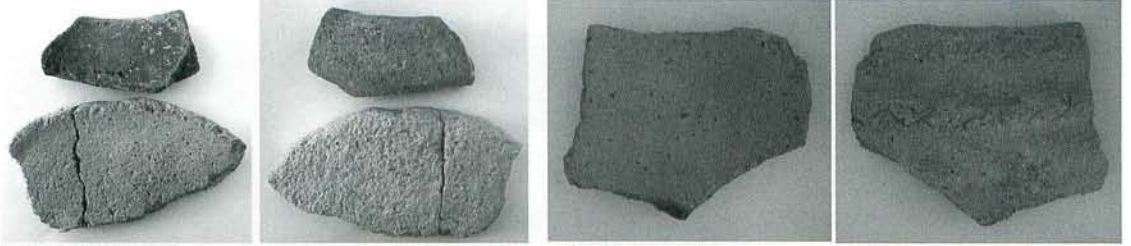
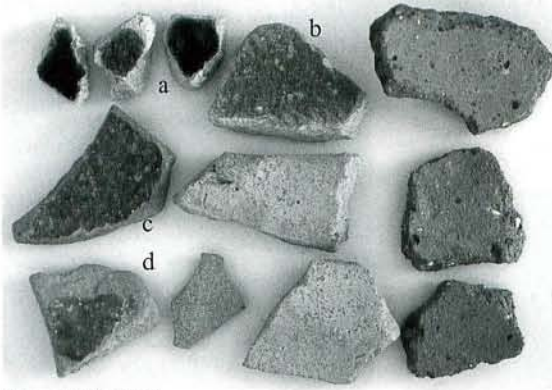


Figure 53 Ceramics from Bithnah

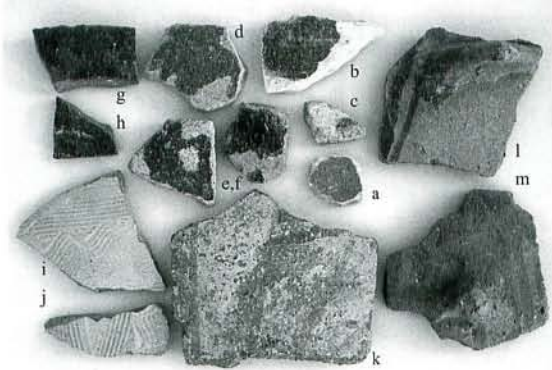
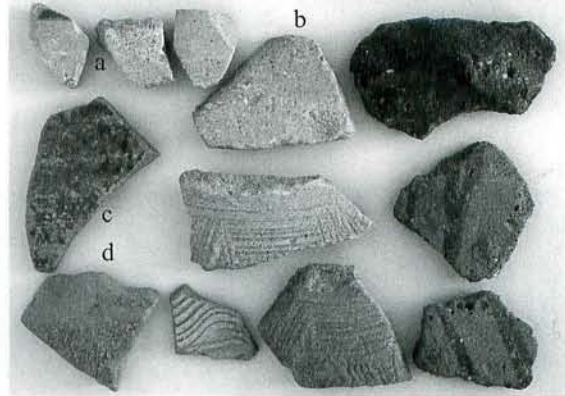


Bithnah 44(446,500)

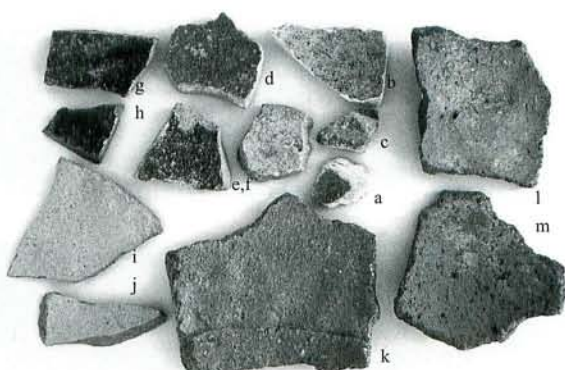
Bithnah 44,UF125



Bithnah 50,UF141



Bithnah 50,UF142



Bithnah 50,UF102



Bithnah 50(407,532,396,539,409,408)

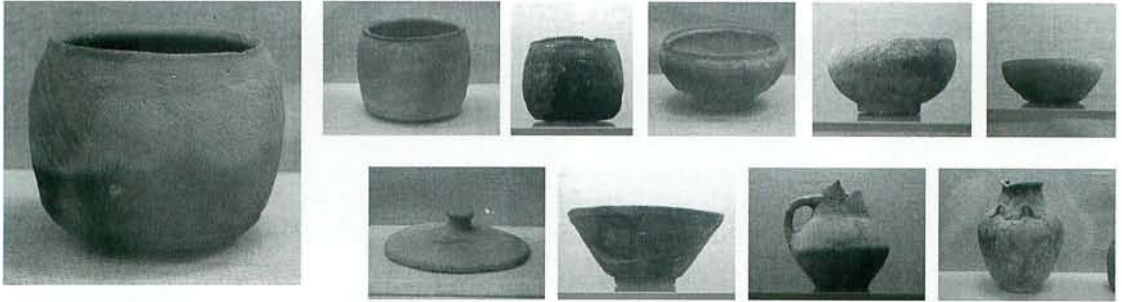


Bithnah 50(540)



Figure 54 Ceramics from Bithnah





Qidfa. Iraqi archaeological team had excavation in 1975. They found stone walled house or mosque and pottery after 16th century.

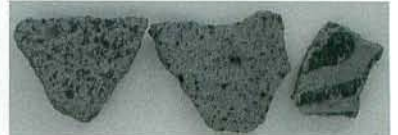


Al Hala



Salah

Masafi Fort



Awhala

Figure 55 Ceramics from Al Hala, Masafi, Qidfa, Salah, Awala